二　松花江流域

松花江の流域は、遼河の流域に比ぶれば極めて廣く、從つて其の航運し得る地域も亦廣い。卽ち南は長白山脈や小白山脈の諸水を集めて吉林省の東を過ぎ、更らに伯都納を右に見て北流するが、西方大興安嶺から東方小興安嶺までU字形に圍繞してゐる大山地から流下する諸水を集めた支流嫩江は、之に合してこゝに尨大なる大河となり、以下黑龍江に合するまでは自由に小汽船が上下し得る。かゝる大河松花江の航運に就いては、少なくとも三つの流域に分けて考察する必要がある。卽ち其の一は吉林省內を流るゝ本流松花江、二は黑龍江省內を流るゝ支流嫩江、三は合流して後、吉林・黑龍江二省の境を流るゝ大河松花江に就いてである。

吉林省內を流るゝ本流松花江の流域は、これを黑龍江省內を流れてゐる嫩江の流域に比ぶれば、地形上農業地域は極めて狹少のやうに見えるのであるが、これを風土の上から見れぼ、其の農業的價値遙かに優れてゐるばかりでなく、開墾の新舊、人口の疎密に於て其の間に著しき差異がある。之を圖上に徵しても、都邑の分布が前者に密に後者に疎なるが如きは之を證據立てゝゐる。嫩江流域の平野が農業的價値の少なき原因は、其の氣候が松花江流域に比して寒冷なるに因る事は、已に前に述べた所であるが、更らに之を農業上に立證すれば、洮南の滿鐵公所で長く氣象觀測と農業試驗に從事し、更らに齊齊哈爾の滿鐵公所で、新に氣象觀測と農事試驗に從事してゐた佐藤氏は洮南附近は氣溫に於ても雨量に於ても、南滿洲に近い氣候狀態であるから、其の農業經營も亦之に類してゐるが齊齊哈爾附近は氣溫も低く雨量も少なくまた降霜もはやいから、作物の種類も少なく從つて之に適應するやうに農業を經營しなければならない。卽ち固定種から育種法を行ひつゝ、北滿に於ける農業經營の確立を定めなければならない。

といつてゐる。のみならず嫩江沿の平野の土壤は、非農業的な曹達地帶であるが爲に、其の開墾が遲れた事もまた否み難い事實である。筆者は洮南鐵道に乘じて齊齊哈爾の南　昂々溪驛から嫩江を渡つて五廟子驛に至る間に、見渡す限りの廣漠に、茫々と名も知らぬ雜草が生ひ茂り、其の雜草の下から生地を出してゐる白い曹達地帶①を見たのである。五廟子驛の次驛泰來が、相當な町として發生してゐるのは、其の立地してゐる嫩江の支流呼蘭河沿の地味がよい爲であつて、春から夏にかけて非常に烈しく吹く西風を避け得る地形もまた泰來の發生を可能にした。かく曹達地帶であり、また沼澤の多い低濕地帶である嫩江沿の平野が、都邑の分布に於ても著しく稀疎である事は、之を其の東方の呼蘭河流域に比較しても一見明かな事であり、それが哈爾賓から昂々溪に至る東支鐵道西部線沿線に於て、各驛間の距離相當であるに拘はらず、哈爾賓から海倫に至る呼海鐵道沿線が、各驛間の距離比較的近いのにもあらはれてゐる。

註　①　かゝる土地を開墾するのに、先づ蕎麥と粟を植ゑるのは、土壤の鹽分を取り去る爲であり、雜草を枯らす爲でもある。

之に就いてはかゝる方面の研究と踏査に多大の體驗ある淸水齊齊哈爾領事も

呼蘭の小さい流域には、呼蘭・綏化・望奎・慶城・龍鎭・綏海・海倫・拜泉の八つの町があり、中にも綏化と拜泉は町も大きく活氣があるのに廣い嫩江流域としては、僅かに克山・訥河・嫩江（墨爾根）・甘南（甘井子）あるに過ぎないし、しかも夫々の位置は何れも離れ〳〵に立地してゐる。

といつてゐた。然らば、此の廣い非農業的地域は、全く開墾されずに放擲されるのであらうか。『東三省政略』を見ると、民政篇には、「避荒茫昧煙戸畸零部落散處…生計蕭條民智不開民志未定」とあり、また財政墾務篇には「雍正乾隆間始於黑龍江呼蘭黑爾根齊齊哈爾等處設立官莊屯田實爲遺境興屯之嚆矢」とある。しかし山東其の他の流民の移住によつて年々開墾されてゆく事は周知の事實であり、Walter young の如き、已に Chinese Economic (April. July. 1927.) に之を發表してゐる。淸水領事によれば

支那本部からやつて來る農民は、五月の中頃から九月の末までゝ、水路に依るものは、哈爾賓の傳家甸（純支那人町）から齊齊哈爾まで汽船で一週間、陸路に依るものは綏化・海倫・通北・龍鎭へ、また呼蘭から安達・拜泉・克山・訥河・嫩江へ、また齊齊哈爾から訥河嫩江へゆくものもある。嫩江の流域では訥河や嫩江の附近丈は二等地で農業地としては最もよく、右岸に近い方では甘南附近がよい。何れも嫩江沿ではない。

筆者が數年前に訪れた齊々哈爾には、まだ日本人の事業としては目立つものはなかつたが、農產加工業の如きは將來の廣大な農業地域の開墾に伴つて必ず促進されるであらうとする見地から、

哈爾賓の花々しい發達に眩惑して、此の齊齊哈爾の將來を逸するものは、北滿の將來を語る資格がない。

と述べたのであつた。今日の齊齊哈爾は如何に躍進してゐるであらうか。筆者は處女地域の核心としての若き此の都市に最も大きな嘱望を抱くものである。

嫩江の流域と松花江の流域に於ける、夫々の交通と文化關係を比較するに、更らに一つの添加は、松花江の流域が嫩江の流域に比して著しき差異はそこが滿洲での文化の發生地域たる遼河の流域を中心とする文化圏に接近してゐる事である。渾河の流域に於ける交通系たる陸路と水路との接合に就いては、已に述べたのであり、松花江の流域に屬する河谷が、遼河の流域に屬する河谷と、腹背表裏の關係にある事は、文化の移動上最も注目すべき事象である。例へば、松花江の支流渾發河の流域が、近年漢民族によつて開墾され、其の農產物が、所謂鞍部を踰えて、渾河々谷を下つて撫順に、また淸河々谷を下つて開原に輸送さるゝが爲に、鞍部に近い山城子が其の集散地として遠かに大市場となつた事實に徵しても明かであつて、此の農產物の輸送路に就きては黑田氏は「將來ハ鐵道布設ノ必要ヲ生ズルデアロウ」といつてゐるやうに、今日そこが海吉線と奉海線との通路となつてゐる。以上は一例に過ぎないが、奉天・吉林二省の接壤地帶としての此の地域が、古來河谷を通路としての文化の移動線であつたとする事は、必ずしも獨斷ではないであらう。

合流後の大河松花江の大河としての機能を求むべき位置は、河流と航運との見地からすると、此の流域の結節點ともいふべき哈爾賓にそれを見出すのを妥當とする。即ち我が小藤博士は、其の名論文「西比利亞及滿洲に於ける哈爾賓の位置」（『東洋學藝雜誌』三六ノ四四八）に就て、

今松花江盆地中に、哈爾賓・齊齊哈爾及伯都訥の三點を連絡せば、其の三角地域以内は百三四十米の低地にて、松花江盆地中の盆底に該當すべし。衆水の集滙する沼地（泡子）寄りの濕地平野（地文學上の Playa Region）を作し、疾に開拓され、農業熾にて人口密なり。露人此の區を滿洲の倉庫 The granary of Manchuria と激稱するは無理ならず、東清鐵道が爰を貫通する由緣は、此の倉庫物資の集配交通路たらんが爲なりとは、吾人の夢想せざりし所なり。

といつてゐるやうに、哈爾賓は、實に、松花江の支流と本流との接合を有機的になし得る好位置にある。此の好位置を利用し得たのは、實にロシア人の地理學的認識の精確な所以であり、また當年北滿に於ける探檢踏査の結果でもある。かのフランスのムーロー博士が、其の名著『近世歐洲の都市的集團』の「都市の位置に及ぼす地理的影響」に就いて、

歐洲の都市的集團の檢討に先つて、我々は一般的に都市的集團の形成に於ける地理的關係を注意して見たい。都市の位置は、事實に於て　純粋な偶然的出來事や有名な建設者の自由意志によつて決定されるものではない、其の位置は自然其のものに從ふ。位置のまだ存在しない地域の地圖を研究する者は、其の地域が一定の人口密度に到達する時に、都市の位置すべき所を豫め決定する事が出來るであらう。人間を集中せしむるに最も與つて力あるものは、交通を容易ならしむる海とか河流の利用とか、平野地域と山嶽地域との出會つてゐる所とか、種々なる地質的形成の出會つてゐる所などの自然的影響であらねばならない。

といつてゐるのは、處女地に勃興した哈爾賓の都市的發達の爲にいはれたものといつても過言ではあるまい。即ち農業地域に立地してゐる哈爾賓は、東支鐵道や呼海鐵道や昂洮鐵道や四洮鐵道の連結によつて、更らに森林地域と牧畜地域との接合點に立ち、益々其の自然的位置に轉向して大河に沿つてゐる大きな河流としての職能を果たしつゝあるといふべきである。

三　生活形態

滿洲は大陸的な地域的特質を有つてゐるばかりでなく、其の人文的特質を構成する要因としての民族的構成に於いても、また大陸的特質即ち民族的交流の特質を現はしてゐる。滿洲は其の名稱の示す如く滿州人の原住地であつた。が今日の滿洲は支那本部から移住して來た漢民族が最も主要なる構成要素をなしてゐる。蒙古人もまた之に次いで重要なる一つの構成要素である。しかし日本・朝鮮・ロシアからの移住と其の經濟的意義は、移住の時期が比較

的新しいに拘はらず、現代滿洲に於ける生活形態は、滿蒙二民族と共に重要な意義を有つてゐる。

此の滿洲に於ける新國家の急激な構成は、其の認識を我が國に強要した。我が國民は多くの刊行物によつて、其の認識を急いだ。しかし島嶼日本に國する我々は、遽かになした讀書によつて大陸滿洲に對して果してどれ丈の認識をなし得たであらうか。我が日本が有つ島嶼としての生活環境は、外敵から侵かされない地理的位置としては幸ではあつたが、國際的認識に就いては極めて不利であつた。

筆者は最近十年間、或は朝鮮總督府の囑を受けて朝鮮の村落並に都市の踏査に、或は滿鐵や對支文化事業部の囑を受けて、滿洲の村落並に都市の踏査に從事したのであるが、かゝる體驗からして、我が國民が最も近接してゐる朝鮮並に滿洲に對して極めて無關心であつた事を見聞してゐる。故に急激な政治的變化によつての滿洲に對しての認識の強要によつて、どれ丈正しき理解を有ち得たかを疑つてゐる。

筆者の信ずる所では、最も正しい認識は、先づ其の生活形態を基底としなければならない。生活形態に對する認識なくしては、如何に精密な地圖に對して、其の自然並に人文に關する精確な智識を修得しても、それは砂上の樓閣に過ぎないであらう。滿洲の地理歷史乃至產業交通に關する數多の新刊の文獻は、已に讀者の机上にあるであらうが、是等の中から、其の生活形態に關する要素を摘出し、それを地域的に民族的に排列整理する事が、滿洲認識に對する我々の基礎的作業でなければならない。筆者に與へられたる僅少の紙面に於ては、僅かに生活形態に就いての一基準として、其の過程が、如何に此の大地域に於ける民族的交流と錯綜してゐるかの一斷面を描寫するにとゞまらざるを得ない。

今日滿洲の民族的構成の主要部を占めてゐる漢民族の生活形態、殊に其の大部を占めてゐる農民の生活形態は、滿洲の生活形態の考察上最も重要なものである。滿洲の如何なる地域が彼等の最初の生活環境であつたか。それはいふまでもなく、交通上最も近くまた風土の最も適順なる遼東半島である。卽ち『周禮』職方志に「幽州の地其の利魚鹽其の畜四擾に宜し」く其の穀三種に宜しとある。四擾とは牛馬羊豚の四畜をいひ、三種とは黍・稷・稻の三穀と註記してある。されば古の幽州地方は春秋戰國以前に、農耕牧畜が行はれてゐた事が確かである。遼金角逐時代から元朝にかけて、農耕衰へて遊牧盛んに、明朝の頃にも農業はあまり振はなかつた。清朝になつては、漢人の侵耕を嚴禁して滿洲の土地をば滿洲八旗の采邑とし、武功を誇つて農耕に重きを置かない政策であつたから、漢人は僅かな旗人の小作人として生活する傍、荒地を開墾して其の耕地を廣むると共に、穀類の增殖をも企てた。それは乾隆帝の盛京土產雜詠十二首の筆頭に五穀の一首が置かれてあるのに徵して、二百餘年前に、南滿洲に黍・稷・陸稻・高粱・大豆・小豆の五種が耕施された事が明かである。しかし乾隆時代の農業地域は、また開原以南の遼河・太子河・渾河・大凌河の諸流域と、遼東半島の西側蓋平・復洲・金州などに過ぎなかつた。當時は朝鮮接壤の安東縣、蒙古領の洮南・昌圖の二府や、吉林・黑龍江二省の土地は、依然漢人の耕作が嚴禁されてゐた。

しかし我々の見逃してならない事は、このやうな禁耕も、進展性の強い漢民族に對しては、何等の効果をも奏さなかつた事である。かの山海關から北東方に遼河の中流域開原の北を横斷し、長春の東方から遠く松花江の中流域に達する邊柵、また開原の北方から渾河の上流域を横ぎつて、鴨綠江岸に達する邊柵は、もと漢人の侵耕を防ぐ爲に築かれたものであつたが、漢民族の進耕は寧ろ其の外邊に出てた。稻葉君山氏に據れば、

山海關ヨリ吉林方面ニ興京方面ヨリ鴨綠江ヘト聯絡スル一大邊柵ハ、封禁政策ニ胚胎シタモノデ監守ノ嚴往來ノ禁ハ水モ漏スマイトシタ。然ルニ此ノ目的ハ美事ニ壞ハサレタ。其ノ徑路ハ漢人ハ邊柵ノ禁ヲ嫌ヒテ其ノ地ニ近ヨラズ邊柵ノ外緣ヲタヨツテ遠ク東蒙ノ野ニ進出シタ。滿洲ノ發達ニ理解乏シキ人ハ滿洲ハ北京ニ近イ遼河平原ヨリ開ケタカニ思フモノガアルガ、事實ハ長春平野ヨリ開ケタノデアル。官憲ノ山海關ヲ嚴守シテ居ル間ニ、支那人ノ一群ハ大迂廻ヲ行ヒ背面ヨリ攻擊ヲ開始シタ。ソレハ武器ニ非ス鍬ノ先ナリ兵力デナク經濟力ナリ。

（『滿蒙拓殖策研究』）

此の「鍬ノ先」は、滿洲に於て移植に成功した大原因であつた事はいふまでもないが、滿洲の移住農民の大部の鄕土が、山東を始め、直隷・山西等であるから、長く北支那の風土に順應したものが、風土の類似してゐる滿洲への移住、即ち類似した生活環境への順應の可能性も其の成功の大原因である。例へば農業技術の點から見て、農作物と其の耕作法とが、北支那と似てゐる滿洲に於ては、在來の農法・農具が最も合理的であるといふ事が、專門家が多年研究の結果一致する所であるといはれてゐる事から推しても明かであらう。

かく滿洲の風土に適應した農民の中で、普通地主とよばれてゐるものは、百晌即ち我が七十町以上を所有するもので、これらは數十戸の小作人に分作させてゐる。更らに大きなものは千晌即ち我が百町歩以上を所有するものであるが、これらは、南滿洲には少なく蒙古旗界や松花江流域にある。日本の自作農にも比すべきものは十晌即ち我が七町歩位を所有して自耕自食してゐる。是等の生活形態の觀察は、短き期間の觀光者としては、困難ではあるが南は大連から奉天を經て長春に至る車中からでも、幾分之を觀察し得る　殊に眼界狹き遼東半島に於ては、好晴續く秋收獲時の車窓から、農家の作業しつゝある形態を一瞥し得る。農家の家構が、南から北するに從つて、其の建築材料が石から土に變じ、屋根も南滿には瓦が見られるのに北滿は平房と稱する泥屋根の多いのは、木石の少ない風土が其の重因であらう。中でも我々の目を引くものは窩棚とよばるゝ堀立小屋であつて、高粱の稈でつくられた一枚のアンペラを屋根にしてのこの堀立小屋に於ける生活は、生活の簡易さの中に不斷の勞働を示してゐるばかりでなく、窩棚なる地名が、南は遼河の流域から北は松花江の流域に散見する事によつて、滿洲に於ける漢民族の開墾の先驅者としての農業移民の足跡が、此の大陸的な農業開發にどれ丈の役割を演じてゐるかを立證するであらう。

是等の農民が村落集團を構成するに、如何なる形體を取りつゝあるか。殊に匪徒の多い滿洲としては、其の生命

財産の自衞のために、我が國の村落のそれに比して、極めて防禦的に構成されてゐる事は當然であり、それが經濟的に餘裕あるほど防備に力を用ゐてゐる事は、筆者が奉天の近村を①踏査した時に屢々實見した所である。

村落集團の構成の特質は、人文地理學の研究問題として今日國際的に課題されてゐるが、村落居住の二大別即ち集村と散村の地理的分布は、滿洲に於ては如何になつてゐるか。少なくとも其の平面體形丈でも、實測に基いた大きな地圖があれば研究し得るのである。是等も新國家組織の確立するにつれて、公刊さるゝに至るであらう。かくして滿洲の社會形態の正しき認識も、基礎的に築き上げられるであらう。

（註）① 奉天の西方約七里餘にある部落侯三家子は、山東省から侯主劉の三姓が移住して開墾した所で、もと新興屯といつた。南北に短く東西に長く稍々南に傾斜して低濕地に臨んでゐる。四方土塀を回らし、塀の外側に新しく空溝が掘られ、北西南の三方に門が設けられてあるが、他部落との交通上一番重要な北門には、夜間に之を閉づる時刻が書かれてある。村の眞中を東西に通じてゐる主路の幅が、同じでないのは、村の自然的發達を物語つてゐる（主路の北側には三姓の大家が多い）。村々に必ずある關帝廟は中々立派で、其の側には學校・駐在所・役場がある。村長は王氏で、附近三十數ヶ村を通じての模範村長で、其の家構も立派であつた。

侯三家子の北東約二里にある部落訥木渾は、滿洲旗人の開墾した部落で、筆者の見た佟氏十一代の孫が開墾した所である。當時皇帝は旗人に對する特典として、任意に適宜な荒地を占領し、旗を以て識し以て上告すべしといはれたのに從つたものである。佟氏の住家は普通の村には見られない大きな家構で、四五十年前までは一門二百餘人も同居してゐたさうである。今でも五十人近くも同居し、家族五組の外に苦力も居た。

滿洲の村組織は、村の中心が主路が十字路になつてあり、東半を東街西半を西街、後半は後街前半を前街といひ、何れも南向となつてゐる。關帝廟は村が相當に發達してから出來る。

漢民族が構成してゐる農村の生活形態は、略々以上の如くである。これらの村落は其の生活の必要上、村落商業また村落工業が發生してゐる事は當然であるが、それが如何に分布し、如何に特色づけられてゐるかは、相當廣い地域に就いての踏査及資料の蒐集を待つて記述するの外ない。

朝鮮人が吉林省に最も多く　奉天省には之に次いでゐるのは、水田經營の小作農としてゝあつて、其の生活形態は、大體に於て、地主としての支那農民に依存してゐる處が多く、從つて其の生活の安定必ずしも企圖されてゐないのは、其の救濟問題が終始起る事でも明かである。また我々の同胞の滿洲に於ける居住は、從來殆んど都市に於ける商工業者である。しかし是等の商工業者が、夫々の都市に於ける漢人の商工業者に對して、常に優越な立場を有ち得るであらうか。筆者が、昭和二年の夏滿鐵の囑を受けて、滿鐵の主要都市を南は旅順・大連から北は海拉爾・滿洲里、東は哈爾賓・吉林、西は洮南・鄭家屯を踏査した際、重要都市に於てゝさへ、特殊の商工業にあらざる限りそれが壓迫され勝であつた事を聞いた。當時殊に調査を委囑した奉天地方事務所勸業係の調査「奉天附近附屬地内に於ける中國人の現勢」（昭和四年六月）に據れば、

附屬地內居住の中國人の增加率は、二二年間（明治四〇年—昭和三年）に於て約一九倍に及んでゐる。之を日本人と比較するに、明治四〇年—四四年に至る間は日本人が增加し、大正元年より六年に至る期間は支那人が增加し、八年より一二年に至る期間は一進一退であるが、大正一三年以來は支那人が增加し、殊に最近の增加は著しい。附屬地に於ける中國人が日本人に比して活動的なるは、總人口の有業者の割合によくあらはれてゐる。卽ち有業者率は總人口中四九％五なるに、中國人は三一％二、日本人は一七％六、朝鮮人は僅かに〇％七である。之を職業別に見るに、商業及交通業は六〇％〇を占めて最も多く、鑛業及工業の一九％一之に次ぎ、公務及自由業は更らに下つて一一％七に過ぎない。之を日本人と中國人に分けて見れば、日本人は一九％六なるに、中國人は三九％七で著しい差異を示してゐる。殊に日本人の商業は、殆んど何れもが、孤立の經營であるのに、中國人は共同の利益を擁護する目的から成立つてゐる同業組合がある。また勞賃にあらはれた日中兩國民を比較するに、中國人を一〇〇として算出すれば、日本人のは、

最高	二二〇	普通	二三一
最低	二一四		

で、其の能率は精神勞働では日本人の勞働は中國人の約三倍であるが、然らざるものは、中國人の方が能率が高い。要之奉天附屬地內に於ける中國人の勢力は、豫想以上大なるものがある。卽ち最近に於ける人口の增加は日本人のそれを凌駕し、殊に男子の增加に於て甚しく、有業者率は日本人に倍加してゐる。諸團體の基礎も亦確實であるばかりでなく、其の商機の敏なるが爲に、附屬地內の商權は漸次其の手中に歸せんとしつゝある。のみならず、生活標準の低い彼等は、日本人をして「疊敷でさへ中國人の侵入を防ぐに途なき狀態」にある。

新國家滿洲國の成立と共に、新都新京は、あらゆる方面に活氣を呈してゐるであらうが、從來奉天ほどに進展してゐない日本人の經濟的活動は、此の新京に於ては如何なる企圖によつてそれが進みつゝあるか。筆者は最近の情勢を明かにし得ないけれども、それが統制ある企圖によつてなされなければ、恐らくは奉天の如き狀態に陷るであらう。

なほ最近唱導され、また實行されつゝある我々同胞の農業移民が、將來の滿洲の生活形態に及ぼす影響は、注目すべき大きな現象であるが、生活形態を明かにすべき一基準として、其の過程が如何に民族的交流と錯綜しつゝあるかを、大觀する事を目的とする本節に於ては、此の新たなる生活形態は、寧ろ今後の問題として研究さるべきである。

たゞ現在から將來にかけての滿洲の生活形態の進展は、從來よりもそれが更らに民族的交流の錯綜を餘儀なくされる事は明かである。滿洲に於けるロシア農民の生活形態に就いては、筆者は親しく觀察するの機を得なかつたが、大興安嶺附近から海拉爾を經て滿洲里に至る車中、屢々ガッシリしたロシア風の農家の獨立家屋が、耕地を中心として立地してゐるのを見、また當時海拉爾を中心として、ソヴェット政府が相當に活躍してゐた事を見聞し

た事から推せば、ロシアやシベリアの風土に對する北滿の農業經營を基調としてのロシアの農民の生活形態は、新國家の農業形態を科學的に成長するが爲には、重要な一つの課題であると信ずる。たゞ筆者は、此の課題に對して讀者に語るべき明確なる資料を有たない事を遺憾とする。

（註）② 侯三家子を踏査した時、北西約二里にある西公太堡の一部落五間房にある東亞勸業公司經營の水田と、其の小作人たる朝鮮人の生活を見たが、其の共同長屋は、筆者に極めて陰慘な感じを與へた。また離れた一民家は溫突一間に過ぎない小さな家で、公司からは三百餘元の負債がある。しかし同じ部落には溫突二間の住家の外、左方に倉庫用の別棟があり、右方には副業をする爲の新しい一棟が建てられつゝある一民家を見出した。住家をのぞいて見ると、溫突の入口の障子の一隅には、筆者が數年間朝鮮の村落を踏査した際に、見なかつた空氣拔が壁と梁との接合してゐる處に造つてあるし、住家に沿うて廂を設けてあるなど、生活樣式を出來る丈、生活に都合がよいやうに工夫してある。

之を要するに、生活環境と居住關係の原型が、廣大な滿洲の各地域に於て、風土上・產業上・民族上、更らに近代的經濟機構上、それが如何に變革されまた如何に創造さるべきか。これは滿洲國の生活形態の將來に於て、我々の最も關心を有つべき問題でなければならない。

四　近代的都市構成

滿洲の主要都市の特徵は、鐵道の開通によつて、城郭都市が近代的都市化された事にある。

奉天に於ても新京に於ても、舊來の城郭都市の大部は、傳統的な都市的構成をなしてゐる。卽ち其の城郭また其の中の住宅地域・商業地域など、何れも民族的色彩が濃厚に溢れてゐる。試に『滿洲地誌』（明治二十七年）の奉天を見るに、左の如く描寫されて

城內ニ天壇・太廟・五部等ノ官衙及文廟・學宮・閱武場・盛京將軍、奉天府・尹等ノ衙門アリ、…外部トノ間ノ郭內ヲ外關市街トシ、市店鬻ク所ハ獸皮・烟草・菜種・雜穀等ヲ大宗トス。大ナル商賣ハ多ク此ノ中ニアリ、就中錢舖及穀物舖ハ賣買ノ大ナルモノトス。

城郭城市の面影が偲ばれるが、其の近代的都市としての構成は、此の城郭城市から西方鐵道に接しての區劃整然たる所謂附屬地と、其の間を連絡する地域に所謂商埠地から成立つ。城郭城市と商埠地と附屬地とを合せて、中國人が最も多數である事は勿論で、約二十萬（大正三年）の中十九萬五千を算し、日本人は僅かに六千餘、朝鮮人は三百餘、其の他外國人は約百七十である。商埠地は我が居留地に等しきもので、各國領事館・支那交涉局其の他、內外商店の所在を主とし、附屬地は、我が關東都督府の管轄に屬し、滿鐵では、土地・土木・衞生・敎育等を處理し、關東都督は警察權を握つてゐる。附屬地の都市的形體並に其の外裝は、城郭城市に比ぶれば、一見近代都市的ではあるが、其の住民の比が、日本人が五一%に對して中國人は四五%であり、しかも日本人の在住者は中國人のそれに對して、比較的に公務及自由業者が多く、之に反して中國人に極めて少ない。使用人及其の他が合せ七%三であ

るから、戸外に於ける支那人の活動殊に人力車夫・馬車夫の往來の多い事が、附屬地でさへ支那的色彩を濃厚にする。新京（長春）の城郭都市と商埠地と附屬地の構成狀態に就いては、奉天に比して一言する必要がある。即ち長春の地理的位置に就いては『滿洲地誌』にも

此ノ地ハ蒙古郭羅斯前旗ノ所領ニシテ土地開濶且沃饒ナリ。往昔人民此ノ地ニ來集スル者多キヲ以テ、遂ニ嘉慶五年始メテ理事通判一員ヲ以テ刑名錢穀ノ事務ヲ管埋セシメタリ。爾來人民次第ニ繁殖シ、現今ハ人口十萬餘に至ル商賣雲集家屋櫛比ス。吉林黑龍江二省ノ物産ハ大概此ニ輻輳セリ。

と言つてゐるが、市街圖を見ても、其の充實さが看取される。筆者の記憶を辿つても、其の商埠地の商況が頗る活潑であつた。こゝに集散する農林産物で、高粱・粟・材木・麥粉が、發送に於ても沿線各驛を通じて、首位か次位を占めてゐるのに徵しても、其の商況の動きを知り得るであらう。

外に廣い農林牧地域に立地してゐる關係上、開原は殊に世界的主要農産物の集散地となり、爲に、これを取扱ふ糧棧即ち穀物問屋の規模の大きなものが多く、それが夫々家構上にもまた商業組織並に居住樣式の上に特色ある事は筆者の觀察した所であり、吉林の山紫水明の環境が、日本人をして「滿洲の京都」とよばしむるばかりでなく、其の林産物の集散が、都市の一部に「木道」をつくつた痕跡や、河岸に沿うて木廠の多い事、また鄭家屯や殊に海拉爾と滿洲里とは、牧畜地域の中心都市なるが故に、其の家構にも牧畜し得るやう特色が見られる。即ち住家と住家の間の狹い路次の小さな門からはいると、中は廣い中庭になつて、そこに畜類を飼ふやうになつており、晝はこれを放牧し、夜は之に休ますやうになつてゐるなどの特徵がある。

若き都市としての構成は、洮南の如き其の適例であつて、嫩江に注ぐ洮兒河の南岸近くに立地してゐる此の町の周圍を繞つてゐる土壁の北側近くにあるサチガイモト即ち楡の古木の姿は、明治初年頃に漸く開放された此の新開墾地の事であるから、見渡す限りの放牧地の中をたど〳〵しい旅人達が、小高い丘に立つてゐる此の楡の木を行手の目標とし、また夏の旅には其の樹蔭を休場とした事を物語つてゐる。其の後附近が開墾され、それが洮兒河の河運と相待つてこゝに新都市を生み出すに至つたもので、もとは畜産物の中心地であつた此の町は、今は反つて農産物の集散地となり、井然たる都市計畫の中でも、興隆大街のやうに、商業の活潑々地たる處もあるが、また廣い草原の中にポツ〳〵民家が散在するに過ぎない處もある。

我々日本人に最も馴染深い南滿の大連と、比較的知られてゐる北滿の哈爾賓とは、滿洲に於ける純粹の近代的都市、また共にロシア人のプランによつて企圖された都市としても、併せて一言する必要がある。たゞ筆者に與へられた紙面は、殆んど盡きてゐるのと、此の二大都市に就いての文獻は比較的得やすいから、其の要點を簡述するにとゞめよう。

大連が不凍港としてロシアに着目され、其の第一期の工事が終つて第二期の工事に移る時、日露の戰役が動い

て、終に我が國の支配に歸するやうになつた。これに就いて我々の記憶すべき事は、かのウイッテ將軍は衆議を排して、旅順を軍港とし大連を商港とした事と、また埠頭建設者が、其の退却に對して、愛兒のやうに周到の用意と努力とを以て見守つた此埠頭を微塵に壞すに忍びず、形式丈の破壞を以て我に致した事である（以上、滿鐵編『旅行案内』）今日の街衢の區劃は、概ねロシアの設計を踏襲したもので、それが圓形の大廣場を中心としてゐるは、パリーのそれに模したものだといはれてゐる。其の完成は大正四年旅順と共に自治都市となつてからの施設によるもので、其の埠頭が他に比して特長とする處は、一千噸以上の船舶に强制水案内を附せしむる事と、發着手數料以外、岸壁料乃至水先料は會社の負擔若くは無料とし、埠頭荷役を直營としてゐる事である。

哈爾賓は、其の發祥を東南の舊哈爾賓とするが、都市生活の全體から見れば、新市街は其の中樞で驛に接續しており、新舊二區の間には狹い馬家溝が流れてゐる。これは松花江にも增して夏は納涼に冬はスケートに利用されてゐる。新市街にしても埠頭にしても、純ロシア街にベンチの多い事は、散歩好きなロシア人の習慣からだと聞いた事があるが、これは、集約農業に反する有畜農業に伴ふ習慣から來たものではなからうか。而して此の新舊市街は所謂山手であるのに比して、松花江に沿うた下町には、西部に埠頭があり、東部に傅家甸がある。以上は地形的の分類丈でなく、觀察しての實感である。小藤博士の論文に、「モストワヤ街は繁華にて埠頭の銀座通なり」といはるゝ通である。殊に其の西方のキタイスカヤ街は、純ロシア町であるのに反し、傅家甸は純支那人町で、二十餘年前に、ワットソン氏は、

此處は鐵道布設の結果として生じたもので、夙に支那行商及勞働者の居住地で、線路區域内のロシア人居留地に其の生活方便を得つゝあり

といつてゐるが、今日は寧ろ他の商業地區を凌いでゐるほどの殷賑を示してゐるのは、商業に敏なる支那人の本質にもよるであらうが、哈爾賓の廣大な背後地の開發が、またそれを然らしめたものであらう。此の都市が、國都である新京と共に、特別市制を布かれたのは當然の事である。

五　民族と國家

已に朝鮮に就て述べた「民族的交流地域」なる言葉は、滿洲に於ては、それがより複雜化し、其の民族的構成は古來こゝを鄕土としてゐる滿洲民族を始め、日本民族・漢民族・朝鮮民族・蒙古民族・スラブ民族等から成立つてゐる。故に、新國家滿洲國の統治は、所謂五族共榮を國是として遂行されつゝある。これを社會構成の上から見れば全人口の八割以上を占めてゐる漢民族は、滿洲の社會文化の中核を生成してゐるから、其の建國の樞機に關與し、現に國政の燮理に當つてゐる我が同胞は、常に漢民族との協和に意を致さなければならない立場に置かれてある。先年滿洲に行つた時に、ふと『華人ノ觀タル日本人』といふ小冊子を手に入れたが、其の中には日本民族と漢民族

の行爲の長短など思ひ切つて述べられてあつて、今日なほ服膺すべき事が、數々あげられてある。日本民族と漢民族の接觸は、一層緊切になつてゐる現在としては、共に長短相許す寛容の態度に出でねばなるまい。左の數節は、永尾龍造氏が十七年前(大正十一年)其の著『支那民俗誌』の例言である。

滿洲位、我が同胞に誤解されて居る所はあるまい。又支那位、我が同胞に親しみの少ない國はあるまい。我が同胞の眼は皆歐米に注がれ、心は皆その方へ引かされてゐる。日本に在る同胞は勿論、現に支那に來て居る人がやはりさうである。憂ふべき事である。

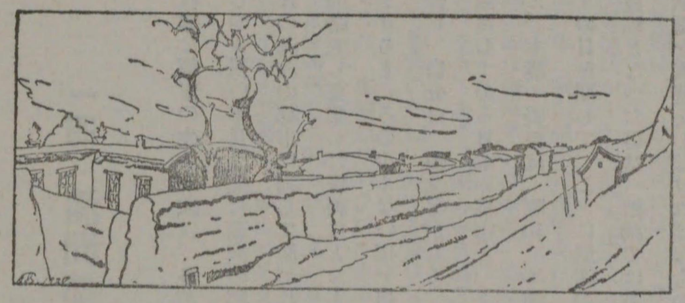
十七年後の今日、かゝる憂はないであらうか。滿洲に於ては、我々は現に漢滿兩民族と手を握つており、支那に對しては、事變以來戰ひつゝあるのであるが、北支に於ては已に文化工作にはいつた。かくして、滿洲の風土と生活形態を理解した我々は、更に支那の風土と生活形態の理解に進まなければならない途上にある。しかし此の風土と生活形態の理解は、頭と心とを一にして實踐するのでなければ、それは楯の一面をのぞく結果に終るであらう。

一四　滿洲都市生活の特質

複雜な都市の生活現象は、多角的であるだけ、これを觀察する要點も亦多樣であり得る。殊に廣い風土の上に立地しつゝ長い年月を經た滿洲の都市への考察方法は、寧ろ盡くる所なしと言ひ得るであらう。

此の滿洲の都市に對して注がれた自分の視野は、代表的な都市を人文地理學的見地から、夏のシーズンに、一箇月間踏査し蒐集した資料にとゞまつてゐる。殊に本篇は、短時間に、所定の頁數に綴つたものであるから、語つて盡きざるところの少くない事を自分も氣が附いてゐる。

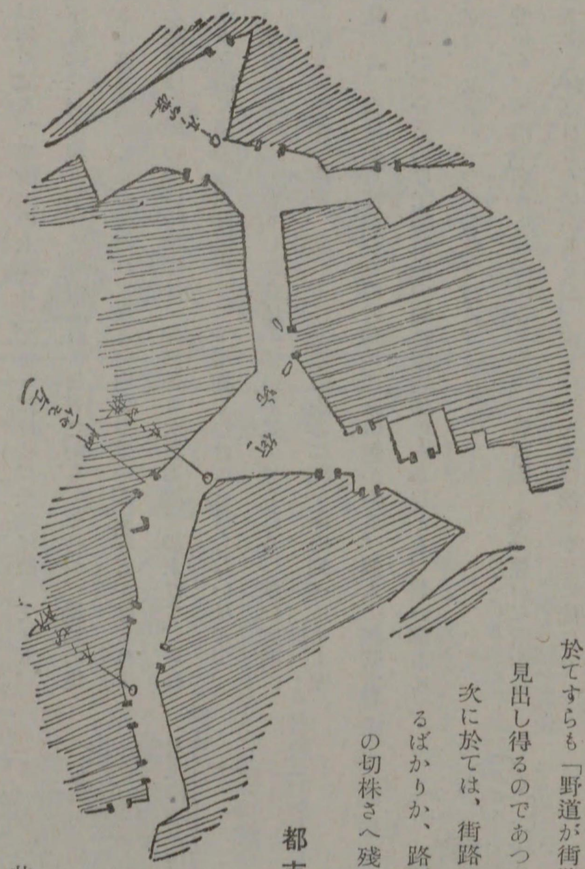
併し、自分は、短文ながらも、本篇に於て、滿洲の都市の發生と其の舊さと進展性と生活と防備と風景とを、常に觸目してゐる日本の都市と、また數年間踏査した朝鮮の都市とを比較しつゝ、其の特異性を明かにするやうに努めた。本篇の資料は、昭和二年滿鐵情報課(石本課長、加藤新吉、田口稔二氏)の委囑によつて、蒐集したもので、他日編んで一書を成すの日を期して、こゝに感謝の意を明かにしたい。新滿洲國の突然な成立によつて、此の地域が一層我が國民の注目點となつた事は、結構ではあるが、其の人文地理學的考察は、風土を異にし民族を異にしてゐるだけ、微細な生活觀を基礎としなければならぬ。此の見地から、此の短篇は讀者に「或る物」を示唆するであらう。



第一圖　都市の生立つた核

都市發生の萠芽

洮南の町は、嫩江に注ぐ洮兒河の南岸に近い一段と高い所に立つてゐる。此の町の周圍を繞つてゐる土壁の北側に近い民家に圍まれたサチカイモト、即ち楡の古木の姿は、「都市の生立つた核」第一圖としての貴重な史料として滿洲都市巡禮者の目を惹く。此の附近は光緒（明治初年）の初頃に漸く開放された新しい開墾地だつたから、遊牧地であつた當時は、小高い丘の上に繁つてゐた此の楡の大木は、どんなに旅人の行手の目標となり、また夏の旅には其の樹蔭はよい休み場であつたらう。是等の旅人相手に出來た一軒か二軒の茶店はこゝでの最も舊い人類集團であり、それは附近の土地の開墾と、洮兒河の舟運とが、こゝを附近地域の經濟的中心としての都市の發祥地とした。はじめは畜産物の集散地であつたのが、今は寧ろ農産物の大きな集散地となつたのも、都市としての發達過程を物語つてゐる。新しい都市には、かく目のあたり其の發生の萠芽其の物の原形を見出し得るばかりでなく、道路に



第二圖　野道が街路に

於てすらも「野道が街路になつた形態」第二圖を見出し得るのであつて、新しい都市鄭家屯の路次に於ては、街路の形體が、野道其の儘であるばかりか、路面に凹凸が多く、處々に木の切株さへ殘つてゐる。

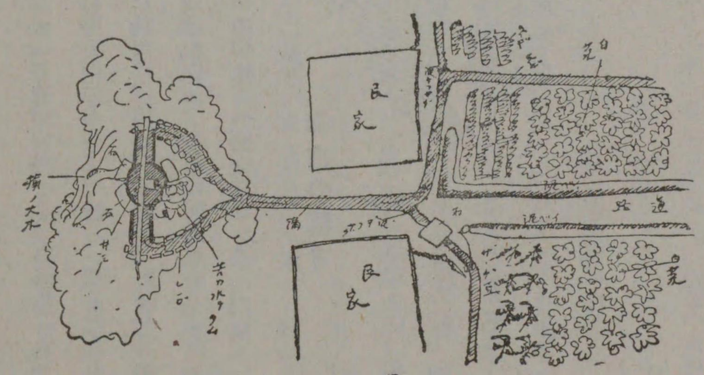
都市の舊さ

都市の舊さは、其の主要な道路にも、それに沿うてゐる家並にも、また種々の古建築にも、其の姿が偲ばれるのであるが、都市生活の上からすれば、昔からまわりの田舍の中心となつてゐた都市の光景、長い年月を經て發達して來た農業の集約さ　園藝の技巧、井

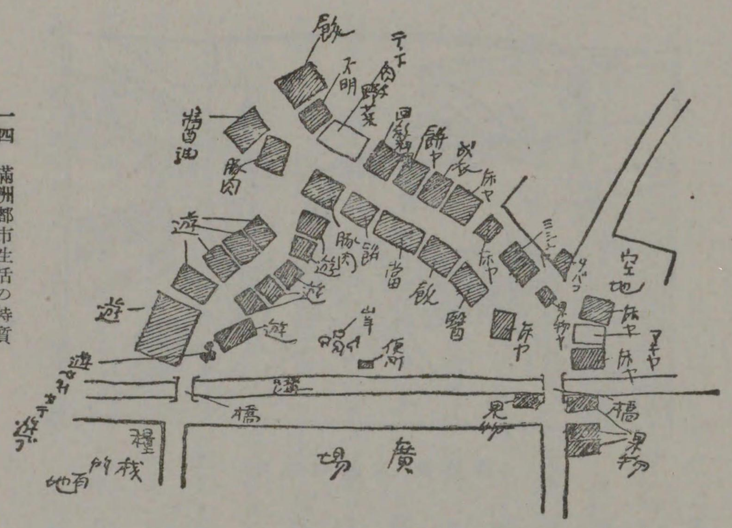
戸の作方などに、都市の舊さが最もよくあらはれてゐる。

滿洲での舊い都市としての遼陽は、其の東方を近く流れてゐる太子河の持ち運んだ沖積土の上に立つてゐるだけに、土地は肥えてをり、地下水は二尺も堀り下げると得られるほどだから、それが、「農業の集約さ」第三圖によくあらはれてゐる。白菜や葱や豌豆などが作られてある菜園は、雨の少い時季には、井戸から水を器械で汲上げて、それを小さな溝で導く人工灌漑によつて培養しなければならないほどで、舊い都市遼陽には、斯うした栽培の舊い形式が見られる。狹い庭園に棗を植ゑ葡萄棚を作り、其の下に盆栽の小さな鉢を澤山列べてある家を見ても、奈良や京都あたりの近郊の農家の趣がある。個人の經營ではあるが、分業的な工場組織の線香製造場のあるなども、舊い都市に成立つた工業の一つの特色である。

昔から、城内の名産となつてゐる梨に、香は高く水分豐かな所から香水梨と呼ばれるものがあるが、皮をむくと水は湧くやうに流れる。



第三圖　農業の集約さ

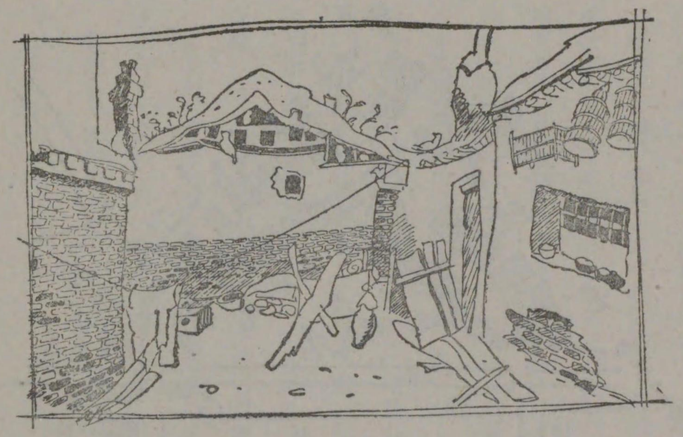


第四圖　新なる居住地區

『遼陽縣古蹟遺聞』の末に收められてある「農事諺語」の中に「梨拼梨一灘泥」をあげて、「言二梨相併必薈爛也」と註してあるのは、此の名高い香水梨の如きに、一番よく當て嵌まる言葉である。

都市の進展性

舊い都市でも亦新しい都市でも、都市としての經濟的機能の活潑な所ほど、既成の都市的形態に、あらゆる活力が溢れてゐるのを觀得るばかりではなく、其の經濟的行爲が最も活潑になされてゐる地區には、是等の行爲に從事する人達の必要を充たす爲の新な居住狀態がドシ〳〵現はれて來る。此のやうな現象は、日本の都市にも處々に見られるが、滿洲のやうな地域に於ける新興都市には、誠に夫が鮮かに表はれて來る。



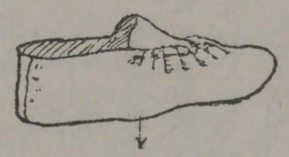
第五圖　鳥飼の趣味

開原は、遼陽に次いでの舊い都市である。しかし今日の開原は、山の麓に近くある舊い城市の外に、滿鐵沿線の附屬地が、大豆の集散では滿鐵沿線での隨一の處であるだけに、支那人の大きな大豆の仲買商卽ち糧棧が多く、糧棧に出入する農民が多く集散する大きな客棧のある近くの小孫家臺といふ地區には、支那人の享樂地區とも云ふべき「新なる居住地區」第四圖が新に出來て一戸一戸殖えて行く。床屋と遊女屋が一番多く、果物屋と飯屋がこれに次いでゐる。

生活

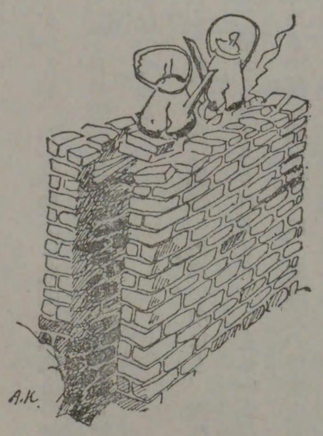
支那人の生活の方法、生活の樣式の中に、種々の特徵があるけれども、其の實用き簡易さも重要なものであると自分は思ふ。

滿洲の都市、殊に其の小さな都市は、まわりの田舍の Nodal Point であり、Regional center であるから、このやうな田舍町に於ては、支那人の生活に必須な日常品を賣る皮舖と扒舖とを見るので、中にも皮舖にある烏拉鞋と扒舖にある草を搔く丈夫な扒子は、其の代表的なものであらう。殊に、「烏拉鞋」第六圖は、滿洲の都市と田舍を結び付ける最も大事な生活用器である。冬は寒く又夏の時季には道路の極めて惡い滿洲の風土に、最も適應した履物で、此の烏拉鞋でなければならない。夏は濕氣を防げるし、冬は中に軟草を入れてあるので殊に溫い。中に入れる軟草は、黑龍江省の低濕地に生ずるもので、地方語で Chi-la と云つてゐるのが、Wula となり、それが鞋の名稱にもなつた。滿洲の小謠に、『黑龍江有三寶、人參貂皮靰鞡草』とあるのも、一年間に二足だけあれば足りるといふ事を聞いては、かく小謠に唄はれるのも尤もだと思ふ。支那人の生活方法の簡易さは、都市に於ける茶館の存立が之を證據立てる。茶館は、民衆に湯を賣りまた茶を飲ます所で、關東州內の小さな金州町には、此の茶館が六軒もある。一軒で一日に水を十五六斗も沸かすといふが、一鑵（八合位）一錢で賣るのが通り相場となつてゐる。此の茶館で、茶ばかり飲みな



皮の豚

第六圖　烏拉鞋



第七圖　簡易な石炭爐

から半日呑氣に話し合ふ悠長さは、日本人の思ひ至らぬ情景である。

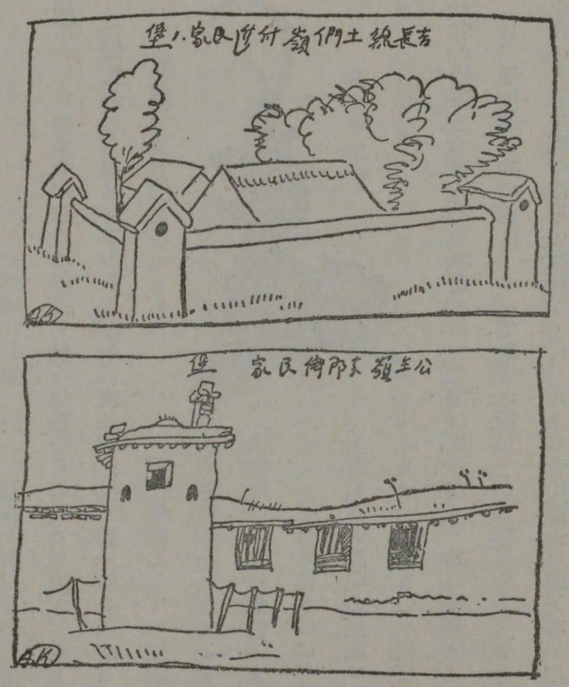
炭鑛都市と云はれる撫順の炭坑には、幾千といふ支那の勞働者が居るが、石炭の豐かな此處の寄宿舍の前には、「簡易な石炭爐」第七圖で、熱湯が何時も沸るやうになつてゐる。一日の勞働を終へた苦力は、食堂から簡單な食糧を求めては、熱い茶を飲みながら、一日の休養をなすのが常となつてゐる。

かく簡易な支那人の生活の中には、潤ひがなくまた光がないだらうか。自分は滿鐵の汽車の中にも、撫れた小鳥を悠然と手に止まらせながら坐つてゐる支那人を見、また宿屋の二階から見下ろされるせせっこましい裏長屋に住まつてゐる車夫が、日々の僅かな時間を拵えては、小鳥を飼つてゐる」第五圖を見ては、支那人の民衆生活の中には何處かにゆったりした處があるやうに感じた。

防　備

支那人の生活は、村落に於ても、都市に於ても、日本の夫等のやうに決して安全なものではない。だから極めて低い下層階級に於ては、掠奪される物質もなく、また防備をなすだけの餘力もないけれども、相當の資力のある者は、個人でも、宅のまわりに土塀を築き、其の隅々には銃眼を入れた「防備としての堡」第八圖を作つて置く。

相當な村落では、其の村の周圍に土塀を築き　夜間一定な時間になると、門を閉ぢるやうになつてゐる。だから小さな都市か大きな都市になるほど、其の防備が嚴重になるのである。



第八圖　防備としての堡

此の村落や都市の防備は、我々日本人には殊に目が附くので、明治初年に北支那を踏査した海軍中尉曾根俊君氏の『北支那紀行』には、それが忠實に描寫されてあるのは、實に貴重な文獻である。即ち滿洲に於ては、營口・遼陽・奉天の諸城が記されてあるが、遼陽に就いての記事に

市店稠密ニシテ房屋宏大、朱或ハ墨漆ヲ以テ舖柱ヲ塗リ、道路亦寛クシテ且不潔ナラズ。天津・上海ノ城内ニ比スレバ最モ好キヲ覺エタリ。

とある。舊い都市としての遼陽の面影は、よく傳へられてゐるが、「道路寛クシテ」の一句は、自分の踏査した最近

の印象と異つてゐる。しかし五十餘年前の當時の遼陽は、他の二都市に比しては、遙に優つて居つたのであらう。

風　景

都市としての風景、それは展望し得る地點からの廣い鳥瞰が、最も必要である。然し、都市生活としての風景は寧ろ、個性のよく現はれてゐるものか、或は地方色の鮮かなものに、最も特色づけられてゐるやうに思ふ。

第九圖　清朝武官の住宅の表徴

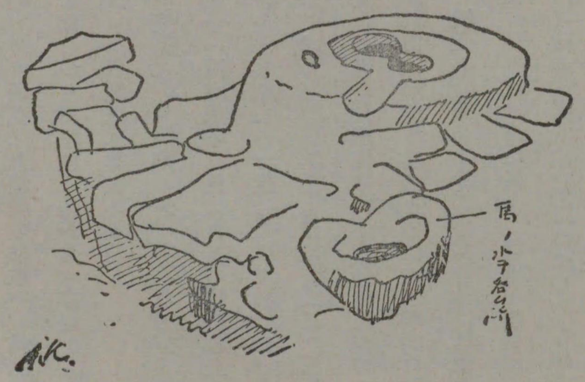
舊い都市としての遼陽に於ては、最も實用的な井戸にさへも長い年月の色彩が現はれてゐる。まして生活其のものゝ現はれとも云ふべき住宅には、誠に個性のよく現はれた風景が見られる。

こゝに掲げたものは、遼陽城内の翰林胡同にある「清朝時代の武官（王氏）の故宅の屋根の裝飾」第九圖で、動物の頭の上から金屬性の「カマ」樣のものゝ出てゐるのは、武官の住宅の表徴である。此の一郭が昔の侍町とも云ふべき地區であつた事が思ひ當る。其の後裔は、今は、片隅の小さな狀一間の小屋を其の住宅となし、母屋始め其の他は、すべて他人に貸してゐるほどの身代であるが、嚴めしい門扉や、門の中に藏つてある朱や青の大きな額や母屋の窓枠などに、ありし昔の面影を偲ぶ事が出來る。其の前の通りにある石の「古い井戸」

第十圖にも亦舊い都市の面影が現はれ、嘗て朝鮮の開城で見た民家の舊い井戸を思ひ出したのであつた。

都市の風景と云ふと、人は直ぐ宗教的の古建築や彫刻品を思ひ出すのであるが、人文地理學的に見て都市生活の風景は、都市生活が滲み出てゐる風景でなければならない。最近イギリスのコルニシが唱へ出した「風景地理學」と云ふ内容にも、よく其の意味が言ひ現はされてゐるし、フランスのブリューンの著書『フランスの人文地理』の挿畫にも、一枚の寫眞をも入れずに、輕快なペン畫で、村落や都市の生活がよく挿入されてあるなど、何れも生活夫れ自體を學術の研究對象としてゐる事が明かに讀まれる。

都市生活の風景としては、住宅其の他の構造から生み出されるものも、一つの重要な地理的現象だと思つてゐる。フランスのヴィダル・ド・ラ・ブラーシュの『人文地理學原論』には、建築材料が其の一章に加へられてゐる程で、滿洲の都市巡禮に於ても、森林の少い遼河の流域に立地してゐる都市から、森林の多い松花江の上流に立地してゐる



第十圖　古い井戸

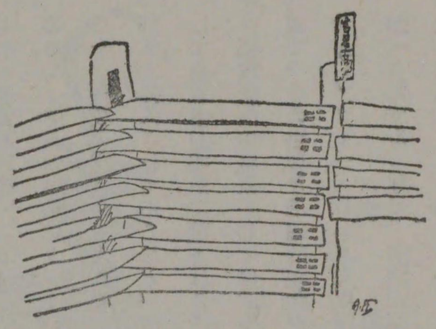
吉林、卽ち長春から吉林に出ると、それが著しく特色づけられてゐるのに氣がつく。

吉林は滿洲での森林地域の中心である松花江上流域の都市で、滿洲での材木の大きな集散地である。こゝに集まつた材木は、川からも亦陸からも搬び出される。從つて町には製材やマッチの製造工業がある。

町を通つてみると、奉天とか、遼陽とか、開原とか、鄭家屯とか、洮南などでは見られぬ「素朴な木柵」第十一圖が處々に見られる。自分は此の都市に來て、始めて、日本と關係深いやうな親しみを感じたのであつた。

木材を利用しての家具の特色まで、探しまわる時を有たなかつたが、是等にも亦生活の滲み出てゐる風景を見出し得るに相違ないと自分は思つてゐる。

前にも述べたやうに、滿洲の諸都市の形態や生活を居住地理學的に觀やうとの企の下に、昭和三年九月末から十月始めにかけ、奉天を振出に、鐵嶺・開原・公主嶺・長春・吉林・哈爾賓・海拉爾・滿洲里・齊齊哈爾・洮南・鄭家屯・撫順・遼陽・營口といふ順で、或は山に據り或は河に沿うた都市の姿や生活に現れた民族的色彩をはつきり握まうとした。此の旅に滿鐵情報課では、田口稔・河田喞二氏を同行せしめられ、田口氏は踏査のプランの遂行を、スケッチはすべて河田氏が私の指示によつてかく描かれた。



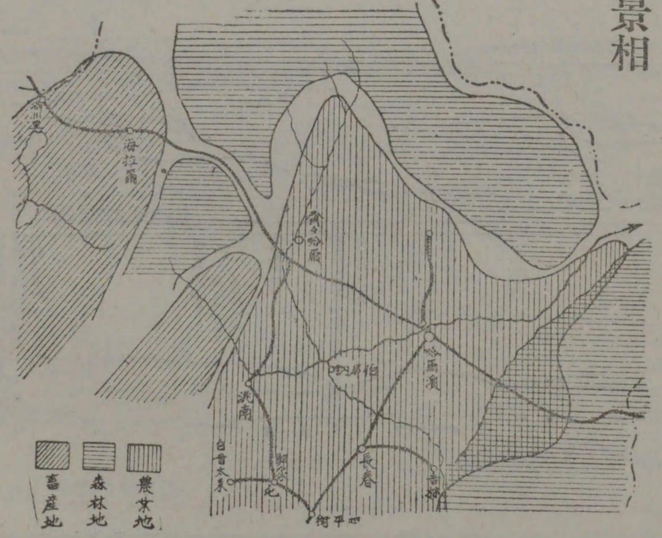
第十一圖　素朴な木柵

一五　北滿洲の都市と其の景相

一　呼倫貝爾の中心海拉爾

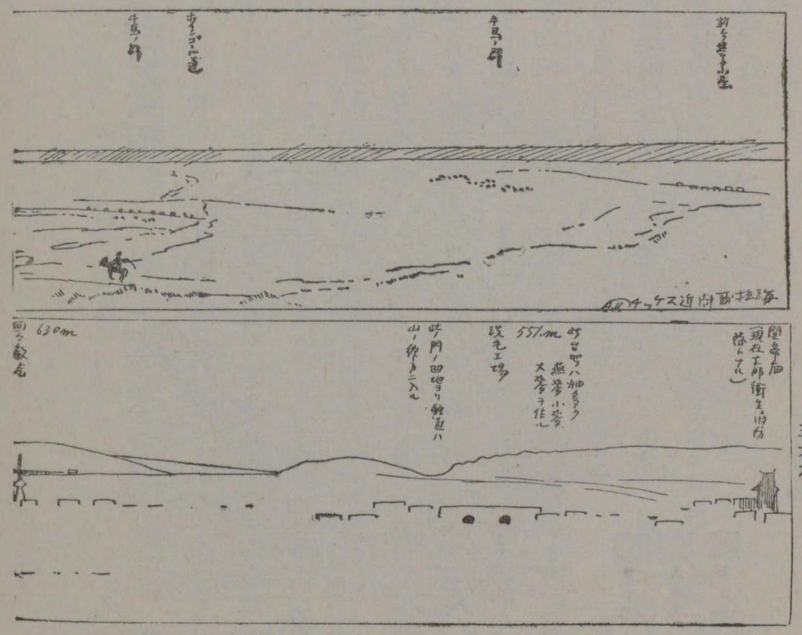
呼倫貝爾は、北滿洲の中でも其の地理的位置が、北西に偏してゐるばかりでなく、風土上産業上別區をなしてゐる。卽ち興安嶺は其の東境をなし、地勢は西に傾斜してゐるから、河流は何れも西流して額爾克納河に注ぎ、此の河は露領である東部シベリアの境に沿ふて西流してゐるので、シベリアとの交通關係は、地勢上自然的に有利であり、また其の南部は蒙古に接壤し、それが砂漠性の高原地帶の連續であるから、蒙古人の遊牧地帶ともなつてゐる。もとは黑龍江省の一行政區であつたが、今日は興安北省である。

一　呼倫貝爾の中心海拉爾



第一圖　北滿産業地域圖

かくて其の中心都市たる海拉爾は、自然の上からもまた人文の上からも、交錯地區呼倫貝爾の中核に位してゐる。即ち興安嶺の西側たる傾斜地帶の中心に位して砂漠性の地貌を具へ、額爾克納河の上流たる海拉爾河の左岸に沿ひ、交通上からは當時はロシアで經營してゐた鐵道の主要驛であつて、此の都市の南部たる舊市街には、蒙古の副都統と呼倫縣の知事が居た。かく城市の構成形態として極めて若き型を示してゐる。蒙古人の此處に定住したのは極めて古く、現在の海拉爾から南に蒙古への通路は、伊敏河に沿ふて南行するものと、西南行して貝爾湖畔に至る二つがある。遊牧を生活の様式としてゐる蒙古人は、一團となつて終始移動してゐるが、城内に定住してゐる支那商

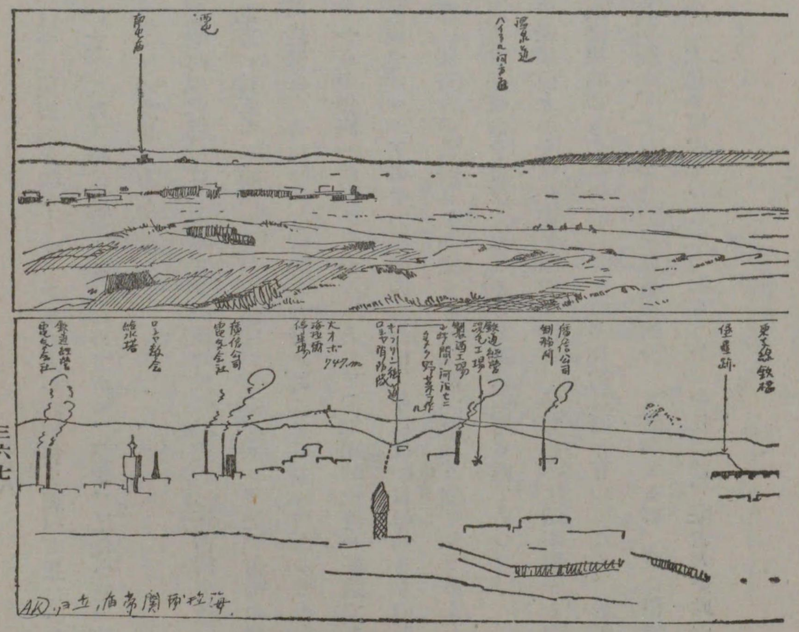


海拉爾附近スケッチ

海拉爾の景觀

人は、此の城市の周圍を移動しつゝある彼等を循環的に相手にする事によつて、其の商賣は成立つてゆく。支那商人が蒙古人から買取るものは、蒙古の主産物である羊毛で、相當額（年五萬圓以上）に上るものは十五戸、なほ小さく取引するものは相當にある。

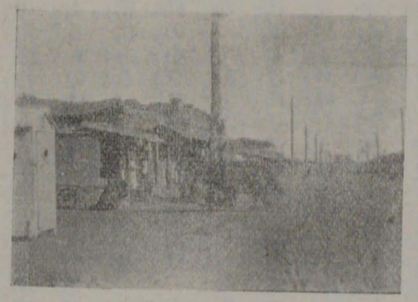
此の小さな城市の主要街は、東西南北に十字路になつており、がらんとした景觀であつて、我々には淋しげに見ゆるが、蒙古人に取つては沙漠中のオアシスのやうに感ずるであらう。默つて町を見てゐると、遊牧的な色彩が多分に漂ふ。—街の中を馬に鞭つて疾走する蒙古人、ダラリとさがつた筒袖を何の苦もなげにさげて漫歩する蒙古人、一枚の牛の皮を背負つて賣つてあるく蒙古人、彼



海拉爾市立俄帝關東州海拉爾

第二圖　海拉爾の景觀

等を宿泊さす宿屋など。かゝる民俗に接すると、自分は蒙古人を相手とする支那商人の商慣習を調べて見たいなどゝ興趣が湧いて來る。道路の兩側に軒下近く處々に立つてゐる棒は馬をつなぐためであり、路傍で見た小兒の遊戯が、二つとも馬追であることも、此の町ならでは見られぬ情景である。



第三圖　海拉爾城内

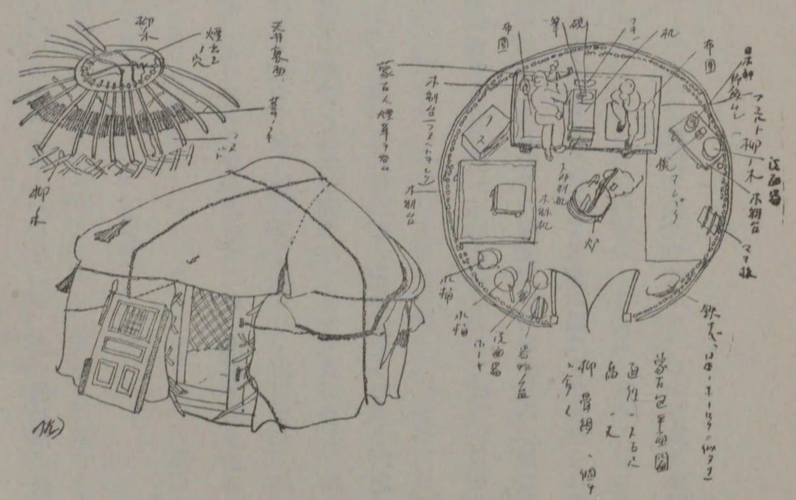
此の小さな城内の北部には、ロシアが帝政時代に建設した新市街が續いており、驛の北方には更らに鐵道從業員の住宅がある。ロシア的の市街の建設に伴ふ今日の經營は、帝政時代の當時と方針を異にするものがあるであらうが、シベリアからの經濟的活動の足がゝりとしての地理的位置が好適である此の海拉爾に就てのロシアの勢力扶植の方針は、今なほ昨日の如きものであるらしい。殊に蒙古人の當路者を懷柔する方法は、至れり盡せりであるとは最近我が國から重要使命を帶びて來てゐる某軍人の語る處であつた。

都市進化の過程の上から見た海拉爾の景相は、萠芽を示す幼年期ともいふべき粗朴な形態と機能の表現に過ぎない。しかし民俗學的にまゝ國際的にこゝは多角的な面を有つてゐる。基盤は砂丘である此の海拉爾の北西方の周圍には現に砂丘が續き、それが北西季節風を何分でも緩和する事、東に伊敏河を控へてゐる事など、始めての定住者をこゝに誘つた主なる原因ではなかつたらうか。今日では、蒙古人が此の地に定住した居住の原型を、海拉爾の中に見出す事は出來ないが、近くにある蒙古人の定住してゐる西屯なる部落の見張番である蒙古包（構造は白樺の細き幹や枝で斜に編み、其の上を絨氈で蔽ふ。絨氈は蒙古產の山羊の毛でつくつたカシマである。）を見得た事で、僅かに遊牧から定住への發生の面影を想像し得たのであつた。

第四圖　蒙古包の外觀

「北滿洲の都市と其の景相」を述ぶるに當つて、こゝに此の海拉爾を取り擧げたのは、民族的交流地域たる滿洲の都市形態を理解し得るに便宜だと思つたからである。

海拉爾の滯在は、僅かに一晝夜に過ぎなかつたが、幸にも



第五圖　蒙古包の構造

寺田少佐によつて、教を受ける事の多かつた事を感謝し、我が同胞の定住者がまだ少ないが、此の海拉爾の將來は國際的に特に注目すべき都市の一つである事を一言して置きたい。

二　國境都市としての滿洲里

ロシアとの國境に近い都市滿洲里に着いたのは夜の八時、まだ九月の十八日ではあつたが、汽車を出るとヒヤリとした。夜は靜かではあつたが、冷い空氣は海拉爾のそれと著しく違つて山に近い感じがした。南側に下りた自分達は、一旦軌道を横り、旅店からの案内者と共に田口・河田（染木）兩君と馬車に乘つた。ロシア人が多く、殊に髯の多いロシア人や若いロシア娘が元氣でアチラコチラに往來してゐる事が目に付いた。三分ばかりで、名は忘れたが日本旅館に着いた。

案内されるまゝ扉のある室にはいると、疊を布いた心地のよい室である。室が心地よいばかりではない。此の宿の奥の一室には日本の軍事委員として駐在してゐる富永氏が泊つておられるので、國境丈に一層馴しい。田口君が前に滿洲里に來た時にも、此の富永氏はよく滿洲里の案内をして下すつたさうだが、私達の爲にも殆んど一日東道の主となつて下すつた。

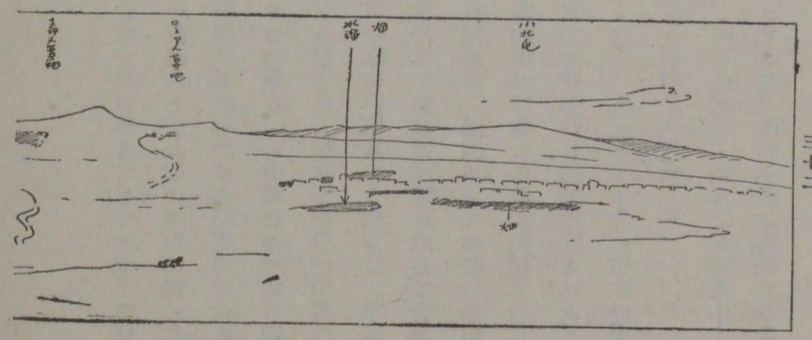
二十日一日丈で、小さいといひながら滿洲里の概念を得やうといふのは無理な註文ではある。しかし態々滿洲里まで來て、一二時間の後汽車で引返したとかいふ人から見ると、一日でも觀察し得たのがせめてもである。幸にも小春日和といつてもよいほどの天氣なので、我々は小躍するほど勇みながら町の視察にと富永氏の案内に從つた。

一番さきに見たのは、町の北西部にある市場である。市場の北部には蔬菜や肉類などの店が多く、南部には衣類や古物の店が多い。蔬菜は滿洲里から出ないから、東隣の札賚諾爾驛の方からやつて來る。しかし牧畜地域の中心市場としての此の滿洲里は肉類は非常に豐かである。イヤ肉類ばかりではない、羊・牛・馬・駱駝の生畜は勿論、羊毛は其の頭數が多い丈に取引高も大きい。田中領事の話によれば、蒙古人一人當の家畜の飼養する割合は　羊五十頭・牛馬五頭宛になるといふ。ロシアの羊毛商は三戸あつて大規模に取引してゐるが、商品は浦鹽を通して合衆國やイギリスにゆくので、羊毛を買占めに蒙古に這入るには自動車を用ゐる。札賚諾爾から滿洲里までの間には山はあるが、此の附近の地形は、其の外は大海原のやうな波狀をなしてゐるので、自動車の行使には最も便利である。英米の商人は春と秋に買出に來るが、蒙古に這入る時には自動車の上に國旗を立てゝゆくのを見受けるといふ。かく蒙古に緣の深い滿洲里は、海拉爾と同じく町の中にも蒙古人を見る事が少なくない。あるロシア人の住家の南向の窓際の小さなベンチに、數人の蒙古人の男女が日向ぼつこしてゐるのは、如何にも呑氣さうに見えた。

かく滿洲里は東方の海拉爾と共に、牧畜地域の中心市場であるばかりでなく、町の住民――殆んど支那人――夫自身もまた牧畜に從事してゐる。二十日の夕方、町を見終はつて旅店に歸らうとすると、西から東に通じてゐる三

道街の西の端から、入日を浴びながら數十の羊の群が、町の中へと歸つて來る樣子は、よくそれを物語つてゐる。かく町で牧畜をしてゐる處は、海拉爾と此の町丈である。從つて、其の家構も圖（牧畜する家構參照）のやうに特別になつてゐて、住家と住家の間の狹い路次の小さな門からはいると、中は廣い中庭になつてゐて、これを守る爲に犬を飼つてゐるといふ。自分達は、時間がなく此の町の中のかゝる家構を見得なかつた事を今でも遺憾に思つてゐる。かゝる家構で羊を飼つてゐるばかりでなく、牛を一頭や二頭飼つてゐるものも少なくはない。一日一頭五錢位の賃で、牛の放牧に雇はれてゆくものもあれば、平常ブラ〳〵してゐても五月と九月のタルバガン狩（皮は二圓から三圓に賣れる）をする時季には、其の方に雇はれてゆくものが多い。其の頃には苦力も拂底するほどであるといふ。

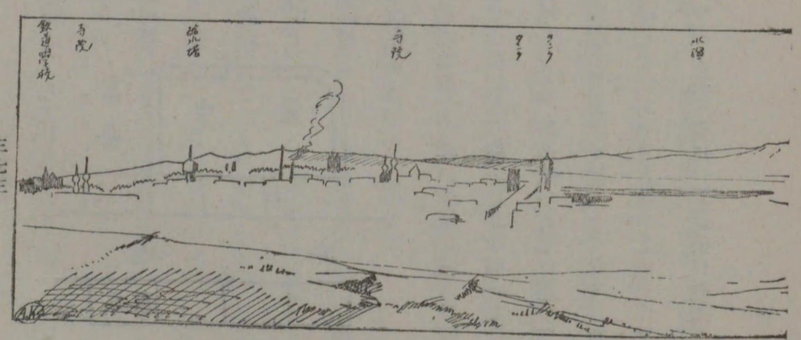
支那人の經濟的活動は、牧畜地域の中心市場としての機能の上に反映してゐるばかりではない。町の經濟的勢力としても侮るべからざるものがある。自分は短い滯在時間に支那人とロシア人の經濟的勢力の比較を明確に示す丈



觀景の　より

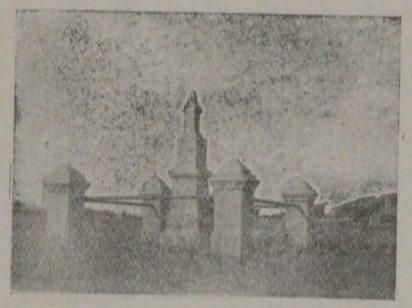
詳しい資料を得る事が出來なかつたが、町の支那人の人口がロシア人よりも多く、市場の商店の家主は殆んど支那人であり、殊に市場の萬豐義といふ支那人の商店は、商品も豐かでありまた廉いので、ロシア人の主婦は朝早くから此の店に買物にゆくのが多いといふ事丈でも、これを立證し得ると思ふ。支那人の居住は、此の市場の附近に一番多く、從つて徵收局も商務會も劇場も此の市場のそばに設けられてゐる。かくして支那人の經濟的活動は、自治的統制の下に一歩一歩築かれてゆくのである。殊に此の町の行政が支那人の治下に移つた今日、其の經濟的發展は一層有利であらう。

かく牧畜を基調とする特殊な經濟地域に立地してゐる此の町の經濟的活動は、北滿や南滿の廣い農業經濟地域を背後として立地してゐる都市の經濟的活動とは自から異なるものがあり、そこに活動してゐる支那人の經濟的機能にもまた自から限定的な意味があらう。これらの研究は、滿洲の都市の特殊相として頗る興味ある問題であるが、こゝにはこれを一言しておく丈にとゞめておく。

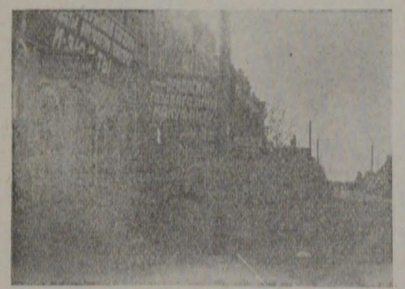


丘の車風　圖六第

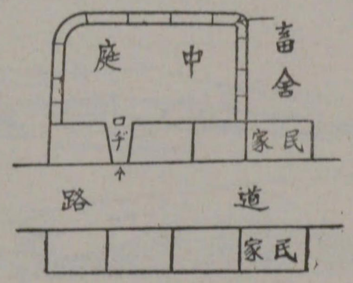
國境に近い滿洲里の最も強い印象は、軍事的都市として四十餘年前に新に建設せられた其の規模と其の形態である。それは、滿洲里の驛を一見した人は誰でも氣の付く事で、單線である東支鐵道に似合はぬほど其の驛内の規模が大きく、線路が數多の複線に分れてゐるのである。また給水塔が割合に多い。軍事的都市として、如何にも形勝の地理を占めてゐるといふ感じは、滿洲里の北方約一里餘の國境附近の高原から、南に此の町の大觀を恣にする事によつて最も明確にされる。寺田氏によれば、滿洲里の所在地は海拔五五〇米の盆地で、其の南緣に當る丘陵地に位置してゐるから、南から北に傾いてゐる地形に立地しつゝ、町が西から東に連つてゐる。殊に四圍に目を遮る樹木とてなく、草も枯れた赤裸ともいふべき大地の上に、ガツシリと立つてゐる其の姿は、意識的に建設された軍事的意義を思はせる。此の滿洲里の雄々しい姿の西端にほのかに見ゆる支那民家の點在こそ、此の都市の機能を明かにする上に見逃せない景觀である。田中領事によれば、これは滿洲の鐵道沿線の諸都市によく見られる商埠地で、更らに卒直にいへば、其の都市の經濟的活力を吸收しやうとしての都市的機能が、發達しやうとしてゐる臚賓府の面影である。即ち此の臚賓府に建設さるゝ都市的施設の企畫によつてなさるべき筈の支那人の活動は、兵亂の爲に中止になつたので、前に述べたやうに轉じて町への經濟的侵入に變つた。



第八圖　日本人戰歿記念碑



第九圖　店舗の看板



第七圖　牧畜する家構

國境に近い此の高原から稍々北方の高處に上ると、全く樹木なき廣い展望に出來る。よく凝視してゐると、兵舍は二戸で其の附近には菜園もあり厩もあり、兵舍の大きさは四間に五間であるといふ（寺田氏）。立つてゐる高處から下にのぞかれる一段低い處には、黑い石塊があるが、それが露支國境の標識であつて、もとは小さい自然石であつたが、知らぬ間に移動さす恐れから、今は石塊をセメントで固めたものにしたと聞いて、今更ながら人爲的境界のはかなさを感じた。

第十圖　路傍の磨屋

しかしこのやうな土地でも、人爲の力によつて鐵道が布かれ都市が建設され、それが牽引力となつて、人的集團

が年と共に增殖し、しかもそれが民族的には國際的に、他の都市に見られぬ色彩をあらはしてゆく。かくて人口は一萬二三千に過ぎないが、確かに滿洲に於ける都市の一異彩たるを失はない。たゞ我々日本人として遺憾な事は、此の都市に於ける同胞の位置である。總じて四十戸――理髮店・質屋・雜貨屋、殊に多いのは一種の料理店である。

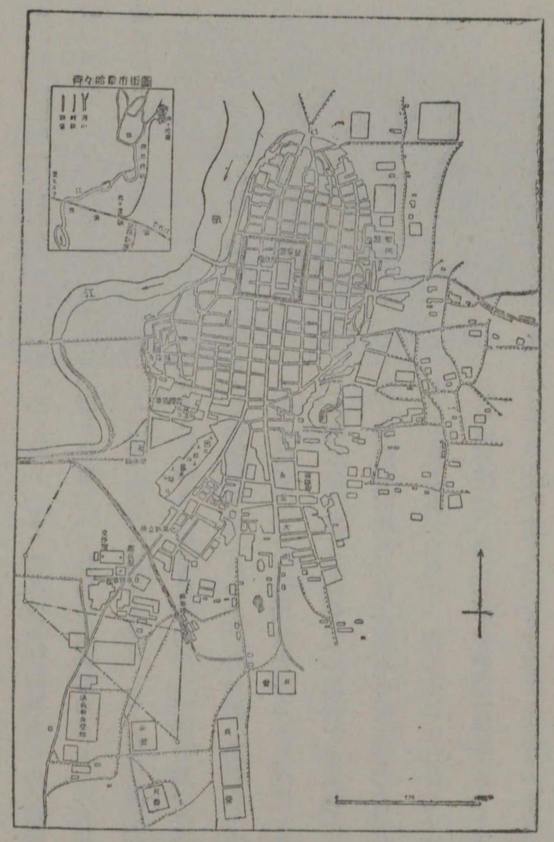
自分達の訪れたのは九月の末であつたが、はや肌の寒きことを覺えた。市場には、ロシア人用のカータンキといふ黑い色の毛の長靴とルカビーツァといふ毛の手袋などがもう出てゐた。洋服店に入つても、冬着ばかりである。

しかし、盆地の跡方をのこしてゐる沼地の近くの濕地に、一面に生ひてゐる叢が、春の訪れると共に、紫の花をつけて滿洲里の春を飾ると聞いては、冬枯の雜草のやうに見ゆるこのアヤメの叢生に、一顧をしない譯にはゆかなかつた。

第十一圖　常用の手袋と靴

三　齊齊哈爾の都市的特色

西の海拉爾や滿洲里も、東の哈爾濱も、其の中間に立つてゐる此の齊齊哈爾に比べると著しくロシアの色彩に富んでゐる。勿論　哈爾濱の中には、傅家甸のやうに、新興とはいひながら、全く支那人の建設した支那的な都市もあるが、哈爾濱全體として見ると、其の都市計畫がロシア式に經營された丈に、我々の受くる印象は、ロシア式の國際都市のそれである。之に比べると、齊齊哈爾は北滿洲での支那的都市の特色を具へてゐる。殊に其の構造に於て、民俗的色彩に於て、更らに其の地理的環境と結び付いた景觀に於て。



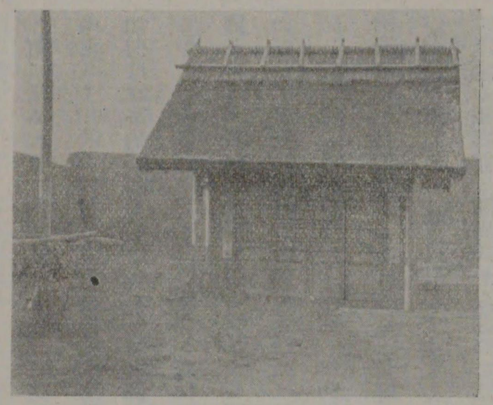
第十二圖　市街圖

もと低い對岸にあつた此の都市は、殊に軍事的な城郭都市構成の必要上、附近の平野の中でも、一段と高いこゝに移されたといはれてゐる。即ち此處の地形は、東淸鐵道で西の方から嫩江を渡り、其の兩岸の低濕な葦野を眺めて昂々溪驛

に着き、更らに齊昂輕鐵（齊昂鐵路）に乘換、緩やかに北行しながら、齊齊哈爾に近き嫩江岸に近くなつた處から、左岸に沿ふて立つてゐる此の町の姿を眺め、また町の西南隅の高處にある公園の一角から河に沿ふてゐる此の町の側面と、河を隔てゐる廣やかな平野とを見比べて始めて城郭都市としての形勝の地勢がはつきりと首肯れる。城郭都市としての形態は、小規模ながら町の北部にはつきり殘つておつて、其處に督軍署や財政廳などかある。この城郭は土壁ではあるがすつかり保存されており、自分は南門から主路を通つて北門にぬけて其の概念を明かにした。城郭夫自身の外、侍町ともいふべき街區の姿はこれを北門外の東一道街なり東二道街などに見る事が出來る。

第十三圖　滿洲人の古風な構家

出來るならばこゝで滿洲旗人のありし民俗を見やうと望んだ。しかし支那化した彼等には、寧ろ滿洲旗人の故俗を蔽ふ傾ある今日、半日や一日の視察では、殊に齊齊哈爾城内では全く不可能と分つた。たゞ、其の家構に圖示したやうなものを見る事が出來て、自分達は少なからず滿足した。後で聞けば田口君は、前に來た時に、特に此の家を見付けてあつたのだといつた。建築專門でない自分達は、はつきり云ひきる事は出來ないけれども、母屋の千木といひ、母家の裏の方の廂の長くたれてゐる具合といひ、また側門が木材を材料としての構造といひ、如何にも我が日本固有の建築と似通ふものがあるやうに感じられ、嘗つて滿洲の村落の研究を志して、其の研究法を内藤湖南博士に質した時に、滿洲民族固有の建築に此の千木の故俗あるのに注意すべき事をいはれた事のあつたのを思出した。自分達の撮影した舊家の中にも、同じ樣な家があり、殊に其の家の門の右の家の倉庫とも見らるべき建物の窓のつけ具合も、何となく日本で見受けられるものゝやうに感じた。また日本の神社の屋根かとも思はれるほどに似てゐる正門をも見た。

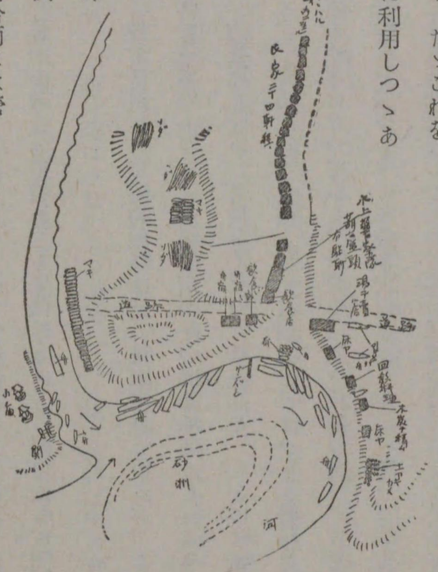


第十四圖　滿洲人の倉庫

齊齊哈爾に於て見出した民俗的色彩は此の民家建築であるが、これに次いでは其の市場であつた。市場は南門外の商業地區ともいふべき所にあつた。南菜市とかいた看板をくゞつてはいると、そこには狹い一劃ではあるが、野菜・肉類・魚類・雜貨・衣類など、はつきり場所をかぎつて店を張るやうになつており、野菜や肉類や魚類の處は、日光を防いで其の新鮮さを保つやうに日蔽の設備もしてある。自分達は其の由來を明かにする時間はなかつたが、其の區劃の整然たる所から見ると、此の城郭都市の建設と同じく設けられたものではなからうか。なほ少しはなれて古衣類や金具類などが容易に買はれるボロ市のある

のも、簡易な民衆生活に對しての必然的な需給から生れたものと首肯れる。

河に沿ふてゐる城郭都市としての齊齊哈爾が、稍々離れた處に河港を有する事は、河運を利用する地理的位置からしても、また軍事的意義からしても當然の事であらう。たゞこれを如何に軍事的に利用したかといふ事例、また常時如何に利用しつゝあるかといふ事實を聞き得る時間を有たなかつた事を遺憾とする。しかし滿鐵公所の佐藤氏の語る所によると、消費地としての齊齊哈爾は、北東からは大豆・小麥・粟・黍、東からは高粱、南からは鹽・綿布・陶器などが供給されるといへば、是等の物貨の出入が、此の河運による事は決して少なくないであらう。殊に遼陽の領事館で勝野氏から聞いた話で、支那人が商慣習を重んずる民族としての實例を擧げられた中に、齊齊哈爾には營口商人の支店や商業關係が少なくない事例があつたのを思合はせ、此の河運の賜の少なからざるを思はざるを得ない。北や西の背後地に、林業地を有する此の都市が、此の河運を建築用材かはた薪炭かの運搬に利用しつゝある事



は當然であつて、齊齊哈爾から河港葫蘆頭を觀察する爲に、嫩江に沿ふて堤防の上を下つて行つた時に　大きな材木を馬車で運ぶのを見た事でも明かであり、また薪が河岸に澤山積んである所を見ても知られる。なほ河港葫蘆頭を見ての印象は、民俗的色彩のそれである。勞働を樂しむかのやうに見ゆる支那民衆は、極めて簡易な娯樂で其の心身を慰めてゐる事は、かゝる河港に點在してゐる職業によつてもこれを明かにする事が出來る――舟宿・飲食店・回教料理店・床屋・湯を賣る店など。

河を挾んでの對岸に小さな廟のある事なども民俗的色彩として見逃がすべからざるものである。

最後にいひそへねばならぬ事は、其の地理的環境と結付いてゐる景觀である。廣い北滿の平野の景觀に圍繞されてゐる此の都市の特色は、圍繞してゐる廣い平野が、所謂曹達地帶であるが爲に、殆んど耕地に利用されずに、そこに生えてゐる雜草が、初秋の頃には赤紫色になるが、それが何日となく續く秋晴の夕陽に色どられて、何ともいはれない色彩を現はし、其の中に動く牛の群や羊の群は、一層大陸的な平野の趣を感じさせる事である。

滿洲に楡の木の多い理由は、風土の關係からであるが、それが齊齊哈爾に於て、殊に特別な景觀となつて現はれてゐる。齊齊哈爾の町の南部にある回教の廣大な墓地、其の中に一面に生えてゐる大きな楡の木――樹齡二三百年のが少なくないと聞いた――は、殊に此の町を飾る一景觀である。自分の觀た滿洲の都市の中で、こんな楡の林を觀た事がない。たゞ其の墓地にはいつて親しく其の樹相に接する事を得なかつたが、洮南に旅立つ爲に、早曉宿屋

を出た自分は、空か黑く見ゆるほど、殆んど數千といふほどの烏の群が、カアカアと鳴きながら此の堺なる楡の林を飛び出す有樣は、支那の墨繪にでもありさうに覺えて、今でもはつきり腦裡に畫き出す事が出來る。

四　國際的大都市哈爾濱の地域的特質

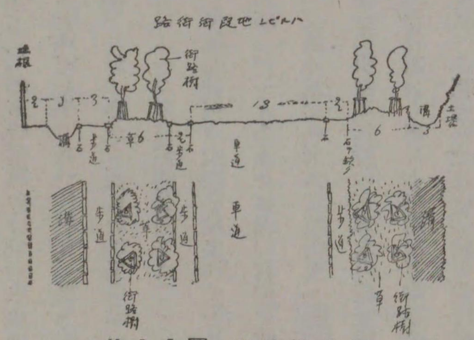
哈爾濱の名は、ツングース語の渡場卽ちハルビンから出たとか、網干場といふ意味だとかいはれるが、北海道の主要都市札幌は、サッポロ卽ちアイヌ語の「乾いた平原」の意味であるといふ事に思ひ合せて、此の若い大都市の發生過程が思ひ合はされる挿話である。嘗つて故新渡戸博士から聞いた事であるが、北海道の開拓當時、何處に都市を建設すべきかに就て、ドイツの學者コールの論著などが引用されて、都市設定の豫定地が決定されたといふが、それに就て、我々はさきに引用したムーロー博士の言、

「都市の位置は、事實に於て、純粹な偶然的出來事や有名な建設者の自由意志に決定さるゝものではない。其の位置は自然其の物に從ふ。住民の未だ存在しない地域の地圖を研究する者は、其の地域が一定の人口密度に到達する時に都市の位置すべき所を、豫め決定する事が出來るであらう。」

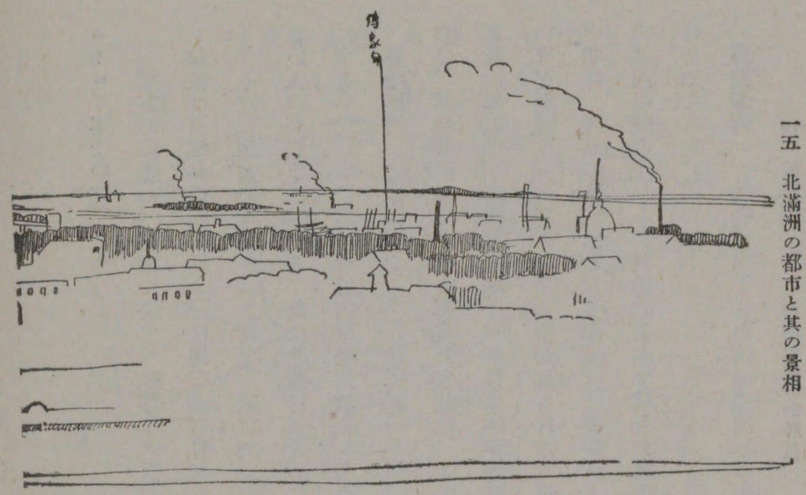
といふのが思ひ出される。故に急遽に發展した此の國際的大都市の特質を明かにするが爲には、其の地域的考察を試みる事が最も必要である。

舊哈爾濱（Star Harbin）　松花江の右岸に發展した此の大都市の地域的考察は、其の發祥地たる舊哈爾濱から始むべきである。町の東南隅に位置してゐる此の地區は、高燥な臺地で、今日は休養地區ともいふべき住宅地で、心地よいほど綺麗なロシア人の住宅群が見られる。現にこゝから北西の馬家溝河までの間は、將來の住宅地として立派に計畫されてゐるらしい。馬家溝河を渡つての北西の新市街から、兩側に並木を植ゑた立派な道路が通じてゐる事からもそれが知られる。

馬家溝河　舊哈爾濱と新市街の立地してゐる臺地の間を北東に流れてゐる

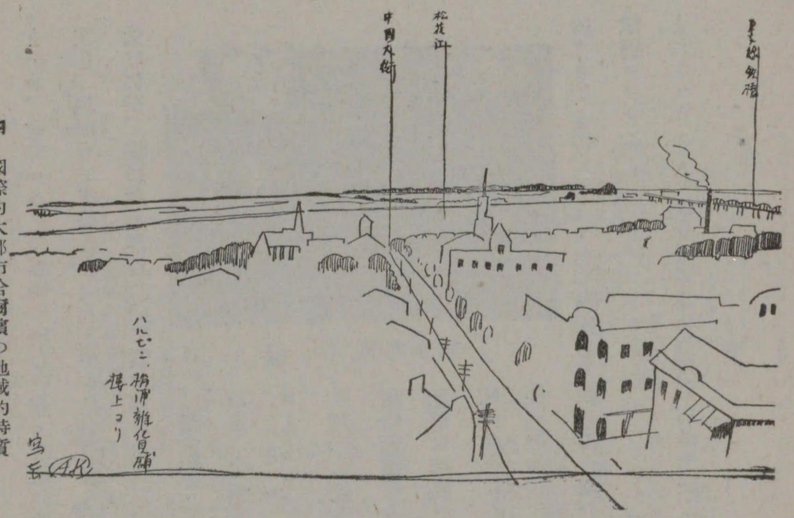


第十七圖　道路構造圖



松花江を望む

此の河は、流路としては小さいが、都市哈爾濱の一つの生命線と見てよい。自分の行つた時は秋も半であつたから、水も枯れて大した景趣とてもなかつたが、春から夏にかけての此の河沿は、散歩好なロシア人には一つの自然的公園ではなからうかと思はれた。此の町の地域的發展の概觀をなすべく半日自動車を驅つて回つた自分達は、一々こまかに此の河沿を觀察する事が出來なかつたが、河の左岸に沿ふて植物園（新市街側）があり、それに對して右岸には相當な二軒の支那人の花廠即ち植木屋のあるのを見た。十月末から四月まで殆んど半年の冬籠の生活に、最も慰安を與へる花卉や盆栽は、此の花廠達の手によつて供給せらるゝであらうから、此の河の存在が此の都市の冬の生活に生々した血液を注ぐ大きな働をしてゐるのである。さう思ふと、此の河は哈爾濱の生活を潤ほす上になくてはならない自然的實在である。



第十八圖　埠頭街市から

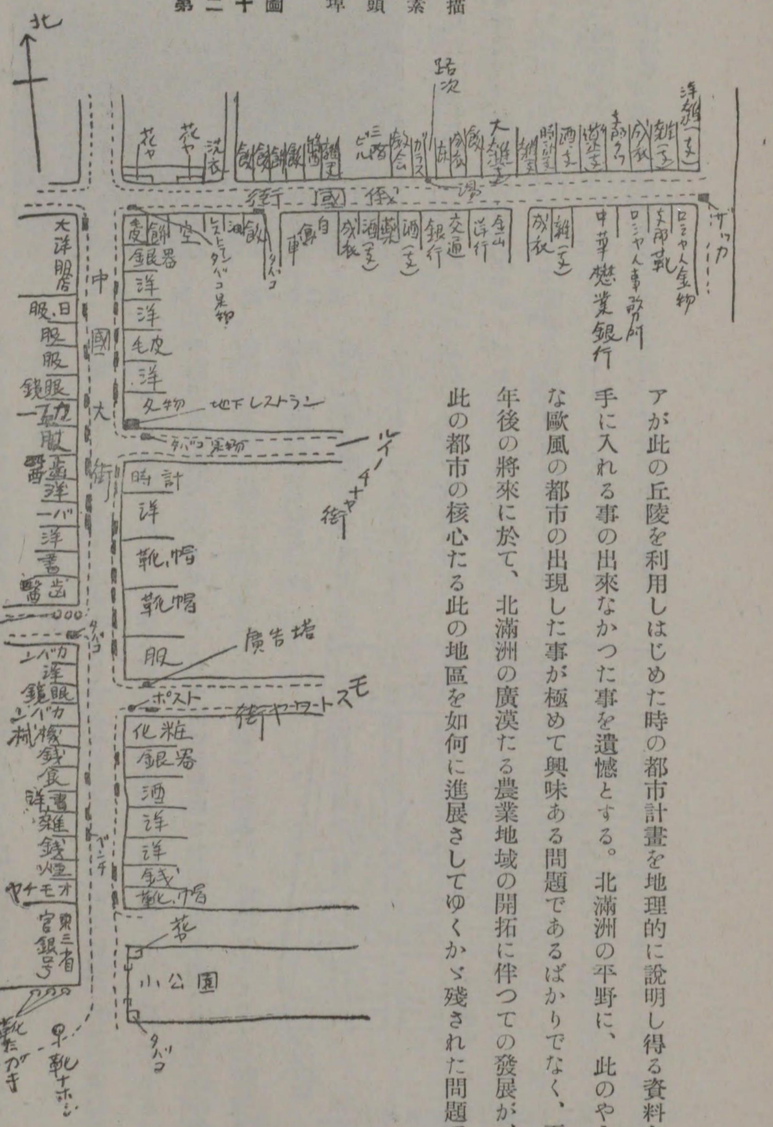
ロシア民俗　松花江が馬家溝河にもまして、夏は納涼に冬はスケートに利用せられ、河に沿ふて建つてゐるヨットクラブはロシア人には忘れがたき歡樂場の一つである事は、あまりに知れ渡つてゐるからこゝには略する。寒い風土に適應しつゝ生活して來たロシア人の生活資本たる農業は、廣い耕地を舞臺となしつゝ有畜農業を營み、また半年籠居生活を續けなければならない生活環境は、狹い耕地に集約農業を營み、年中自然に親しみ易い生活を續け得る我々日本人よりは遙かに開放された自然其の物に對する理解と愛着とが深い譯である。從つて彼等の都市生活に於ても、家に閉籠つてゐる日本人とは自から異るものがあると思ふ。新市街にしても、埠頭にしても、純ロシア街にベンチの多い事は、散歩好なロシア人の習慣からだと田口君から聞いたが、此の散歩好きな習慣は、有畜農業に伴ふ本質的なものから來たものではある

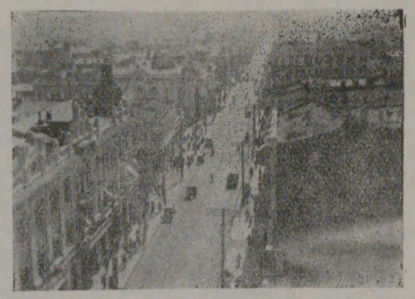
まいか。敢てロシアの事情に精しい方々の教を受けたいものと思ふ。哈爾濱での一夜には、幸にも長くロシアに滯在し、現にロシア婦人を夫人とする泉副領事と食卓を共にする光榮を荷ひ、いろ〳〵ロシア人の風習について教を受けたが、終に此の事について質す事を忘れた。

第十九圖　公園

新市街（Nobisordd）新市街の立つてゐる所は、離れた一角の丘陵になつてゐる。支那人はこれを秦家崗（Chin-chia-Kang）といひ、哈爾濱稅務司ヘエンス・ワットソンの報告『哈爾濱の發達及其現狀』（朝鮮銀行別途調査四ノ二）には「住居家屋及鐵道用舍は玆より河岸に近きこと二哩許なる小高き平原の上に建築せらるゝに至れり、それ卽新哈爾濱なり。――此の平原（或は堤防といふを得べし）は、松花江と平行して數里に延長せるを以て往時其の堤防たりしこと疑なし、」と述べてゐる。其の成因は何れにしても、此の崗の存立が、どれ丈此の都市の建設に有利な地理的條件を附加した事であらう。殊に、ロシアが自國の土地ならぬ此の地に都市を建設するに當つて、こゝから四周を下瞰し得る地形がどれ丈有利であつたらう。中央寺院を始め、東支鐵道廳・東支鐵道クラブ・博物館・グランドホテル・チューリン本店・中央病院など皆此の崗にある。我が總領事館も滿鐵事務所もまたこゝにある。自分は滿鐵事務所で古澤所長・小林調査課主任・山口運輸課長達に種々の示教を得たが、たゞロシアが此の丘陵を利用しはじめた時の都市計畫を地理的に說明し得る資料を手に入れる事の出來なかつた事を遺憾とする。北滿洲の平野に、此のやうな歐風の都市の出現した事が極めて興味ある問題であるばかりでなく、百年後の將來に於て、北滿洲の廣漠たる農業地域の開拓に伴つての發展が、此の都市の核心たる此の地區を如何に進展さしてゆくかゞ殘された問題で

第二十圖　埠頭素描

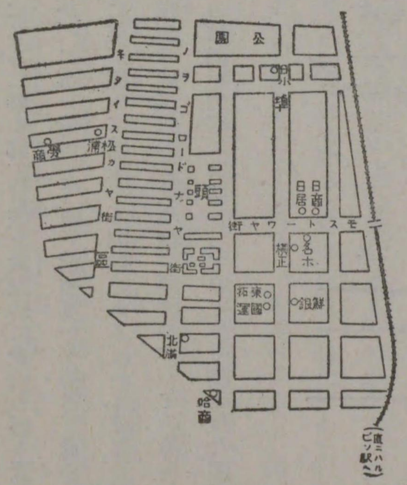

北
中國大街
地下レストラン
時計
靴帽
服
廣告塔
ポスト
化粧
銀器
酒
洋
錢
靴帽
花
小公園
タバコ
ハルビン行
ハルビン
ハルビン
ハルビン



第二十一圖　中國大街

ある。停車場の位置が此の臺地から低地にうつる間に置かれてある事なども、相當の考慮の下に出來たものであらう。

埠頭　東京市の山の手ともいふべき哈爾賓の新市街を觀た眼で、下町ともいふべき埠頭に出ると、全く東京の日本橋や神田に出たやうな感じがする。小藤博士の論文には「モストーワヤ街は繁華にて埠頭の銀座通なり邦人は浮浪的にて家屋の持主は例の猶太人と臆測す」とあるが、成程モストーワヤ街（埠頭東部圖參照）を漫歩してゐる一時間ばかりの間にも、用達してゐる二三人の日本婦人を見た。また此の町の北側には日本居留民會や哈爾賓日本商業會議所、南側には名古屋ホテルがあり、これと交叉してゐるウチヤストコーワヤ街には横濱正金銀行・朝鮮銀行・東拓支店・國際運送會社があり、少しはなれたノヲゴロードナヤ街には北滿ホテル、ジヤゴナーリナヤ街には哈爾濱商品陳列



第二十二圖　埠頭東部圖

館がある。哈爾濱商品陳列館では森御蔭氏に會つたが、氏が十年一日の如く日露貿易の爲に努めておられる事は實に意を強うするに足るものがある。北の方の公園の近くにある大規模の日本人の小學校これまた見逃してはならない。それから西方のキタイスカヤ街（中國大街）に行つて見ると、此處は純ロシア的で、其の店舗といひ、殊にロシア式の洋品雜貨店や洋服店の多い事、之に次いでの靴や帽子を賣る店や食料品店や眼鏡店など、寧ろモストーワヤ街に優る感がある。午後三四時になると、散歩に出づるロシア人が殊に多く、町の兩側のベンチはこれらの人達で空席も少なくなる。かく大通を觀ると全くロシア文化の漲るのを見るのであるが、其の横町例へば、ストラホーワヤ街（俄國街）にはいつてみると、兩側の商店の多くが殆んど支那人の商店であるのに驚かされる。だから、埠頭といふ地區内に於てゞも、支那商人の勢力は相當なものと見て間違はあるまい。

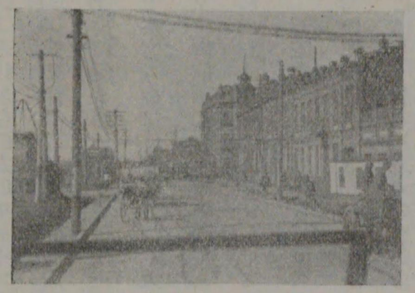
傅家甸　埠頭から、モストーワヤ街を眞直に、東方の八區といはるゝ鐵道や掘割のある處を通つて、所謂支那街の傅家甸に赴き、一番賑かな正陽街を通ると、實に純支那人町の商況は活潑々地たるものであつて、午前十時頃には全く肩々相摩すの感がある。前に述べたヘエンス、ワットソン氏は、此の傅家甸に就いて、

此處は鐵道布設の結果として生じたるものにして、夙に支那行商人及勞働者の居住地たり。是等の者は線路區域内なる露人居留地に其の生活方便を得つゝあるなり。

と斷じてゐる。これは今から二十七八年前の傅家甸の狀態であらうが、今日の傅家甸は、實に整つた歐風の都市と

なり、其の繁盛は寧ろ他區を凌ぐものがある。小藤博士もまた此の町の發展に就いて左の如く述べて居る。

以前は單に鐵道使用の汚穢なる苦力町なりしが、日露戰爭當時、哈爾濱が兵站基點なりし爲め外國に舞臺を貸與したる其の償として、利而已に走る支那人爰に集り、小市街を備へ、以後漸次繁榮を增進せしが、偶々現戰役に際會し、頓に勃興し、近頃は市區改正を企て、河岸の埋立、公園の設置、市街の擴張工事を起せり。世間傳ふ、支那にして、滿洲に斯く完備せし街無しといふ。これ露國側の制肘を受けず自由自主に商工業の發達せる結果なり。



第二十三圖　傳家甸の入口

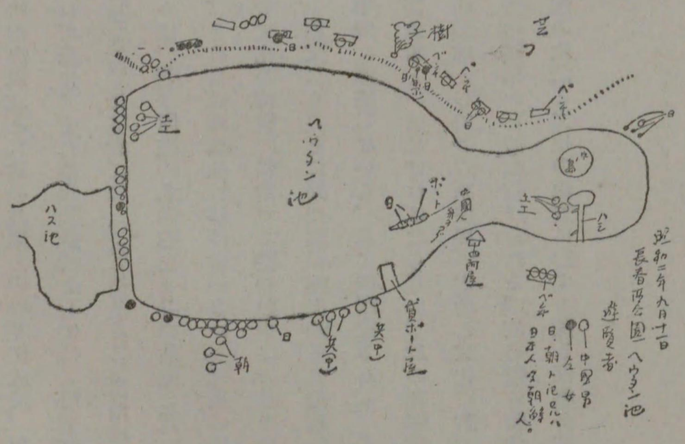
正陽街で最も町の整備した處を觀た自分達は、更らに、東部の東安街に出て、裏から其の町の生長してゆく姿を見た。今ノートを開いて見ると、

傳家甸の大通は横ぎる事の出來ないほどの人ごみである。自動車や馬車の往復が烈しい。二階や三階の大きな商店が軒を並べてゐる。殊に驚いたのは奉天や吉林などに見られない大きな書店があつて、上海から學術雜誌や地圖などが來てゐる事である。しかし裏通にまはつて見ると、葭の上に白い壁土を塗つたふるい民家が、ありし昔の町の姿を物語つてゐる。此の邊には理髮店が殊に多く、賣卜者・齒醫者、小さな料理店、タオルを手工業的に織る店、露店の寫眞屋など、何れも新開地の氣分が漲つてゐる。……

こんな處を通つて松花江岸に出やうとすると、穢い下水の上に危なげな板橋が架つてゐる。漸く渡つて河岸に出ると、川を上下する大きな汽船の「上海」・「廣州」が浮んでおり、外に對岸呼蘭の方に往復する小汽船がある。河岸に沿ふた片側町には、東北船業公司を始め、數多の海運に關する松黑兩江郵船總局・松浦横江航船公司・東亞輪船張房などがある。

第四十二圖　滿洲人

滿洲國が創建され、滿洲移民が組織的に計劃されるやうになつた今日　以上の記述を顧みると、補足を要する幾多の新事實が發



第二十五圖　民族と歐交

生してゐる。即ち東支鐵道の如きは現に「濱州線」となつており、哈爾濱以北また其の北東方の松花江流域、更らに其の東南方の烏蘇利江の上流域には、幾多の移民移住地が設定されて來た。また移民訓練所としては、哈爾濱には滿蒙開拓移民訓練所、孫吳・伊拉哈・鐵嶺・勃利には青年訓練所が設置されるに至つた。のみならず外に自由移民・林業移民、また鐵道自警村が出來た。かゝる情勢に直面してゐる我々は、若き同胞の北滿進出と其の活動に對しては、出來得る丈の理解を有ちつゝ其の支援に當らなければならない。それには滿洲殊に移住村の多い「北滿の風土と生活」に就ての認識を必要とする。由來、異民族の生活環境と其の文化の特質に觸接する機會の少ない我々は、如何なる方法に依つて、それらを修得すべきであるか。民族博物館の施設なく、また異民族の歷史的また地理的考察のよい文獻を有つ事の少ない我々としては、かゝる急激な國家的事變に遭遇しながら、眞に理解深き教養を以て、此の國家的事業の先驅者たる若き同胞に對する工夫は、目下の緊急事といはなければならない。此の理解深き教養の第一歩は、我が同胞の第二の故鄉たるべき移住地を、已に生活環境としてゐる原住民の生活と文化に對する理解が其の出發點でなければならない事は、我々は朝鮮や滿洲の踏査の結果から結論付けられる。故に新に結合關係が成立しつゝある支那に對しても、其の基本的な工作は、支那民族の生活と文化の現實に對する深き洞察が其の根底とならなければならない。

國際地理學會議

パリーの國際地理學會議（一九三一年・ソルボンヌ大學講堂）

○田中館博士　×著者

一六　一九三一年のパリー國際地理學會議

——日本に關する人文地理展覽會の開催——

一九二八年の七月に、イギリスのケムブリッヂに開かれた國際地理學會議には我が故山崎博士を始め、內田・田中・西田などの諸教授が、其の會議に列して、同會議から得られた見聞が、我が學界を稗益してゐるばかりでなく其の經過は、已に Report of the Proceedings として印刷され、これまた、我が學界に多大の寄與をなしてゐる。然るに次回の會議が、今年九月パリーに開催される事になつて、其の次第書や特殊研究に就いての論題までも發表されて、學術研究の國際的寄與が、年と共に盛んになりつゝある事を示してゐる。議事行程の諸問題の中で、地域の研究に直接關係あるのは、人文地理並に歷史地理に關する研究事項である。外に村落居住も、古代地圖の寫眞複寫の出版も問題になつてゐる。村落居住に就いては、同委員會で協定した詳細な事項があるから、それをもこゝに載せる。

なほ此の會議を機として、パリーに「日本に關する人文地理展覽會」開催の企をも併せて報じておくが、特に有志諸彥の協力を御願ひしたい。

一　人文地理並に歷史地理の諸問題

一　人文地理

諸產業の地方的分布
諸產業の分配の地理學的法則と運輸方法の影響、家內工業に關する特殊の研究と、其の現在に於ける分配並に持續期間のチャンス
都市的凝集
其の形成・變遷並に發展、運輸方法の影響、發展と整理のプラン、都市主義に是非とも必要なる地理的條件
熱帶の諸地域に於ける人類集團の分配
1　自然的環境の影響
2　五十年來の證明に依る其の分布狀態の變化と近き將來に起り得る進化
3　人種上各種のタイプの諸文化及び諸關係の最大の便宜から生じて來る生活樣式の變化
熱帶諸地域に於ける加速的運輸の方法
すでに得た結果、實行中のプログラム及び期待し得る業績
寡雨の諸地域の灌漑
すでに得た結果、實行中のプログラム及び期待し得る業績
人口密度の提示方法
異つたタイプをもつ諸地域について種々の尺度に依る地圖の提示
航行及び電力生產から見た河川處理の地理的殊に經濟的條件（ヨーロッパに於ける殊にフランス國內に於ける）

二　歷史地理

ヨーロッパ諸國に於ける十六世紀以來の近代製圖法の諸起原
主としてフランスに於ける古代の道中記の目錄及び其の批判的研究
自然地理・經濟地理及び人文地理の或る方面の變化を、認め得るに足る充分な精密さを示してゐる古代製圖上の記錄の批判的研究（河跡、河川、森林のひろがり、耕作、村または分散せる居住等）
十七世紀以來の異國探檢者達の未刊の道程日誌の研究

二　村落居住委員會の協定事項

一　パリーに開かるべき會議前に協定をなすの必要

村落居住委員會は、一九二五年 Cairo の會議によりて創立され、一九二三年の Cambridge 會議に於て其の事業は開始され、一九三一年の Paris 會議に於てもそれが繼續される事になつてゐる。

だから、一九三一年の夏迄の期間が有効に用ひられて、村落居住の研究が着々進捗して會議の題目中から消滅する事のない樣に切望する次第である。

吾人は此の研究問題に關心する各國の人達が、何れも各自は勿論其の周圍の人達にも夫々充分な個人的研究をなさしめ、これらの研究の全體が眞に一つの國際的研究と見做されるやうになる事を切望する。

一九二八年の Cambridge 會議の會員は、凡て村落居住委員會の作成にかゝる百三十頁の報告書を受けた。本報告書は諸家の諸論文を收錄したもので或種の問題に關しては或る光明を與へてゐる。Cambridge 會議の業績を收めた報告書も亦遠からず刊行されるであらう。是等の文獻は未だ本問題の根底に觸れたとは云ひ難いが、幾多の方向を指示し、各國の碩學が諸種の問題に對し企てられた主要な研究を記述してゐる事は諸君の認められる所である。

吾人は、今後本企圖に參加さるゝ凡ての協力者の爲に、こゝに一般的な規定を定めやうと思ふ。之は何等命令的な規定ではなく、單に各自の努力に多少の統一を與ふるに必要だと信ずるからである。

二　村落居住の研究を如何なる方向に向くべきか

此の研究を始むるのに、何人も正確な定義の必要を感ずるであらう。だから協力者諸氏が、めい〳〵に定義をさがし出すことは無駄な事ではあるまい。

先づ「村落居住」habitat rural と呼ばれ居るものを定義する必要があらう。都市以外の人間の建物 établissements ruraux 又に、此 ments humains を凡てかく呼ぶべきか又は農業經營の爲に使用する田舍の建物 établissements の名稱を與ふべきか。或は又其の意味を廣めて工業勞働者の假住居 abritent をも含めて田舍の建物 établissements ruraux といふべきであるか。

これと同樣に凝集 agglomération と集中 concentration の定義をきめるのも無意味ではないし agglomération に數種の變種 variétés 又は modalités あり、其の外形により、或は又 agglomération の中で、家屋の配置によりて判然たる區別を有するかどうか。

同様に、分散 dispersion と呼ばれるものを定義するのに、之に數種の變種があらうか。部落 hameau (hamlet, weiler) は、agglomération の形であるか、dispersion の形であるか。また一つの大きな農園に數百人の勞働者及び耕作人を有する場合は、それは散在居住の形式であらうか。

村落居住研究は、三部面 étapes に發展し得るものと思惟される。即ち各部面がおの〳〵立派な研究題目を提供するが、本問題の研究が完全となる爲には、此の三部面を綜合すべきである。それは先づ（一）地圖的研究をなすべく、各種の居住様式を詳細に示した縮尺の大きい地圖を解説することである。此の地圖解説は、勿論、居住景觀 Paysages d'habitat を直接に觀察することに基くべきである。次に（二）統計的文献の單なる利用によるべきである。そして最後に、（三）事實の説明に及ぶために、過去に溯りそこに起原を探り、又そこに居住様式の進化を究むべきである。

地圖的研究　地圖的研究は、最も單純最も容易で且又初になすに最も有益である。此の研究は Cambridge 會議の終に於て決議されたやうに、大多數の國々に於ける村落居住 habitat rural の諸タイプの配置地圖を制定せんがためである。

Habitations rurales の配置の二つの區分は、何人も承認するところである。即ち散在居住と集中居住である。純粹散在地域とは、家屋の絶對的散在の認められる地域のことで、社會共用又は商業家屋（即ち教會・學校・役場・小賣店・店舗・宿屋）等の集團以外の集團を有せざるものである。純粹集中地域とは、住民が互に接近した家屋の集團のみからなる地域である。

散在と集中との中間の各種類を定義することは、甚だ困難である。何となれば一つのタイプと他のタイプとの間には、多くの過渡及び兩者の混同があり得るからである。單純化するために是等の變種を總稱して混合居住と呼ぶのである。又小地方 pays により、此の混合居住の全體の内部を觀察する事によりて、小さな變種 sous-variétés を認め得るのである。故に會議のために準備さるべき地圖は、散在居住・集中居住・混合居住の各々に相當すべき三色又は三種の灰色の着色を用ひるのである。

研究された土地 terretoire が小さい時は、是等の地圖の作成は勿論、及ぶ限り土地の直接觀察に據り得るのである。

研究地域が相當大きな時は（大概此の例に入るが）、人間居住を詳細に知る爲に、非常に貴重なる縮尺の大きな地圖の活用が必要となり、そして一つの縮小した地圖の上には、其の綱要を總括してそれを會議に送る事となるのである。

又 Cambridge 會議の決議が要求したやうに、此の地圖に、地形圖の寫及び寫眞を添加すれば更に便利である。

統計的研究　統計的研究は、人口調査によりて必要な諸項が發表されて居る國に於てのみ可能である。或種の調

査によりて市町村 Commune 又は小教區 paroisse の行政の中心地 Chef-lieu と部落 hameau、僻つた部落 écarté と孤立居住 habitations isolées 間の最初の區別（尤も之は可成粗大なものではあるが）がつけられるのである。此の調査のみにても、既に人口の集團 Population aggomérée の比率を計算し、色分を定め、これを地圖に作成する事が出來る。然し單に市町村又は小教區の全體的數字に止まらず、人口調査の基礎資料に據つて、小集團までも詳細に知り得るならば、散在と集中との程度を殆んど正確に示すべき地圖を作成し得るのである。それには各市町村の表を作り、人口百人に對して、集團的居住者を、一人―五人の集團、五人―一〇人の集團、一〇人―二〇人の集團…といふやうに記入し、之が出來れば、それに相當する彩色を施して地圖を作るのである。之を廣い地域に及ぼすならば、此の方法は勿論長き勞力を要するのであるが、相當限られたる地域を適當に撰ぶ時は、極めて有利な結果に到達し得るのである。又若し之を幾つかの大きな地方が、夫々適當なる地域を撰定して適用する時は暗示に富んだ比較材料を得るであらう。

解說的研究　地圖的研究及び統計的研究は、村落居住の研究の出發點であり、其の根本に過ぎない。之を解說的たらしめなければ、それは理解しがたいものに終るであらう。

解說的卽ち科學的である爲には、其の起原に溯つて居住樣式の進化を考察しなければならぬ。疑もなく本研究には、歷史的文獻及び各種の土地臺帳の中に多くの材料を見出し得るのである。從つて地理學者が、歷史及び經濟に關する教養を有する事が必要で、且又歷史家が此の方面に就き地理學者に援助を與へる事が望ましいのである。

解說を云々するに當つて、こゝに多くの問題を提出しなければならぬ。之は、問題を悉くこゝに包括しようとする野心からでもなく、また輕々しく調査の範圍に制限を加へやうといふのでもなくて、我々の念頭に浮ぶ諸問題を假にこゝにリストとして示すにすぎない。之は假の總プログラムと見做し得るリストである。卽ち

村落居住に對する自然的條件の影響はどうか。地勢の影響はどうか。夫々の居住に對して、平野や山地は有利な條件を與へて居るか。地表面の性質の影響はあるか。乾燥地・濕地・浸水地・森林地・露出地。水源の影響はどうか、水の存在と稀少と缺如が、夫々の居住條件を作るのに關係があつたか。

村落居住に對する社會的條件の影響はどうか。何々地方に於ける人間住居の起原に於て、特に或る居住樣式が餘儀なくされたと云ひ得るか、人種的影響を述べ得るか。何々の居住樣式は何々民族に特有であるか。安全防禦の必要が或る居住樣式を特に强要せしめたか。居住樣式と耕作方法との間に關係を見出し得るか。

大所有地や大農園が、散在居住や集中居住を便ならしめるか。人口密度の稠密が居住樣式に影響を與へてゐるか。

農業經濟が村落居住に及ぼす影響はどうか。農業文明の如何なる程度が人間を特に如何なる村落居住に導いたか。農業が大農式なると或は集約式なるとに從つて村落居住が相異するか。農業組織に種々の程度があるか（耕地

の不斷の移動・耕地の定期的分配換へ・三年おきの輪作・不規則輪作等）。而してそれらは或る特殊な居住を生ぜしむるか。農業生產の方向が或る居住を生ぜしむるか。居住は農業が穀類を作ると牧場經營なると、或は又果樹や野菜の栽培を主とするによりて異なるか。村落居住の種々のタイプの中で、農夫の家に對しての耕作地の位置と距離はどうか。

居住のタイプの地理的分布はどうか。それは當該地方では常に同樣であるか。或る地方では居住形式の逆轉の例を歷史が示して居ないか。諸地方の農業植民史中に、集中居住の創始の徵ある時代と、散在居住の徵を有する時代が存在しないか。有史以前の居住樣式はどうか。今日植民地で人口を移植しつゝある新地方に於ける村落居住の形式はどうか。

分擔の形式と範圍　分擔研究すべき範圍と其の意義に關しては、勿論研究者自身のみ判斷し得るのである。即ち單純なノートから可成長い論文もあり、一市町村や一小教區や一小地區のみの研究から、大地域にわたる事もある。時日に充分餘裕なき者又は經驗少なき者は一市町村又は一小教區を限りてなし得るので、かゝる地方誌 monographies locales は、我々にとりて必要なるものである。且又或期間內に於ける一の居住の變化、進化の跡をたづね得る凡ての地圖等を求め得ることは望ましくあり、かゝる地圖の寫によりて、數時代にわたる居住の狀態をも比較し得るのである。

三　研究の集中

出來得る限り多くの國々に於て、地域的また地方的研究が行はれ、限られた土地に於ける居住の諸形式の分布が根本的に知られ、それを定義し分類し說明し、また詳密なる調査の豐富な地方に於ては、全體的綜合をも實現せんことを希望するのである。

かゝる希望の下に、私は同學諸氏に對し、御自身に村落居住研究に一つの協力をなされ、或は又貴下が關係される活動さるゝ學界に、此の研究準備を指導されん事を切望するのである。

凡ての分擔研究を整理し、一九三一年の Paris 會議の爲に、報文及び地圖の形式の下に、是等の研究の綜合を計る爲に、凡ての通信は一九三〇年十月以前に、村落居住委員會々長、パリー大學地理學教授Aドゥ マンジョン氏宛にせられたい。(M. C. Demangeon, President de la Commission de l'habitat rural, Professeur a l'université de Paris à l' Institut de Geographie 191, rue Saint-Jacques à Paris 5e) 以上は同氏指導の下に、幹事達が協力して摘要を作り綜合をなすのである。

會長及び幹事達が、各國の協力者諸氏に對して寬恕を乞ひたい事は、用語として多數の國語を用ひ得ざる事である。送付さるゝ研究文の全文又は摘要は、我々が直接解し得る左の國語の何れかを用ひられん事を希望する。即ち

佛・英・獨・伊・蘭語。

會長から提出され會議前に印刷される筈の報告文は、受取つた研究を悉く收むるのではなく、研究から得た結果新傾向・暗示された方法等の綜合的表である。此の表は會員をして、全體的研究の主要方向を把握せしめ、此の共同作業に於ける各自の研究の位地を明かならしむるであらう。勿論各研究者は、通達として書かれた各自の研究を會議の際に、詳述することは自由である。此の書かれたる覺書及び口述の通達は、或る範圍内に於て（此の範圍は今後定めるのであるが）會議に於ける研究報告書中に收錄さるゝ筈である。

（右はパリー大學在學中の田口稔氏から小田内に送られたものを、關西日佛學館宮本正清氏の譯されたものである）

三　日本に關する人文地理展覽會

ビイダル・ド・ラ・ブラーシュの『フランスの地理圖繪』でも、またジアン・ブリューンの『フランスの人文地理』でも、それらが何れも歴史叢書の中の一部として著はされてゐるのを見て、フランスに於ける地理學の位置が常に文化の解釋の基底としての立場を有つてゐる事が、我が國と極めて事情を異にするものある事を感じてゐた。それでパリーに國際地理學會議の開催されるのを好機に、「日本に關する人文地理の展覽會」を開いたならば、それが、從來歐洲諸國に比較的に紹介されてゐる日本の歴史・文學・美術等を理解さすのによい基礎的智識を提供するものであり、また國際地理學會議に出席する世界の碩學に、日本の地理的特質を紹介する所以でもあると考へた。

これに就いて、已にルエラン氏にも話合つた事がある。ルエラン氏は夏から秋にかけ、臺灣・支那・朝鮮などに旅されたので、殆んど半年會はなかつた。然るに歸佛前、最後の講演に上京された時に、氏は「日本に關する人文地理展覽會を國際地理學會議の機會に開く事は、よい企であるから、陳列品到着の上は適當な場所に陳列するやうにするからと、國際會議の幹事長ド・マルトンヌ教授からも返事があつたから、自分も歸佛の上は出來る丈け骨を折るから、成るべく各方面からの資料の蒐集を努力されたい」旨の話があつた。

國際地理學會議の開期は九月中旬に迫つてゐる。例ひ小規模な展覽會であるとしても、國際的に日本を紹介するものとしては、それが組織的なものでなければならない。從つて其の資料の蒐集並に整理には、相當な時日と勞力とを要するばかりでなく、解説の飜譯にもまた相當な時日と勞力とを要する。

資料の蒐集範圍に就いては、成るべく大方の示教に待ちたいと思つてゐるが、整理並に飜譯等の事情から考へ、おそくも五月末に發送するやうにするから、資料の蒐集の締切は、五月初にしたいと期してゐる。從つて展覽資料の標準は、大體は前に掲げた

一、人文地理並に歴史地理の諸問題

二、村落居住

三　日本に於ける人文地理展覽會

を地域的に取扱つた諸研究を主とし、展覽會の性質上各諸事項を具體化した地圖・圖面・寫眞等に、成るべく簡單な解說を附する方法に據りたいと思つてゐる。

なほ此の展覽會に陳列すべき日本の人文地理的特質を示す資料は、ドゥマンジョン教授からの希望により

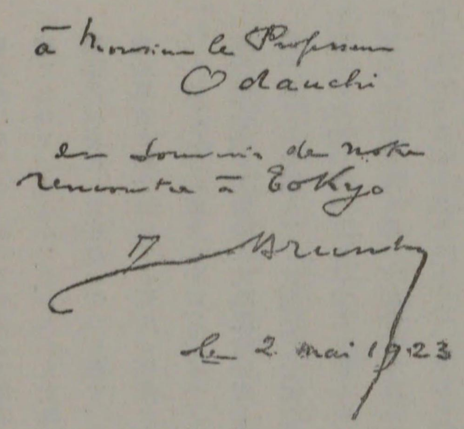
一、人口密度の地域的分布
二、米其の他主要穀物、桑・茶等の分布
三、標式的な村落並に都市のプラン
四、耕地のプラン（地籍圖）
五、標式的一農家の土地利用圖
六、開墾態樣を示す分布圖
七、村落居住のプラン（寫眞添）
八、漁業者の生活樣式の資料
九、北海道の農業植民の資料

を特に加へたい。展覽資料の全國的蒐集方法の組織化に就いては、目下研究中であるが、成るべく多數の參加を希望する。

四　フランス學派との交渉

終りに、フランス學派と我が地理學界との交渉に就いて一言したい。日本でフランスの學風をはやく傳へられたのは田中阿歌麿氏である。其の文獻は、ふるい『地學雜誌』に散見してゐる。其の後大內武次氏は、フランスの人文地理學的研究方法に着目し、ブリューン教授の『人文地理學』がまだ英譯の出來なかつた當時、今・芦田・小田內等と共に其の研究方法を同攻した。雜誌『人文地理』を出したのも、フランスの人文地理學的方法を我が學界に寄與したい念願からであつた。小寺廉吉氏は、ブリューン教授から親しく教を受けられた人であり、ドゥマンジョン氏へ親炙した人は大內武次氏である。最近では、在パリーの田口稔氏であらう。田口氏の近信に依れば、

フランスの地誌的研究を主とする一群のフランス學徒の自然科學重心のメトードに對して、ブリューン丈はとびはなれた存在であつたと思ひます。ブリューンの死は過日新聞を差上げましたから



筆自授教ーユーリブ

御承知でせうが、此の不世出の大學者は天才國フランスと雖も稀な所產と思ひます。ブリューン出でたるために建てたコレッヂ・ド・フランスの人文地理學講座は、ブリューンを失つたが爲につぶれることゝ考へます。世界の斯學界は正に一大巨星を失つた譯で、私は留學の半の目的がなくなつて困つてゐます。ブリューンは一地域の地理的事實を綜合表現する究極の媒體を藝術に求めたかに察せられます。特に其の晩年卽ち一九二九年の十二月から一九三〇年の五月にかけてのイベリヤ半島の講義の三分の二は、キリスト教文明と回教文化との交錯に成る寺院建築・彫刻・美術の人文地理的分析と交響樂的綜合の展望とにあつたと思はれます。

自分はこれを讀んで、支那史に支那文化に精通してゐられる內藤湖南博士が渡佛後に會つた時に、「歐羅巴人で東洋人の事物の考へ方とぴつたり會ふのはフランス人だ」といはれた記憶を呼び起した。ルエラン氏の日佛會館專門講演「佛領印度支那」を紹介する度每、自然現象や人文現象を分析し說明する表現が、手短な俗語で、それを片付けるやうな事が屢々あるので、それを聞き質すと、同氏は、笑つて「それはフランスの風で、學術研究の結果でも、それをまとめる場合には、成るべく使ひならされてゐる言葉で、それをいひあらはすやうにする。此のナラワシに就いて、嘗つて山崎博士に話したら驚かれてゐた」といはれたことをも思ひ出すのである。

我が地理學界また地理教育界は、從來ドイツとアメリカの學風が取入れられてゐたが、フランスの學風の特長もまた取入れられる必要があらう。殊に鄕土の研究と教育が必要となつた今日、かゝる研究と教育に、一隻眼をもつてゐるフランスの學風は、此の際十分取り入れる必要がある。前述の「日本に關する人文地理展覽會」にも、其の一部に、德川時代の鄕土學者によつて表現された綜合的文獻—地誌・地圖・繪畫—をも紹介して、日本にもフランス風の研究方法のあつた事を明かにしたいやうな氣がする。

終りに臨み、故ブリューン教授の英文『人文地理學』にサインされた自筆をこゝにかゝげて、哀悼の意を表したいと思ふ。一九二三年五月二日、フランス大使館の一室に、同教授に會ひ「日本にも英文『人文地理學』が大分行はれて來た事」を話した時、盲腸炎に惱んで上陸僅かに二三日で、上海のフランス病院で手術すべく、橫濱から出帆されやうとしてゐた氏の蒼白な顏にも、言ひ知れぬ笑を浮べられた印象を、まざ〳〵と思ひ浮ぶ事が出來る。もしあの時豫定通り日本を觀察されたならば、其の結果は必ず『人文地理學』の第三版に載せられたであらう。當時同教授に送つた拙著『帝都と近郊』の一節を、態々田中阿歌麿氏の渡佛に際し、佛譯して載せたいから摘要を送るやうにとの言傳があつたが、それを果さなかつた事を今になつて濟まなく思つてゐる。

一七　國際地理學會議と日本人文地理展覽會

一　はしがき

私は「一九三一年のパリー國際地理學會議」を機會に「日本に關する人文地理展覽會」を開催したい企圖は前稿に述べた通りであるが、一九三〇年の末、ルエラン氏が歸佛に際し、フランス大使館に其の進捗に就いて言ひ置かれ、同大使館通譯ボンマルシヤン氏はこれに就いて文部省專門學務局學藝課と交渉する事となり、石丸學藝課長は主として其の事務に當られ、諸官廳・各大學・諸專門學校・府縣師範學校の鄕土研究室並特殊研究家等より出品を勸誘された。六月十二日午後に、其の企圖を組織化する爲に、學界の長老田中館・新渡戸兩博士を始め日本學術會議の地質學地理學部長小川博士、中央氣象臺長岡田博士、東大理學部の加藤博士、辻村助教授、田中子爵、東北大學の田中館講師、文理科大學の內田・田中二助教授の來集を求め、石丸課長と私とは、從來の經過を述べて諸氏の意見を徵したのであつた。

此の會合に於ては、先づ出品に對しての種々の注意が、夫々の專門なりまた海外諸國の見聞なりからなされたので、多方面にわたり且つ有益であつた。最後に小川博士の左の提案

一、出品を携へて特に一名の派遣を要する事

二、出品の準備委員として田中子爵・內田・田中二教授を委囑する事

を議決して、着々其の準備を急ぐ事になつた。其の後學藝課に於ては、時日の切迫につれて各方面からの出品の蒐集並整理に忙殺され、殊に一定の調査項目（拙案）によつて、各府縣から出品を促した村落居住に關する圖面の再製・寫眞の整理には直接多大の時間を費し、又出品の一部の作圖には岡田博士、題目の佛譯に就いては殊に田中子爵と山口氏を煩はす事多かつた。

かくして出品の大部は、海路マルセイユに向つて船積したが、最後のものは、八月十四日出品の用務で派遣される事になつた私が、シベリア經由で持參した。

二　日本に關する人文地理展覽會

パリーに着いたのは九月一日であつたが、間もなく日本大使館を訪れて出品物の着否を尋ねたが、一部はパリーに着いており、殘りはマルセイユに着いてはゐるが無稅通關を希望してゐる爲に、會期が目前に迫つてゐながら却々捗取らなかつた。しかし田中文部大臣から特に芳澤大使宛の依賴狀もあつたので、大使館では非常に配慮され、

十六日の會期を前にして十二日の午後四時すぎ、漸くサン・ジャックの地理學研究所に、待ちに待つた出品の荷物を手にする事を得た。

出品物の着く以前に、嘗つては東北帝國大學で田中館講師の助手をなし、現にフランス文學研究の爲め滯在されてゐた澁谷太郎氏と共に、幾度か所長ド・マルトンヌ教授とルエラン氏とに、陳列品の多い事情を述べて相當の壁面を提供されたいことを述べたのであつたが、一定の內規があるからとの理由の下に陳列室(三階)にきめられた一室の數間の壁面しか與へられなかつたが、出品の荷物が解かれて其の內容を知ると、ド・マルトンヌ教授は、研究所の入口の突當り控室の一部には、數年前汎太平洋會議を機として陸地測量部で作られた Map of Japan (二百萬分一)を掲げ、なほ改造社・新光社の日本地理全集、國際觀光局の印刷物を陳列して、日本の概觀を得るに便されたばかりでなく、前に約束された三階の壁面の外他の壁面の大部分を提供され、なほ入口から三階の陳列室に至るまでの階段の壁面の全部を使用するやうにとの事であつたから、十三日は日曜日ではあつたが、前記澁谷氏を始め、那波助教授や多田助教授や井原博士や森本六爾氏や下村秀三氏など、何れも薩摩會館に同宿しておられたので其の陳列に手傳はれ、また二年前から人文地理學の研究に來てゐられた田口稔氏も參加されたので、それがフランス側の陳列掛の方々の好意と相待つて、開會日たる十六日の前日までに陳列を完ふする事を得たるはせめてもの幸であつた。しかしかくまで運ぶ事の出來たのは、國際學術會議に經驗豊かな田中館老博士の助言に待つ事多い事を特記しなければならない。七十餘歲の老齡であるにかゝはらず、細心にして活動的な同博士が、偶然にも薩摩會館に同宿され、しかも國際地理學會議に日本政府代表として列席される事になつたので、何くれと御指導を受ける事の便宜を得たのであつた。陳列の都合上、故山崎博士の貞秀に關する蒐集、橫濱開發の中核をなしてゐる吉田家の新田圖、其の他日比谷圖書館、三井家文庫等より出品された古地圖類を薩摩會館に陳列し得たのも同博士の配慮に負ふ所が多い。

地理研究所に陳列した主なる出品は、入口から上り階段に沿ふての壁面には、東京市役所出品の東京市の今昔を廣重の繪と現在の寫眞とによつて比較したもの、國際觀光局出品の日本各地の代表的風景寫眞、陸軍下志津飛行學校出品の航空寫眞、內務省都市計畫課出品の東京・京都・奈良三市の都市地域變遷圖、陸地測量部出品の東京市に關する各種地圖、臺灣總督府出品の林相圖、長崎縣女子師範學校出品の大幅長崎港古圖等貼付され、三階の陳列室には東大地理學教室出品の人口・居住・聚落等の各種分布圖、文理科大學地理學教室出品の人口・耕地等の分布圖、學藝課より一定の調査項目によつて集めた村落居住の地圖並寫眞、千葉縣農會の農村經營研究、長野縣產業形態圖(三澤氏)、埴科郡人口分布圖(高野・野中二氏)、村落居住研究(田中子爵)胡麻鄕村人文發達圖(都野氏)等であつた。

今回の此の展覽は、前の拙稿「一九三一年のパリー國際地理學會議」に述べたやうに、はじめから公的機關が組織的に企圖したものでないから、日本の人文地理的特質並人文地理學的研究の現狀を、國際的に紹介するとしては

不備なものである事はいふまでもないが、從來此の種の展覽會が試みられて居なかつた爲に、世界の學者が相當な興味を有つて之を見た事は明かなる事實であつた。例へば初めド・マルトンヌ教授は、數間の壁面より日本の出品の陳列を許さなかつたに拘はらず、一旦出品の實物を見るや、直ちに階段の壁面より陳列室の壁面の大部に陳列するやうにいはれ、後に陳列品全體を一々通覽した時にも、陳列した寫眞並地圖の寄贈を懇望され「貴君が日本に歸つてから必ず寄贈されるといふ言葉を信じて日本に返す事を承諾する」といはれた。歸朝に先ち十一月十九日地理學研究所に暇乞に行つた時にも、此の展覽會の成功であつた事を繰返して「九月二十四日の最後の宴會に、會長ブルジョア將軍が貴君が此の展覽會に盡された事を感謝された事は記憶しておられるであらう」といはれた事でも明かである。また二十四日に會議が閉會され、ドゥマンジョン教授指導の下に、セイヌ河右岸のルーアン市からアーヴル港の間を、二十六日から三十日まで五日間のエキスカーションに行く事になつてゐた私は、二十五日に出品の全部を包裝して出發するつもりで、ドゥマンジョン教授に其の旨話したら、同教授は「諸國からの來會者の中には、此の展覽會は國際地理學會議よりも意義があるといふ人が少なくない。開會中事務多忙であつた爲に、其の出品を通覽する事すら出來ずに其のまゝ日本に送り返す事は甚だ遺憾であるから、十月に入つて是非一度通覽するやうにされたい」といはれた事によつても明かである。スウイスのツーリヒのレーマン教授の如きは最も熱心な研究者で、屢々其の後質問され、埴科郡人口分布圖を指して、「かゝる研究はまだスウイスでも行はれてゐない」といはれ、其の後ツーリヒを訪れた時にも、同教授は、スウイスでのドイツ語を話す地域に於ける諸研究に就いて紹介する所が多かつた。こゝに私の所感を挿むならば、四年毎に開かれる此の國際地理學會議に際し、展覽の形式に於て日本の地理的特質並地理學的研究を組織的に紹介する事は、純學術的意義からは勿論、日本をより深く且つ廣く世界に紹介する上に必要な事であり、それが日本のやうに國際的孤立の位置におかれてある國としては必要であると信じてゐる。かゝる事は日本學術會議の如き公的團體が中心となつて組織的に企圖されたならば、相當の効果をあげ得る事であらう

十月半になつて、ド・マルトンヌ教授もドゥマンジョン教授も共に田舍の別莊からパリーに歸られ、二教授は夫々の都合上各々半日宛ルエラン氏と共に、陳列品を一枚々々通覽されたが二教授共最も興味をひいたのは、日本の村落居住に關する寫眞であり、從つて其の特色あるものは複製して寄贈するやう熱望されてゐた。ドゥマンジョン教授の如きは、何故日本に村落居住の地理學的研究の起らないかを質問されたので、其の理由を說明したら、次の會議までにはぜひ多くの研究報告をと望んでゐた。今回の國際地理學會議の第四部人文地理學に於て、村落居住の研究報告者が三十九名の多きに達した事でも明かであり、また二十四日の總會の決議に於て、其の委員會を繼續し各國に小委員會を設けて協同研究を行ふ事になつた所から推しても、またポーランドからは今回相當な研究報告者を出してゐたばかりでなく、次回（一九三四年）の會場がポーランドに決した所から推しても、村落居住の研究は今後

益々進展するであらう。村落居住の研究に次いで、二教授の興味をひいたのは人口の地理學的研究であつた。夫は會議中に、過剰人口の問題と國家的並に地域的條件との關係を研究する委員會の制定を國際地理學會議によつて設置される事をビアスチ(伊)・イェール(瑞)・ドゥ マンジョン(佛)・フルール(英)・ミショット(白)・ボーロースキー(波)・小田内(日)の名で提案し、夫が總會の決議事項となつた事で明かであり、又陳列品に就いても、井上氏の日本市町村別人口增減圖の地理學的解釋を求められた。かくて二教授は此の展覽會の主なる出品の說明を兼ねて、十數ページの要報をパリーの地理學雜誌(アンナル・ド・ジオグラフィー)に揭載すべき事を望まれ、其の內容に就いても其の希望を述べられた。筆者は二教授の陳列品に對する批評を聞きながらフランスの人文地理學的研究の傾向を明かに知る事を得たのは、何より嬉しかつた。岩手縣師範學校から出品された城下町盛岡の地圖をドゥ マンジョン氏が見て、「このやうな職業別の都市的構成のある事を知らずに居るのは學術研究上遺憾である」といはれた。此の展覽會を機緣として、フランス側でも日本に地理學に關しての展覽會を開く事は可能であるらしい。

三　國際地理學會議

國際地理學會議は、十六日午後パリー大學の講堂に開かれ、十七日からは、地理學研究所及其の附近の諸教室で開かれたが、其の部門は、(一)地形學並製圖學・(二)自然地理學・(三)生物地理學・(四)人文地理學・(五)歷史地理學・(六)圖書並教育であつた。佛語に通じない筆者は一に田口稔氏の通譯により、十七日から二十三日まで大體の經過を知るに過ぎなかつたが、各部をのぞくよりも、イスパニア研究所で開かれた第四部人文地理學の諸講演に列する事にした。此の部では十七・十八の二日の午前に亘り、產業の地方化に就いての諸報告があり、十九日の午前には熱帶人類の分布と熱帶地方の交通に關する諸報告、二十一日には午前から午後にかけて村落居住に關する諸報告があつた。重要な報告の後には討議が行はれたが、村落居住に就いての三十九名の報告者中十一名を殘し、それは二十三日の午後にまはされる程の盛會であつた(『地理學評論』八ノ二農村居住委員會報告參照)。二十一日の村落居住の諸報告には、ドゥ マンジョン氏座長となり、ベルギーの女博士ルフェーブル女史書記となり、午後にはベルギーのミショット氏、イギリスのフリュール氏、再びドゥ マンジョン氏と順次に代られ、何れも討議に努められた。二十三日の午後村落居住に關する諸報告を了つた時、ミショット氏が起つてドゥ マンジョン氏の村落居住の研究に對する業績を笑ひながら稱讚し、銅像を建つべしと提議し滿場拍手して之に應じたのは、堅苦しい應答に終始する事を常とする日本の學術的諸會議に見がたい情味のある光景であつた。

二十二日の午前から午後に亘つて、都市集團と灌漑に關する諸報告があり、二十三日には午前は人口密度の表現方法と河川交通に就いての諸報告があつたが、私は午前には地圖に就きて日本の村落人口の地域的特質(田口氏代演)、午後には幻燈入で日本の村落居住の考察(ルエラン氏代演)を試みた。村落人口の地域的特質は、昭和四年から同六年にか

け、內閣人口食糧問題調査會囑託當時調査した資料に基いたもので（『日本學術協會報告』第六卷參照）、岩手・茨城・新潟・奈良・香川・廣島・福岡七縣に就いての調査であり、村落居住の幻燈は、（一）丹那盆地・（二）阿賀川中流域・（三）利根川下流の水田地域・（四）關東平野の洪積臺地と沖積低地との接觸地帶・（五）洪積臺地・（六）岩手縣の山村・（七）收穫季の共同作業・（八）武藏野・（九）葛飾の低地・（一〇）東京近郊の農夫・（一一）葛飾低地の花卉栽培・（一二）生駒山脈西麓の村落・（一三）京都市外の農家の竈・（一四）朝鮮の火田民・（一五）中鮮の民家・（一六）朝鮮の市場で、材料は自からの撮影原板を主とし、陸軍下志津飛行學校の航空寫眞によつて補つた。此の幻燈の作製に就いては、私は特に東北大學の田中館講師の好意に感謝の意を表したい。

ロンドンの地理學雜誌（ジオグラヒカル・ジャーナル）（一九三一年一二月號）に載せられた「國際地理學聯合會のパリー會議」なる記事を見るに、人文地理學の部門の報告の結末に、

他の諸科學の歷史に例へれば、人文地理學の現在はリンネの植物學の時期に達したといへる。次ぎの大きな歩みは、是等の諸事實を包括すべき規定たる適切な體系を發見し又は發達さす事である。

といつてゐるが、これは人文地理學の現狀に對しての至言である。

（附記）一九三一年九月二三日のパリー「コメディア」誌には、此の展覽會の內容を報告して、「立派な一展覽會を開催し得る」といつたほど好評を博した。

一八　過剰人口の地理學的研究と國際地理學會議

過剰人口の意義に就いては、或は食糧と人口との關係から、或は失業と人口との關係から、之を定義附けようとして、諸說一定しないにしても、それを國際地理學會議で、「村落居住の諸型」を始め、特殊の研究題目に就いて八ツの委員會が組織されてゐるのと同じやうに、委員組織の下に、研究する事を促進するやうになつた事は、人口問題が國家的問題として、また國際問題としての重要性に鑑みて、當然の事と言はなければならない。

顧みれば、一九三一年の九月であつた。パリーでの國際地理學會議の際に、筆者も驥尾に附して、十年前に內閣の人口食糧問題調査會當時に調査した資料に基いて、「日本の村落人口の地理的特質」に就いて述べ、序に人口の地理學的研究が、同會議に於ける特殊研究の一部門たるべき事を提議したのであつたが、當時イタリアのムッソリニー首相の主張の下に、同じく九月にローマで開催された國際人口會議に刺戟されもした爲でゝもあらう、人口の地理學的研究の必要が七名の委員（ピアスチ・ドイエール・ドゥマンジョン・フル・ミショット・ポウロウスキー・小田內）によつて提議され、大多數でそれが成立したのであつた。

我が國に於ける朝野の人口問題に對する關心は、歐米諸國に比して、未だ盛んだといふまでに至つてゐないが、

これを十數年前に比較すれば、相當に注目點となつて來た事は爭はれない事實である。例へば十年前に政府で設置された人口食糧問題調査會の代りには、故新渡戸博士の提唱が因となつて、新に人口問題研究會が生れ、それが故柳澤保惠伯を會長として、數多の識者の協同の下に成長し、今日、會長佐佐木行忠侯爵の下に、大に活躍しつゝある。地理學の方面に於ては、京大の石橋博士は、夙に人口地理學の研究に先鞭を着けられて、小野學士の編した『大日本郡市別人口密度圖』を指導され、同博士の地理學教室には小牧博士を始め、數多の若き研究者を出してゐる。東北帝大の田中館講師、東京帝大出身の石田・武見・井上の三學士の如き、また人口地理學に多大の關心を有つてゐられる。かくして多くの人口研究の文獻は、若き地理學徒の人口地理研究に此の上ない指針となりつゝある。

しかし日本の人口地理學の研究の學田は、其の他の人文地理學的研究に比べては、決して盛んであるといふ事は出來ない。勿論これは、發達日猶ほ淺き人文地理學の現狀から見て、已むを得ない事であるとしても、國家的はた國際的問題として、極めて重要性を有つてゐる我が國の人口問題の現狀からすれば、其の發達の一日も早からん事を希望するのは、筆者が之に對して比較的關心を有つてゐる故からばかりではない。

昨今殊に我が地理學徒に注意して欲しいと思ふ事は、人口問題が國家的並に國際的問題であるが爲に、それに對する朝野の關心が盛んなるにつれて、それへの地方的國家的並に國際的對策の調査なり研究なりが、比較的注目の中心點となる傾向が多いのにつれて、動もすれば其の基礎的研究としての地域的考察が輕んぜらるゝに至る恐がある事である。即ち全日本を單位とする人口現象の研究が、比較的多く論議せらるゝに反して、夫等の地域性が顧みられない傾向の多い事である。これに對しては、朝野の識者が、先づ之が指導の任に當らなければならないのは勿論ではあるが、地理學の研究並に地理教育に携はつてゐる我々は、其の專門の立場から、其の研究また教育を通して、人口の地理學的研究及び解釋が、人口問題研究の上に、どれだけ重要な役割をなすものであるかを、明示する必要がある。之に就いては、あらゆる地理的現象が、夫等の地域性に重要な意味を有つてゐるのと同じやうに、人口現象にも夫々立地する地域性に重要なる意義が見出されるから、各地に散在してゐる地方の地理學徒の努力によつて、日本の人口地理學の發達が期待さるべきである。

一九三四年の春、筆者の手許に達した國際地理學會議過剰人口委員會の手によつて成つた「過剰人口委員ノ立テタ計畫案」は、我が國の人口の地理學的研究の上に、非常によい指針であると思はれるから、玆に轉載することにする。

過剰人口委員會ノ立テタ計畫案

一、委員會事業ノ大綱

人口問題ヲ地理學的、經濟學的並社會學的見地カラ同時ニ考察スルナラバ、人口ノ最適ナ條件ハ、住民一人當ニ

最モ確實ナ收入ノ途ヲ與ヘ、同時ニ健康ト慰安ノ良キ狀態ヲ確保スル所ノ條件デアルトイフ事ガ出來ル（是レ以外ノ定義ヲ與フルハ相當困難ナ事デアラウト思ハレル）。若シ經濟學的ノ人口過剰ガ存在スルナラバ、人口ノ減少ガ其ノ結果トシテ社會的條件ノ改善トナルデアラウ。經濟學的ノ過剰人口ト社會學的ノ過剰人口トハ一致シナイ事ガ屢々アリ得ル。

理論上、地球ハ現在包容セラルヽ人類ヨリモ遙カニ多數ノ人類ニ生活資料ヲ供給シ得ルモノデアリ、又地球上全般的ノ過剰人口ハ絶對的ノ意味ニ於テハ存在シナイノデアル。事實ニ於テ過剰人口ノ次ノ如キ種々ナル徵候ヲ見ルノハ、地域的ノ問題デアル。即チ飢饉ノ頻發、過少消費ノ永續、慢性ノ失業、夥シキ移民、安住ヲ失ツタ農民ノ都市ヘノ集中、病疫ノ傳播ヲ來シ易ク又健康及社會的安寧ニ害ヲ及ボスヤウナ人々ノ集積。

如何ナル諸地域ガ、前記ノ如キ徵候ヲ現ハシテ居ルカヲ決定シ、是等ノ諸地域ノ各々ニ於ケル人口ノ進展ヲ研究シ、其ノ住民ノ生活樣式及分布狀況ヲ調査スル事ガ過剰人口委員會ノ事業タルベキデアル。

二、過剰人口ノ主要ナル諸型

第一型　北部支那　ガンヂス河流域、中部印度、アフリカノ或地方ノ土民、アイルランド東部、ヘブリディス……是等ノ諸地域ニ於テハ、住民ハ特ニ地方的ノ消費ノ爲ニ、專ラ糧食ノ生産ニ從事シ居ルモノデアルガ、彼等ノ處分シ得ル糧食ノ量ガ其ノ生計ヲ保ツニ足ラズ、從ツテ他ノ物資、器具、機械等ヲ手ニ入レルニ不十分ナ場合ガ屢々起ツテ來ルノデアル。コノヤウニ足ラナイ場合ガ屢々起ツテ來ル時ハ、相對的ナ過剰人口ガ問題トナリ得ルノデアル。此ノ相對的ナ過剰人口ハ、出産率ノ强イ弱イニ拘ハラズ、人口ノ稠密ナル事カラ起リ得ルシ、或ハ又外來ノ重壓或ハ其ノ他ノ原因ノ結果トシテ起リ得ルノデアル。本委員會ハ是等ノ諸地域ヲ類別シ、各地域ノ人口ノ增加ヲ逐次的ニ精確ニ調べ、此ノ現象ノ要因ヲ究ムル事ヲ努ムルデアラウ。本委員會ハ、又地理的環境及農村經濟ノ諸差異等ヲ考慮ニ入レ、農民ノ最適密度ヲ測定シ、又同時ニ同一地域ニ於ケル非農民ノ最適密度ヲモ測定シ得ル事トナラウ。過剰人口ハ必ズシモ人口ノ稠密トハ關聯シテ居ルモノデハナク、寧ロ土地ノ或種ノ開拓方法カラ起リ、又或種ノ開拓方法カラ起ツテ來タ土地ノ荒廢ノ爲ニ生ズルコトヲ見遁シテハナラナイノデアル。

第二型　エジプト、南部ロシア、ジヤヴァ、ルーマニア……是等ノ諸地域ニ於テハ、住民ハ自己ノ消費ノ爲ニ農業ニ從事シテ居ルモノデアルガ、又或程度ニ於テハ、他ニ販賣スル爲ニ農業ニ從事シテ居ルノデアル。彼等ハ其ノ生産物ヲ賣却スルニ當ツテ時々困難ヲ感ズル。蓋シ人口ノ增加ハ、屢々生産ノ過剰ヲ惹キ起スカラデアル。本委員會ハ、是等ノ諸地域ヲ再認識シ、其ノ人口ノ增加ヲ分析シ、輸出貿易ノ進展ヲ逐次的ニ調べ、非農民ノ人口ノ重要性ヲ評價セント試ミルデアラウ。人口問題ハ、此ノ場合ニ於テハ、特ニ國外販路ノ問題ト緊切ナル關係ヲ有シテ居ルノデアルカラ、最適密度ヲ決定スルヤウナ試ハ無益ト思ハレルトハイヘ、輸出ニ關係ナク生活シ得ル所ノ住民ノ比率ヲ調ベル事、及其ノ必然的ナ結果トシテ輸出ニ依存スル住民ノ比率ヲ調ベル事ハ重大ナ事デアラウ。

第三型　北米合衆國ノ諸地域……是等ノ諸地域ニ於テハ、農業經濟ト工業經濟トハ、兩者等シク本質的ニ國內消

費ノ爲ニ生産スルモノデアツテ、輸出及輸入ハ、從屬的ノ役割ヲ演ジテ居ルニ過ギナイノデアル。本委員會ハ、是等ノ諸地域ニ於テ、過剰人口ガ問題トナリ得ルヤ否ヤヲ攻究シ、若シ其ノ問題ガ有リ得ルナラバ、此ノ現象ノ進展ヲ攻究スルデアラウ。又本委員會ハ、村落及都市ニ於テ、實際上達シ得ル最過密度ヲ測定セント試ミルデアラウ。

第四型　ポーランド、イタリア、日本……是等ノ諸地域ニ於テハ、農業經濟ト工業經濟トハ、相關的ノ關係ヲ有シテ居ルノデアルガ、農村經濟ガ主位ヲ占メテ居ル。過剰人口ノ徵候トシテ、失業、過少消費、移民等ガ見受ケラレルノデアル。農村人口ト都市人口トノ比率ト同樣ニ、又農村人口ノ密度ヲ攻究スルコトガ必要デアラウ。尙ホ過剰人口ノ他ノ現ハレトシテハ、山林ノ伐採、蔬菜ノ栽培ノ普及、經濟循環ノ發展等ガ、分析ノ結果見得ルノデアル。

第五型　ドイツ、ベルギー、オランダ、イギリス……是等ノ諸地域ニ於テハ、經濟ハ主トシテ製造工業ノ生産物ヲ海外ニ輸出スル事ニ依ツテ特徵ヅケラレテ居ルノデアル（農業ハ重要デアルニシテモ、アラザルニシテモ）。時々過少消費ト失業トニ惱マサレテ居ルノデアル。過剰人口ノ種々ナル現ハレノ中デ、小區域ニ多數ノ住民ガ集積シ、非常ナル都市的壓迫ヲ見受クルノデアル。過剰人口ノ諸原因ノ中デ、外國市場ノ閉鎖ト輸出貿易ノ衰頽ト機械工業ノ發達ガ、如何ナル役割ヲ演ジナケレバナラナイカトイフ事ヲ、現時ノ時勢ガ明カニシテ居ルノデアル。

三、過剰人口ニ關スル其ノ他ノ諸觀點

一般的ニ過剰人口ニ關スル研究ニ於テハ、左記ノ諸問題ハ何レモ等閑ニ附スベカラザルモノデアル。即チ農村人口ト都市人口トノ比率、死亡率、出産率、生活水準。

人口問題ニ關スル根本的ノ一觀點トシテ、「經濟的且社會的ノアラユル影響ヲ伴フ都市凝集ノ增加ノ問題」ヲ考察スベキデアル。又同ジク過剰人口ノ或獨自ナ場合ガ注意ヲ惹クデアラウ。即チ小島嶼內ニ住民ノ例外的ナ集中（例ヘバ、バルバード、アングロノルマン群島、マルタ、モーリス、パリ等ノ諸島）、山嶽地方ノ人口狀態（例ヘバ、アルプス、ピレネー、スコットランドノ高地、カビリア）。

如何ナル原因ノ影響ノ下ニ、或國例ヘバ、フランスノ如キ國ガ、過剰人口ノ狀態ヲ經テ、今ヤ均衡狀態ニ達シタカヲ研究スル事ハ、關係ノ重大ナ事デアルデアラウ。

最後ニ、過剰人口ニ關シ、諸地域ニ應ジテ異レル救濟法ノ存在スルカヲ問題トスル事ガ出來ルデアラウ（工業化又ハ農村復歸）。

本委員會ハ、一九三四年九月、「ワルソー」ニ於テ開催セラル、國際地理學會議ノ討議ニ附セラルベキ是等ノ研究ヲ促進シ、又取纏ムルコトヲ根本的ノ目的トスルデアラウ。スベテ此ノ仕事ハ、各國ノ、團體ニ依ツテ組織シ得ラレ、又實現サレ得ルデアラウガ、國際政治領域ニ立チ入ル事ヲ、充分ナル注意ヲ以テ避ケナケレバナラナイデアラウ。

過剰人口委員會　會長　フルール（英）　幹事　フォウセット（英）　委員　ドゥマンジョン（佛）　ミショット（白）　ボウロウスキー（波）　ド・イエール（瑞典）　トニオロ（伊）

附記　右委員中、イエール氏ハ、死去セル旨同未亡人ヨリ通知アリタルモ、右委員中ニ名ヲ列シアルハ、死去前ニ會合、右計畫案ニ參與セシ爲ナルベシ。（小田内）

此の計畫案の內容は、我が日本の地理學徒の人口地理學的研究に比ぶれば、種々の點で著しい差異がある。かゝる研究を目標とする研究方法から見れば、從來の我が地理學徒の研究方法、卽ち夫等の研究の歸結として發表されてゐるものは、此の計畫案から見れば、寧ろ準備的研究としての基礎工事であつて、其の上に眞の意味の結論が要請される研究方法が採用されなければならない。此の眞の意味の結論を生み出すためには、以上の計畫案を讀んで見ても解るやうに、單に地誌的描寫を忠實にするだけの研究の集積だけでは、結論が生れて來ないのではないかと思はれる。これは人口の地理學的研究ばかりではなく、今日我が國の地理學徒の間に行はるゝ地誌的研究の學風一般に就いても言はれると思ふ。あらゆる人文地理的現象の中でも、殊に綜合的考察を必要とする人口の地理學的研究に對しては、殊に此の感を深くするのである。

以上の計畫案の中で、(一)過剩人口の發生に就いての地域の類別を全世界になされたやうに、我が日本の諸地域の上にもそれが應用されはしまいか。また(二)イタリヤやポーランドと同型に取扱はれてゐられる我が日本の人口狀態は、第四型から第五型に移變しつゝあつたのであるが、滿洲國への大規模の移民計畫や、支那事變に伴ふ今日の我が國の情勢は、全く第五型に屬するに至つてゐる。

一九　國際地理學會議と過剩人口委員會

一　國際地理學會議

私は今回（一九三四年）、人口問題研究會や國際文化振興會、文部省等の援助によつて、國際地理學會議に出席することが出來ました。第一回はカイロ第二回はケンブリッヂ、第三回はパリー、第四回はワルソーで、三年目に國際地理學聯合會に附帶して、開かれる會であります。

會議の組織は、六部になつて居ります。卽ち、（一）製圖學、（二）自然地理學、（三）人文地理學、（四）先史地理學歷史地理學、地理學史、（五）地理的景觀、（六）地理教育の方法で、地理的景觀は、今年から新しく設けられました。是等の諸部門に所屬してゐる委員會はいろ〳〵ありますが、過剩人口委員會は、第三回がパリーで開かれました時に提案されまして、今回の會議から具體化された譯であります。會議は八月二十三日から三十一日まで續きましたが、會議の前と、會議の中と、會議の後にエキスカーションがありました。この會議の前のエキスカーションと後のエキスカーションは、相當長いものでありましたが、會議中のエキスカーションは一日でありまして、恰

度日曜日で二ケ所にありました。私は一つだけ參加し、參りました所は古い市場町でありました。ドイツの學者はパリーの時には、殆んど參りませんでしたが、今度は相當の方々が見えてゐましたし、殊に少壯の方が見えて居りました。またロシアからも參りました。エキスカーションの外に――巴里の時はなかつたのでありますが――地理學一般の問題に對する特別の講演がありまして、それが毎日一時間づゝどの部門にも抵觸しないやうな時間に大學の特別講演とも言つたやうな講演が御座ゐました。例を申しますと、有名なロシアのシュミットの北極探險の話が本人は參りませんでしたが、代講で行はれました。また之に關する活動寫眞もありました。イギリスの人文地理學の大家フルールと云ふ人の「人類の中心地とその分散」と云ふのは、幻燈入で講演されました。この地理學一般の問題に關する特別講演の外に、特殊の講演としましては、ポーランドに關する講演が半日御座ゐました。このポーランドに關する講演には、ポーランドの氣候・植物・古代ポーランド・人種・土俗・主要都市等に就いての特殊の講演でありました。斯樣な講演の外に博物館、城郭の見物などをもやりました。

六つの部門に就いて大體の事を申しまするとと、前のパリーでの會議よりも非常に組織化した點であります。各部門にはプレシデント、バイスプレシデントが設けられ、オーガナイザーを中心としてその下にセクレタリーは常任で活動しました。各部門の中で、(一)製圖學の方は三日、自然地理學は五日、人文地理學は五日、歷史地理學が三日　地理的景觀は今回新しく出來たので一日だけで、地理教育の方は一日半であります。過剰人口に關する委員會は、人文地理の部門に屬しておりますが、人文地理の重な題目の中で、人口問題に關するものは植民地・移民・風土化であり、外に產業の分布、都市地理の二つがあるのであります。人文地理の重な題目の中で、一番澤山の人が集まりましたのは、パリーの時の會議でも同じことでありましたが、村落居住であつて、五日間の中、一日半もこの委員會の報告竝に論議にかゝりました。その中最も重要な研究報告は、ポーランドのポツナン大學のツェカルスキーと云ふ若い教授でありまして、――勿論フランス語でありますから內容の詳細は私にも分りませぬが、――地圖を見て居ると、先づ研究の方法論を述べ、次に本論としてはポーランドの村落居住の綜合的研究と云ふのであります。村落居住の研究に就いては、ベルギーのルフェヴルといふ女博士は、よく質問されましたが、ツェカルスキー氏の講演に就いては、非常にほめておられました。このツェカルスキー氏の研究は、主任教授バヴォロースキー氏との共同のものであります。

二　過剰人口委員會

過剰人口委員會に關する報告は、同じく委員會組織である村落居住が第四回であるのに比べて、初回である丈、その報告は半日で、約三時間だけでありましたが、聽講者は、百人近くで、この委員會の將來の成長を豫想せしめました。今その內容を極く簡單に申しますと、

人口分布の圖的表現に就いて、二つばかり報告がありましたが、過剰人口に關する報告は五つで、外に移民に關するものが一つでありました。

過剰人口に關するものに就いては、一、地方的のもの、二、一國に關するもの、三、研究方法に關するものといふ順序で御話申上げたいと思ひます。

一、西部アフリカに於ける人口の中心

アー・シヤルトン

相對的に人口の稠密である地域に二つの類型があるが、その一つは、人口の稠密が古くからあつたと思はれるモッシのやうな奥地であり、他の一つはセネガル地方の落花生の生産地のやうに、比較的新しく人口が增加し、現在も增加しつゝあり、經濟的に發展した地域である。

ふるくからの人口の分布は、單に自然的條件の影響や、地方的資源に對する適應だけによつては說明されない。また新しい分布は、植民及び新しい經濟的條件の下に行はれる。

現に行はれてゐる農業制度によつて說明されるところの小さな地方的移動の外に、一層大きな範圍に亘る人口移動が看取されるが、それは勞働地域への季節的移住である。かゝる移住は、相對的な過剰人口の狀態を示してゐる。

一地方の農業資源に對する相對的過剰人口は、人口の增加によつて激化される事があるが、かゝる人口の增加は確實な事實である。西部アフリカの人口の發展は、經濟生活の中心地への人口の再分布、土着民の奥地への植民及び農業制度の改良を行はしめる。

二、ディナルアルプ山嶽地域の過剰人口

ビー・ゼット・ミロウーキー

ディナルアルプ山嶽地域は、廣大な要害をなしてゐるユーゴースラヴィアの西部で、南西のアドリアチック地方と北東のパンノニア地方とに分れてゐる。この地域は、北西から南東に廣がつており、ドニヤ、プラニナ及びセルクニカのカルスト高原に始まり、コソヴオ及びメトヒヤの盆地の手前で終つてゐるが、廣さばかりでなく、高さも同じ方向に向つて加はつてゐる。卽ち北西部では廣さ約六〇キロメートルで、諸高原を分つ諸山脈は、一八〇〇メートルの高さに達してゐるが、南東部では、廣さは一八〇キロメートルで、諸高原に聳えてゐる高峰は、二二〇〇メートルを超えてゐるものが多い。

このディナルアルプ山嶽地域に於ける人口密度は、かなり低い。卽ち土地が幾分低い北西部では、一平方キロメートルの人口密度が四〇人乃至二五人であり、もつと土地の高い南東部では二五人乃至一五人である。殊にタラ川及びビヴァ川流域の南東部では、人口密度更らに減少し、一平方キロメートルに就き、僅かに一五人――〇人に過

ぎない。かゝる低い人口密度であるに拘はらず、このディナルアルプ山嶽地域は、移動の潮流の源泉地の觀を呈しており、一方は、北東即ちサーヴ及びダニューブ兩河の流域に、他方は南西即ち海岸及び島嶼へ移動せしめてゐる。かく人口の稀薄な地域が、人口を送り出して、過剰人口地域のやうな作用をなしてゐる。

このディナルアルプ山嶽地域は、人口は稀薄であるとは云ひ、密度は極めて高いことで特色づけられてゐる。村落は、或は高原に或は低い谷に位置しており、住民は幾分は農業をやつてゐるが牧畜に從事してゐるのが多い。土地が石灰質で概ね不生産的である部分が多い事と、牧畜經濟であるので、牧人は畜類をつれて山に登りそこで夏を過ごす事になつてゐるが、村落が人口過剰となるのは、牧人が高原に定住し、今までの一時的の居住を定住に變へる時に起るので、ビエラスニカ山の南西部や、ドールミトール南東のイェツェラ高原にそれが見られる。

たとひ人口が稀薄でも、溪谷や懸崖に密集してゐるディナルアルプ山嶽地域の過剰人口は、もつと低い近接地方に移住する。近接地方でも南西の海岸や島嶼は同樣に人口が過剰であるから、北東のパンノニアの廣い平野に向つてゆく。この移住に先ちて屢々季節的移動が行はれるが、この移動は、家畜と共に冬越をするために、また夏季農業勞働者として數週間を過ごすために、山人をこの平野に導くのである。

シリル・ド・ヴァン

三、オランダは過剰人口か

オランダの人口密度は、極めて稠密であるばかりでなく、今なほ日毎に增加しつゝある。それ故に、特殊な條件でない限り、自國の食糧資源のみで、住民の要求を滿たす事は出來ないであらう。この特殊な條件は實現するに六ケしい。

現在の恐慌に至るまでは、極めて有利な地理的要因は、全人口に對して人間的生活を營む事を可能ならしめてゐた。しかしこの國の繁榮に不利な影響を及ぼした恐慌は、オランダの經濟生活の弱點を暴露した。かく失はれたものを取戻すためには、國の經濟機構の變革が必要であると思はれる。これは可能であらう。

ペー・エル・ミショット

四、ベルギーは過剰人口か

ベルギーの人口は、一世紀の間に二倍以上となり、現在は一平方キロメートルに就き、二六五人の密度を示してゐる――（一八三〇年以來の人口移動は農業人口、工業人口、都市人口に行はれた）。

全國民八百萬の人口は自國の農業生産物の九五パーセントを消費し、かくして食糧需要の八〇パーセントを充たしてゐる（これはベルギーの農業經濟の重要な構造である）。不足は部分的には農産物の輸出によつて、殊に工業品の輸出によつて滿されてゐる（ベルギーの一部の工業化による工業生産物の交易）。

移入と移出から見ると、ベルギーは人口過剰ではない。人口の若干の階級は、過去一世紀の間、種々な時期の勞

働者の家計が示すやうに低い生活標準にあつたとしても、それは生産の不足よりも寧ろ富の配分に基因してゐる。現在の恐慌狀態に於てさへも、失業竝に人口學的測定によると、それは相對的且つ一時的過剰人口たるに過ぎない。

五、ポーランドに於ける過剰人口の調査報告

ヴィクトル・オルミスキー

過剰人口に關する調査は、國內移動の研究に役立つ事が出來る。

移住民の數が過剰人口に比例するとしたならば、我々は、移動の强さとその地理的分布の分析によつて、過剰人口地域を決定し、且つ特殊なる地方に於ける過剰人口の程度を確める事が出來るであらう。

過剰人口の恐ある地方を概察するために、我々の研究ば、近き將來に於て、移住①と人口密度、特殊密度（耕地百ヘクタールに對する住民數）、可能耕地の量、農村財產所有者と土質との割合の相互關係の進化を對象とするであらう。

人口の增加度を繼續的な計算②による考察によつて、我々は豫測された過剰人口の狀態が、完全な事實となるであらう事を略々決定する事さへ出來る。

余は右の如き方法によつて、ポーランドに於ける過剰人口に關する調査の過程によつて得られた結果を提出した。

（註）① 移住の强さは、次の三つの方法で表現される。一、一平方キロメートルに對する住民の數、二、自然增加のパーセンテーヂ、三、總人口のパーセンテーヂ。

（註）② 計算は、變化の少ない自然增加、國內移住の消滅、或ば自然增加の減少等、人口統計的過程の發展の若干の可能性を考慮しなければならない。

なほ「移住竝に風土馴化を主とする植民の地理的類型」に關する報告の中で、人口に關するものを申上げますと

六、過去十年間に於けるポーランドの移民の考察

ゼルツェ・ロット

ポーランドの人口の發達に伴ふ過剰によつて、國外に移住した歐洲大戰前の狀態を顧みるに、ポーランドの移民はドイツ・オーストリア・ロシア等の諸國に赴いたが、何等政治的の保護がなかつたから、到る處虐待され利用された。しかし共和國獨立後はその狀態が一變した。世界に於ける移民の危機はポーランドにも影響し、一九二九年を頂點として減じて來た。

ポーランドの各州からする移民は、その數に於てもまたその職業に於ても、各地の地理的竝に經濟的諸條件と密接なる關係を有してゐる。最近ポーランドの移民の行先は著しく變つて來た。例へばヨーロッパに於ては、ドイツへの季節的住民は、ヒットラーの政策によつて妨げられ、ためにラトヴィアやデンマークにゆくやうになり、また

こゝ數年間は、北フランスに相當の移民が吸收された。ポーランドのユダヤ人はパレスタインにもゆくやうになつた。

ヨーロッパ大陸以外の移民に就いても著しき變化があつた。アメリカに於ては合衆國には絶えず行つてゐるが、カナダやアルゼンチンにもゆくやうになつた。殊に南米ではブラジルよりも、アルゼンチンにゆくやうになつた事は注目すべき事で、是等移民の現象は、その數に於てもまた理由に就いても分析的に研究する必要がある。

世界の何れの國が、ポーランドの過剰人口に向つて開かれるであらうか。國内の過剰人口をいかに養ひ、またその移住を奬勵するに就いての政府の施設が如何になさるべきか。是等は當面の研究問題である。

以上諸講演の要約は、極めて簡單ではありますが、日本の過剰人口の研究に對して、相當示唆するものがあると思ひます。殊にミロウェキー、オルミスキー二氏の研究を通じて、我々は過剰人口を、密度と移動の方面から研究すべきヒントを得たのであります。密度に就いては、私も本會から「日本人口密度圖」を公にする事を得たのでありますが、この密度と移動の關係に就いて更らに研究したいと思つております。またロット氏の人口移動に關する研究は、地圖やグラフを澤山用ゐての實證的の報告でありましたが、會議後　同氏の自宅を訪れた際に、ポーランドには移民の出生地・職業・宗教等を精細に調査する特別な機關のある事を聞き、この種の統計の乏しき我が國としては誠に羨しく思ひました。

以上の講演者中、ベルギーのミショット氏は、人文地理學部門に於ける重要な人で、過剰人口委員會の委員でもありますが、過剰人口委員中　重要な委員であるフランスのドゥマンジョン氏が病氣の爲缺席された爲に、正式の委員會も組織的には開かれず、今冬パリーで開かれる事になりました。かゝる事は、ヨーロッパ諸國は、交通の關係上、往復が短日月でなし得るので、極めて便利であり、また羨ましく思ひます。次回の會議が何處で開かれるか決定しない前でしたが、偶然私は會議の食堂で、過剰人口委員會の委員長ともいふべきイギリスのフルール氏に會ひましたので、次回はアメリカ合衆國でないかといひました處――會頭ボーマン氏はアメリカ合衆國でありますから――フルール氏は、「アメリカ合衆國などは……」と言葉を濁した處を見ましても、この會議は次回はアムステルダムで開かれる事は勿論、當分ヨーロッパ諸國をまはるのではないかと思ふのであります。

私は前回のパリーの會議の時に、過剰人口委員會委員に擧げられましたので、柳澤人口問題研究會々長の援助により、柳澤伯爵を總裁とする柳澤統計研究所に於て、

日本の過剰人口の地理的研究

をなす事を得ましたが、之を御報告するに先ち、東照宮三百年祭記念會より、その結果の要約を英譯竝に作圖する費用を援助されましたので、御手許に差上げたパムフレット（左記）を配付いたしました。

日本の過剰人口の地理的研究　（英文）

一

過剰人口なる言葉の概念に就いては、經濟學者・社會學者等、それらの見解が異つてゐるが、こゝでは、激しい人口增加の爲に、一定の生活水準を保持し得ずに、繼續的に低下する狀態に立ち至つた場合を意味する。

島國であり且つ山國である我が國の自然的特質は、更らに東北から西南に狹長に延びてゐる關係から、北部の北海道から奧羽にかけての地域と、瀨戸內海地域から九州にかけての地域との間に、氣候の差異が著しく、從つてそれに依據する農業經營に地域的差異をあらはしてゐる。本州中央部に於てすら、沿海地域と中部の山地地域との間には、氣候及農業の諸狀態を異にしてゐる。かゝる我が國の地理的條件の地域的差異は、やがて人口の地域的特質を規定し、また各地域間の交通と移動とをも妨げた。加之長い封建制度下に馴致された經濟組織と社會的環境は、明治以前に、既に地域的に過剰人口を招來するに至つた。當時我が國の經濟機構は、農業經濟を基底としてゐたから、その過剰人口は、主として村落に於けるそれであり、爲に人口制限さへ行はれた。然るに封建制度の崩壞は、產業の分化と職業の自由選擇と交通機關の發達とを來し、之によつて村落に於ける過剰人口の存在を著しく稀薄にした。加之明治中期以後の資本主義の急速な發達と近代的都市の發展とは、村落の過剰人口を吸收し、爲に生活水準の向上をも結果した。

二

我が國の人口增加の傾向は、約半世紀以來の事で、それが近年殊に高率を示すに至つた。即ち一九二〇年より一九三〇年に至る十年間の增加は、八四八萬を超え、その後半期に於て殊に著しい。一九三〇年以後に於ける增加は更らに多く、約百萬の人口が一年に新に增加した年すらあつた。かゝる人口增加の傾向に對しては、我が國の識者の關心漸く大に、之に關する豫測が試みらるゝに至つた。之を要するに、一九三〇年の我が國內地の人口は、六四四五萬であるに對し、十年後の一九四〇年には略々七一〇〇萬、更らに十年後の一九五〇年には、七八〇〇萬乃至八〇〇〇萬と推算されてゐる。

日本內地人口增加豫測比較表

	統計局（千單位）	上田博士（千單位）	左右田氏（千單位）	下條博士（千單位）
一九二五年	五九、九七五	五九、七三六	五九、七三六	——
一九二六年	六三、二五七	——	——	——
一九三〇年	六六、八三三	六四、〇六七	六四、〇九七	六四、〇九五
一九三五年	七一、六八一	六八、一〇六	六六、八六〇	六八、五二七
一九四〇年	七六、一四四	七一、八四六	七一、一二三	七二、六二六
一九四五年	八〇、七六八	七五、二六一	七五、六六七	七六、二九八
一九五〇年		七八、三五五	八〇、四三七	七九、四五四

一九五五年	八六、五六三	八一、一五五	八五、二九二
一九五九年	九〇、三四七	——	——
一九六〇年	——	八三、五九四	九〇、三五一
		八三、九一二	八二、〇一四

更らに要職業人口の增加の傾向を考察するに、今後十五年乃至二十年間に於けるその增加は、既に出生せるものからの增加で、それは動かすべからざる現實であつて、それが年々三四〇萬の增加を意味する。故に過剩人口に惱める我が國としては、この要職業人口の解決は現下の人口問題の最も重要なる問題である。

第四型①に屬してゐるといはれる我が國の人口を、產業②との關聯に於て考察するに、我が國の農業は、過小農經營を特色とし、農家一戸當の耕地面積は、僅かに一ヘクタールに充たざる所が多い。加之地勢の關係上、耕地の擴張面積は、殆んど限度に達してゐる。のみならず單位面積當の生產收穫量は、十數年來固定化し、最近に至つては減退の傾向すら示してゐるものが少なくはない。かゝる現象は、著しく農村人口を壓迫してゐる。

(註)① 過剩人口委員會は、地理學的見地から、世界の過剩人口の主要なる諸型を左の五つに分けてゐる。

第一型　(北部支那・ガンヂス河流域・中部印度・アフリカの或地方の土民・アイルランド東部・ヘブリデス)

第二型　(エジプト・南部ロシア・ジャヴァ・ルーマニア)

第三型　(北アメリカ合衆國の諸地域)

第四型　(ポーランド・イタリア・日本)

第五型　(ドイツ・ベルギー・オランダ・イギリス)

其他都市・島嶼・山嶽地域の人口型がある。

(註)② 一九三〇年の國勢調査の抽象調査に據れば、主要產業に依存してゐる割合は左の如くである。

農業人口四五%　水產業人口二・三%　鑛業人口一・三%　工業人口一八・二%　商業人口一四・七%

農業に次いで人口を支持してゐる工業は、輕工業を主とし重工業を從とする。これらに從事する工場勞働者數(從業者五人以上)の推移を見るに、歐洲大戰前の一九一四年には九四萬餘に過ぎなかつたが、大戰を契機として劃期的な發展をなし、一九一九年には殆んど倍大に近き增加をなし、爾來その增加は停滯的ではあるが漸增し、一九二八年には最大となつて一九三萬を算し、之を頂點として減退の傾向に轉じた。しかし企業形態の擴大と生產組織並に資本構成の高度化とは、勞働の强化並に能率の增進と相俟つて、反つて生產力を增大ならしめてゐる。なほ關心すべきは、我が國の工業の規模の現在は、五人未滿の勞働者を使用する小工場の從業者數が、五人以上を使用する工場に於けるそれよりも大なる事であるから、企業形態の擴大と產業の合理化の進展する將來に於ては、工業生產の增大するにも拘はらず、益々工場勞働者數の增大を阻む事になるであらう。

以上述べた農工業人口のみならず、水產業に於ても、それらによつて支持される人口は、生產力の增大するに拘はらず、停滯または減退の傾向を示してゐる。殊に近年に於ける經濟界の不況は、村落に於ける

過剰勞力と都市に於ける失業群の增大を結果し、こゝに新たなる過剰人口の重壓を發生するに至つた。

過剰人口を緩和すべき方策としての我が國の移民は、その數極めて少なく、北米及濠洲等に於て、我が移民の渡航を制限又は禁止しなかつた一八九九年から一九三二年まで、三十三年間に於ける海外移住者總數（再渡航を含む）は僅かに五五萬二千で、最近に於ける我が國の一ケ年の自然增加の半に過ぎない。

かゝる日本の人口現象は、日本國民夫自身の研究對象であるばかりでなく、實に世界の諸國民の研究對象たるべきもので、日本の人口と產業との關聯は、第四型より第五型に移行しつゝあるといふべきであらう。

三

我が國の過剰人口には、全國を單位としてのそればかりではなく、時と場所との交互作用によつて、更らに地域的差異をも生じてゐる。即ち人口增加の諸要因たる婚姻、出生、死亡竝に年齡構成、また自然增加、職業構成に於ても地域的差異があらはれてゐるばかりではなく、農家一戶當耕地面積、耕地一ヘクタール當農業生產額、人口の密度、人口の移動等に於ても著しく地域的特色があらはれてゐる。是等の解釋こそ地理學的考察に待たなければならないものが多いと思ふ。左に主なる諸地域に於ける特色を略述すれば、

琵琶湖の西南、文化のふるい近畿地域から瀨戶內海地域では、氣候溫和で、耕地の農業生產力が高く、工業の就業率も多く、人口の密度から見ても、飽和に近い地域で、人口の移出が多く、現住人口の增加が低い。

琵琶湖の北東、日本海に沿ふてゐる北陸地域は、冬季雨雪多く、耕地の生產力少なく、死亡と移出共に多く、從つて現住人口の增加が極めて低いことは、氣候と人口と產業の相關關係に特色が多い。

風土の暖熱な太平洋岸の東海地域と九州南部とに、共に死亡と移出が少なく、爲に現住人口の增加の割合が高いのは、氣候と農業との相關關係が深いからであると考へられる。

東北地域は、その地理的位置上、氣候涼冷に積雪深く產業竝に文化がおくれてゐる。婚姻、出生、死亡の割合が共に高く、また移出と移入は共に低い。從つて自然增加竝に現住人口の增加は割合に高い。農家一戶當の耕地が廣いに拘はらず、その生產力少なく、從つて生活水準が低くめられ、人口の密度は北海道を除いては最も低い。

北海道は、明治以後の拓殖地域であるから、あらゆる人口狀態にそれがあらはれてゐる。殊に人口の增加は、自然增加ばかりでなく、移入（殊に東北・北陸の二地域よりする）によるもの極めて大である。たゞ、氣候涼冷で一戶當の耕地が廣いのに拘はらず、耕地の生產力極めて低いから、道廳の移住奬勵があるに拘はらず、移入者の再移出が少なくない事は、本道の人口問題上注目すべき現象である。

外に大都市竝に工鑛業の中心地を抱擁する諸地域が、人口の自然增加の割合が低いにも拘はらず、現住人口の增加の大なる事は、人口の移入の多い結果であつて、東京・大阪二府の如きは殊に著しい。

之を要するに、最近四十年間（一八九〇―一九三〇）に於ける現住人口の增加率の地域的差異は、村落人口の密度

の低い地域に增加し、密度の高き地域に於て停滯してゐる。一九三〇年の國勢調査の結果に徵するに、人口の移出率、移入率竝に固定率にも地域的差異がある。故に是等を檢討して、如何なる地域が、從來土着の人口を支持し或は移出したか、また從來移入の人口を吸收し或はなほ吸收し得る餘地があるか。これらを究明しての地方的解決は勿論政治的方策に據らなければならないが、この地方的な過剰人口の合理化に對する科學的解釋は、地理的竝に地域的研究にも待つべきものが少なくはない。この種の研究は、我が日本の地理學界には漸くその曙光を見たに過ぎない。從つて過剰人口に對する國民的自覺もまだ十分なる認識に達してゐない。しかし限られた領土と限られた資源に對するこの人口の重壓は、やがて日本國民をして、その輕減と緩和に就いての具體的な解決方法を見出さしむるに至るであらう。國際的な學術研究機關たる本會議に於て、この世界的な過剰人口地域に對して、相當な關心をもたるゝ事は、決して徒爾ではないであらう。

以上の報告に對しては、日本の自然增加率の絶大なのに比して、海外移民の少なき事、また海外移民を解決すべき地域としての滿洲國の關係等に就き質問がありました。なほ報告を實證する意味で、道府縣別に婚姻、出生、死亡、自然增加、移動、農家一戸當耕地等を比較すべき十二枚の地圖を示しました。

私は、以上のパムフレットの外に、日本に於ける人口問題の研究を明かにするために、

一、**日本の人口研究文獻摘錄**（英文）

二、**日本の人口研究文獻目錄**（英文）

を配付しましたが、文獻摘錄には、井上修二・石橋五郎・寺田貞次・上田貞次郎・小田橋貞壽・高岡熊雄・高倉新一郎・川人定男八氏の主要論文各々一篇を載せ、文獻目錄には、地理學その他の主要論文竝に主要地圖等に就いても紹介しました。

なほ私は、日本の村落人口の過剰な狀態を、具體的な實例で證明しやうと思ひまして、かねて研究してゐた東京府南多摩郡恩方村案下部落（戸數四六戸）に就いて、左の三つの地圖（前出「村落共同體の地理學的研究」參照）を作り、

一、土地利用圖（一八八四年―一九三三年比較）

二、職業推移圖（一八八四年―一九三三年比較）

三、過剰人口移動圖

過剰人口の狀態を精細に實證し、その生活狀態を明かにする爲に、十數葉の寫眞をも添へましたから、過剰人口委員會の委員は勿論、村落居住委員會の人達も非常な興味を有つて見、これをノートにとつた人さへありました。この三地圖とその解說は、村落共同體の地理學的研究として前に揭げておきました。

また本會の研究員館稔氏の日本の婚姻率の地域的差異を明かにした地圖、同じく研究員增田重喜氏の日本の出生

率と景氣變動の相關關係を明かにするグラフをも示しましたが、何れも日本の人口現象に就いて、相當に理解を與へる資料を提供し得たと思ふのでありまして、それは會議後ポーランドの新聞にも報道された事でも明かであります。

今回本會から出版いたしました拙案『日本人口密度圖』は、今度の會議に附帶事業として開かれた大規模の「地圖展覽會」に出品しました。本會からの御委囑により特殊研究家六十人に之を配付しましたが、非常の好評を受けました。殊に人口研究關係の人達は、本會が事業團體であるか、出捐團體であるのかを質問しますから、本會が事業團體である事を答へましたら、ポーランドを始め、諸國の研究團體が、少數の人で效果的に仕事をしてゐる事を聞かされ、私共も大にやらなければならないと思つたのであります。

承れば、かねて本會で企てゝおられた人口問題研究者を集むる同攻者の會合を最近お開きになるさうですが、出來るならば、來年あたり、日本全國の人口問題研究會議を御開きになる事を望みます。

三　日本景觀展覽會其の他

私は、一九三一年パリーで開かれた本會議の時にも、日本の風土を紹介しやうと思ひまして、同學各位の御援助の下に、「日本人文地理展覽會」なる名稱の下に、種々の出品を持參したのでありますが、今回も、私が文部省に於て鄕土教育を擔當しております關係上、普通學務局より道府縣の師範學校長宛に、

村落の土地利用・勞働・居住・生活

に關する寫眞の寄贈を求め、之を整理（英文）して、一々その地理的分布を明かにするやうに分布圖をも添へて持參しました處、それが鐵道省國際觀光局からの出品をも合せて、大版百餘枚になりましたので、特に

エキスポジション、オフ、ジヤパネース、ランドスケープ（日本景觀展覽會）

として大きな室に陳列してくれました。これまた日本を紹介するのに非常に好都合でした。多くの人達から寄贈の希望があり、中には出版されたらすぐ知らしてくれとの依頼もありました。殊に本會聯合會のプレシデントでありまたアメリカ合衆國の地理學會のプレシデントであるボーマン氏は、これを丁寧に見て、同地理學會に研究用として備付ける爲に、土地利用・勞働・居住・生活の最も類型的な寫眞數十枚の寄贈を依頼された事を見ましても明かであります。のみならず、ボーマン氏は、閉會の際に於て、次にオランダのアムスルダム會議の時には、今回開設せられた「地圖展覽會」を繼續して開催せらるゝ外、特殊な展覽會の開催をも望まれた事は、特殊な展覽會として、今回の「日本景觀展覽會」より外になかつた事に徵しても相當に功果を收め得た事と思つております。顧みれば一九三一年にパリーでの會議の時にも、他國の展覽品は、極めて少なく、我が「日本人文地理展覽會」の出品が大部分であつた事から、今回の本會議に展覽會が附設されるやうになつたのでありますから、これを好機に會議每

に特定の題目により日本を紹介する展覽をなす事が有意義であると思ふのであります。「地圖展覽會」におきましても、アメリカ合衆國のものとソヴェト聯邦のものが、極めて組織的に出品されておるのを見て、羨ましく思ひました。日本からも、陸地測量部から出品されましたが、地圖の研究は各大學・專門學校その他諸學校の地理教育上、相當に研究されておりますから、是等を組織的に出品されたならば、日本の地理學竝に地理教育の紹介に好機會であると思ひました。日本の人口狀態の研究なども、幸に過剰人口委員會(註)が設けられてありますから、今後とも組織的に出品される事が、日本の過剰人口現象を、正當に歐米の學者に理解さすのに適當な機會であると思ふのであります。

(註)　最近右會議の幹事長たるドゥ・マルトンヌ教授からの來信によれば、村落居住委員會と過剰人口委員會は、一つの委員會となり、英・佛・獨・伊・波諸國の委員がきまり、私もその一人として、不日研究項目の送達を受くる事になつております。

先程シベリア鐵道の事に就て御尋ねがありましたから、滿洲國、シベリア、ソヴェト聯邦の事に就いて簡單に申上げます。

滿洲國の事を本會議に紹介し度いと思ひまして、滿洲國の地形圖と產業分布圖、外に『滿洲國』と云ふ英文の冊子(滿洲國編纂)を十數冊持つて參りました。この滿洲國と云ふ小冊子は、滿洲里からシベリアにはいる時に沒收されはせぬかと非常に心配して居りましたが、丁度ハルビンからの汽車で、ソヴェト聯邦のハルビン駐在の總領事が歸朝するのと同車になりましたので、旅行の目的をそれとなく話しましたら、大丈夫だらうと笑つてゐました。滿洲里驛の次の驛で調べる事になつてゐるので、冷々して居りましたが、朝鮮人のゲー・ペー・ウーが「あなたは滿洲國の代表ですか」といひますから、私は、「さうではないが、地理學會議であるから新しい國を紹介し度いと思つて持つて來た」と云つたら無事でした。この滿洲の地圖と滿洲國の本を、「地圖展覽會」に出品しましたら、會員は勿論殊にポーランドの軍人は興味をもつて見ました。ポーランドは御承知の通り陸軍の盛んな國でありまして、その軍事地理研究所は大規模なものでありまてし、從つて軍人は地理學に對しても非常に理解と興味を有つております。私が「日本景觀展覽會」の陳列を始めました時でも、十人來ると六七人は軍人でした。

シベリア鐵道の中では、ニューヨークに十一年も居るといふデーリー・ヘラルドの記者と一緒になりましたが、滿洲國の事に就いては非常に關心を有つてゐるので、試みに寫眞を見せましたら、司法部とか文教部といふ大きな造營物に非常に興味を有つておりまして、この設計は日本人の技師がやつたのか支那人の技師がやつたのかと聞いて居りました。また新式の大きなローラーで新しい道路の開修をやつてゐる寫眞にも興味を持つてゐました。シベリア鐵道のボーイは、數年前までは殆んど英語が話せないといふ話でしたが、今度は往きも歸りも一列車に二人居るボーイの一人は、一寸した用便の足りるやうな英語は出來ました。これは非常に注意すべき事で、歸りの汽車でのボーイは、モスコーで三ケ月英語の速成科に通つたといつてゐました。また滿洲里からハルビンまで來る汽車の中

で、日本人の官吏の夫婦の方に會ひましたが、この方は、三河といふ國境近くの白系ロシア人ばかりから出來てゐる村に居つた人ですが、この家で賴んだロシア人の女中に、或る時奥さんが一寸英語を話したら女中が分つたので驚いて聞かれたら、學校に居つた時に習つたといつたさうであります。ハルビンの滿鐵の地方事務所の圖書室を見た時にも、ロシア語の澤山の雜誌の中に、ソヴェト、トラヴェルといふ大型の英文雜誌のあるのに驚きました。日本などでも、日本を世界に正解さす爲には、もつと組織的な計畫が必要ではないでせうか。

歸りの汽車では、色々な方と同車しまして興味がありました。アメリカの青年技師で、ウラル地方の鑛山に傭はれて居つた人がありましたが、ソヴェト聯邦の重工業の盛んなことを言つて居りまして、地圖に就いて一々重工業の盛んな都市を教えてくれました。モスコーであつたチタ(赤塔)の副領事の山本と云ふ人も、矢張り重工業が盛んであると云ふことを話して居りました。モスコーに滯在してゐる間には、私は、一昨年新に開かれた產業博物館を見ましたが、その施設は勿論ですが、これを訪れた民衆に、各部の係が親切に說明して、一種の社會教育機關の働をしてゐる事に感心しました。人口の事に就いては、はつきりした資料が得られませんでしたが、モスコーでは男女共稼といふ狀態である關係上、墮胎が默認されてゐるやうに聞きました。

大分時間が經ちましたから、今晩はこれで御免を蒙ります。

（一〇月二二日、人口問題研究會理事會報告）

二〇　國際地理學會議と村落居住の研究

一

一九三四年八月、ワルソーに於て開かれた國際地理學會議に於て、村落居住委員會と過剰人口委員會が、如何に遂行されたかに就ては、前に述べたのであつたが、同會議の終末に際し、フルール、ミショット、ル・フェーヴル、ボーロースキー、ツヱカルスニー諸氏と筆者との會合によつて、村落居住委員會と過剰人口委員會とが、研究の便宜上、合同さるべき事が打合され、それが、パリーに於て具體的に論議さるべき事が約されたのであつた。

然るに昨春、委員長ドゥマンジョン教授の許からは、下記十一名の委員の連名で、「**村落居住並人口委員會**」Commission l'habitat rural et du peuplement が成立し、此の二つの委員會の結合は、其の事業に支障を來たすどころではなく、問題は互に透入し、關係は豐かである事が明かになつた事を附記し、研究すべき諸問題は、左の三つに分類してなさるべきであるといつて來た。

一、人口の諸事實と居住の諸事實との間の諸關係。

二、村落居住の諸事實。

三、人口の諸事實。

一、人口の諸事價と居住の諸事實との間の諸關係

（一）人口學的諸事實（現在人口及び人口密度）の村落建造物に及ぼす影響—新村落、新部落、新孤立家屋の創造—現在の實例と過去の實例。

（二）農業地理的諸事實（輪作、所有地の樣式、借地の樣式）の村落建造物に及ぼす影響。

（三）住家の諸型（內部の構造、居住し得べき間取の數、敷地の變化と適應）に及ぼす人口學的諸事實（現在人口及び人口密度）の影響。

（四）村落住家に及ぼす村落經濟の變化及び生活水準の進化の影響。

二、村落居住

（一）村落居住の異れる諸型を比較する定義を含み、且つ系統的な語彙及び分類を樹立すべき用語集を作る事。異れる文明に於て、又、異れる農業環境に於て、同一の語が異れる事物を意味する事なきや。よつて共通語を話す必要がある。

（二）村落居住の諸事實の研究の爲に、探求すべきまた準備すべき資料。

（三）村落居住の諸事實を如何に圖示すべきか。

（四）村落居住の或る諸型は、住家のある諸型と密接なる關係ありや。

（五）村落居住の諸型と開墾地の集團樣式との間に於ける諸關係はどうか。

（六）村落居住の諸型と農業的所有地の面積との間に於ける諸關係はどうか。

（七）西洋に於ける村落人口の進化。村落占有と原始植物生態との間に、本來の諸關係があるのではないか。嘗つては人口の稀薄であつた地域に、現在村落をなしてゐる地域があるのではないか。經濟的竝社會的進化が時代に從つて、集團又は分散を決定したのではなからうか。

三、人　口

（一）地方的又は地域的實例を以て、過剩人口現象の特質を定義する事。

（二）經濟的諸變化と生活水準の過剩人口に及ぼす影響。

（三）少額財產と出產率との間の諸關係。

（四）文化の諸型と人口との間の諸關係（耕地擴張の影響、集約農業の影響）、農業生產物は人口の增加又は減少の機能となつて居るだらうか。

（五）同一地方の中で、人口を吸收する地域、人口の離散する地域、飽和の地域、凋落の地域を見られるだらうか

（國內移住の問題）

（六）　或る國の過剩人口の問題を解決する爲に、土地を稠密に占有し得る植民地ありや。それ等の植民地が經濟的且社會的に包容し得べき人口の割合を評價する事。

（七）　或る地方の輸出のために働く人口の割合を評價する事、失業問題）。

（八）　都市集團に於ける人口の分布は變化しつゝありや。

（九）　特定の地方に於て、村落人口と都市人口との間に望ましき均衡狀態が保たれつゝあるだらうか。

（一〇）　或る地方の村落人口の密度に於て、如何なる分け前が、村落工業に歸するであらうか。

ドゥマンジョン教授は、終りに附言して、一九三八年一月迄に、下記に以上に關する研究資料を送られるならば、全文にせよまた要約にせよ、それらを整理して綜合たるべき報告書を編纂する事を申出て居られる。

村落居住竝人口委員會委員

Biasutti(Firenze)	Czekalsné(Poznan)	Fawcett London)	Fleure(Manchester)
Krebs(Berlin)	Le fèvre(Louvain)	Michotte(Louvain)	Milone(Napoli)
Mortensen(Freiburg)	Odauti(Tokio)	Pawlowski((Poznan)	

Le President.　　A. Demangeon.

Institut de Géographie,　　191, rue Saint-Jacques, Paris. 5e

（註）＊を附けた人口は、何れも Peuplement を譯したもので、それが「人口の動き」を意味するものであるのに、Population を人口と譯すると同じく人口としたのは、適語がないためである。

自分は今、國際委員の一人として、提出すべき研究資料を蒐集中であるが、廣汎にしてしかも綜合的な以上の諸問題に答へ得る資料は、多數の同攻者の協力に待たねばならないと思ひながら、其の計畫を進めてゐる。切に其の援助を望むものである。

二、村落居住委員會報告書（Proisieme rapport de la Commission de l'habitat rural）

此の報告書は、一九三一年、パリーの國際會議の際に、ドゥマンジョン教授の下に編纂され、會員に配付されたもので、頁數からいへば菊判五十頁に過ぎないものであるが、其の內容は、

（一）　地圖による村落居住の研究

（二）　土地の觀察による村落居住の研究

（三）　統計による村落居住の研究

（四）　歷史的文獻による村落居住の研究

（五）　定義と方法の問題

（六）　村落居住

に分れ、それ〴〵の部門には、各々數氏の意見の要約が集錄されてゐる。其の中殊に村落居住の研究方法を明かにし得ると思ふ數種の論文の要約を左に抄錄し、かゝる研究文献の乏しい我が國の研究者の參考に資したいと思ふ。前文にも述べたやうに、委員會の委員が、イギリス、ドイツ、イタリア、ベルギー、ポーランドを通じて、二名宛を出し、しかもベルギーとポーランドは、同一大學より二名宛の委員を出してゐる事は、ヨーロッパに於ても、如何に斯學の研究が創始的であるかを示すもので、これに對しての建設的な努力は、ドゥマンジョン教授の結論に窺はれる。

（一）の例―イタリアに於ける村落建造物の諸型　　ビアスチ

此の研究は、村落居住の諸型即ち密集及分散を示す美しい地圖の註である。即ち集中居住・分散居住及び住居混合を認め、農業人口と非農業人口とを明白に分離する事に努め、全イタリアの村落建造物を十四型に分つてゐる。

一、稠密な大中心地に集中せる人口、二、小中心及び小部落に集中せる人口、三、稠密なアルプス村落及び小部落に集中せる人口、四、村落の大きな中心地、五・六、村落の大きな中心地の農業及び搾乳場（混合）、七、孤立せる村落（混合）、八・九、密集せる大農場の膨脹に相應する混合型、一〇、ローマ平野の農業小部落及び移住開墾地、一一、道路に沿ふて列をなす孤立せる村落・小部落・住家、一二、散在せるアルプス住家、一三・一四、耕作地から離れた散在住家。

（一）の例―スウィスに於ける村落居住　　ビヤマン

此の勞作は、極めて模範的のもので、ジュラ山脈とスウィス高原とアルプス山脈に就いての緻密なる檢討は、居住の諸型の極めて示唆に富める地圖となつてゐる。其の地圖には集中居住と分散居住に就き、極端な二つの類型との間に樣々の種類を區別してゐる。例へば集中の地帶、分散の地帶とを分ちて　これを一々例示し、それらの居住諸型の構成に於ける最も強い影響を社會的事實に歸してゐる。これは多くの他の地理學者達の意見を認めての結論である。集中の地區は確かに最も古くから居住されてゐる所で、「地名錄」は大多數の村落が既にローマ時代に存在してゐた事を證明してゐるし、またスウィスに於ける村落居住の根本的諸型は十五世紀頃に構成された。しかしそれが近代に至つて大變化を見た。即ち十八世紀の間には、家庭に於ける機械工業の發達は、多數の農夫をして彼等の住宅地の選擇を自由ならしめ、彼等は村落を離れて孤立住家に定住するに至つた。かくして分散は集中の地區の內部に入り込んだ。十八世紀の中葉以降、西ヨーロッパ全體に共通せる農業革命は三年毎に共有地を分割して輪作する古代の方法を廢止するに至らしめ、それが一人の所有主の手に屬する傾向になつた。かくてジュラ山脈の中に

は、新たな分散が諸々の村落の地區内に入り込むやうになつたが、アルプス山地では、生存と農業の困難から、多數の山人は孤立せる僻地を去り肥沃な低地に接近して小部落や村落に定住するやうになつた。平原は現代の農民の獨立精神によく適合する分散の居住樣式を生み、山地は道路及び鐵道の周圍に更に集中する事に向ふのである。

（三）の例―概述

村落居住の統計的研究は、人口調査が住家全部を數へ上げて具體的現實に觸れる事が出來るやうにする。しかし此の研究は公共機關が必要な數字を公表する選ばれた地方に於てのみ可能である。――其の方法は集中と分散との異れる度合を數的に測定するにある。これは慣例上、集團居住、分散居住、混合居住とよばれるものに對する數字を定めたといふ利益になつて、村落・小部落・孤立農場による住民の數及び住家數を揭示する。かくして住家の集團の諸型・居住者の集團の諸型を圖上にあらはす事が出來る。

（四）の實例―スウィス・ジュラ山脈西北部に於ける村落居住の進展　ヴォッセラー

十九世紀の初までは、此の地域の村落居住は、寄合つた大部落によつて特徴づけられてゐた。從つて孤立した住居は稀で、一時的に占有される小屋は高い連嶺の中のみにあつた。フランス革命後、循環耕作の古い組織は廢れた。孤立せる農場は、十九世紀後半の農業恐慌に放棄されたものが多く、多數の農場は經濟的擴張に努力を有するベルヌの勤勉な頑丈な農民の手に移つた。

（五）の實例――

〔イ〕、自然的及び人間的關係に於ける村落居住　ル・フェーヴル

ヨーロッパのみならず、全世界に於ける村落居住の問題を考察するならば、一般的の第一要因たる雨量の豐富或は稀薄―空中沈澱が役割をなしてゐるのに氣付くのである。これらの缺乏してゐる所では、何處でも定住者は大氣の濕氣の不足を土地の濕氣によつて補はなければならない。それ故、住家は水源の周圍に集中するのである。――村落居住にとつて、義務的集中或は分散の恒常性を惹き起すものは氣候である。土地の起伏の多樣性は耕作し得べき土地に一樣ならざる範圍と分け前とを課するもので、此の擴りが極小の場合には農民は孤立する事になる。これは個人的開墾、耕作樣式に相應する孤立居住の樣式である。

しかし、もしも耕作すべき地面が、相當の家族の糊口するのに十分な擴りであるならば、そこの開墾と耕作の樣式は、少くとも定住の當初には共有地の慣習に浸潤される。……耕作し得べき土地を蓄積する爲に農民は其の住家を其の土地の中央又は其の緣に集合する。かくして、小部落から村落にと集團した居住樣式が生ずるのである。

孤立居住樣式と、多かれ少かれ、集團した居住の樣式とは、同一の村落の土地の上で共存するのである。これは

人口增加に據つたのであつて、此の人口增加は、過剩人口の巢分けを先づ初めの村落外に、次には後に出來た小部落外に、何度となく唆かしたのである。孤立した小部落及び農場の位置は、多かれ少かれ擴げられた。それは沖積土又は泥土の地盤への分け前によつて說明されるのである。

要するに、村落居住の根本的要因は、人種的でも精神的でもない。それらの要因を氣候に、そして特に調節された地域に關しては、土地の性質と起伏に求めなければならない。それ等に、田園生活の古い樣式の要求が、人口學的要因と共に、それ等を決定する諸條件として附加されるのである。

〔ロ〕、ポーランドの村落居住に關する研究の現狀　ボーロースキー

ポーランドに於ける村落居住の研究は、ケムブリッヂの國際地理學會議後、一九二八年に企てられた。それ以前には、歷史的觀點、或は經濟的觀點以外には、これ等の問題を取扱つたものは殆んどなく、地理學的見解は、可成等閑に附されてゐた。

ポーランドに於ける村落居住に關する研究は、ポツナン大學の地理學會に集中され、なほ諸他の大學の學會にも協力するやう懇請し、指導書としては、ドゥマンジョン教授、ル・フェーヴル博士の勞作によつた。ポーランドに於ける村落居住の諸型は、ヨーロッパの他の諸國に於けると同じく、集中、分散、混合の居住樣式であるが、多くの研究の集積から、集中居住の方が優勢ではあるが、分散への進展があるといひ得る。一九三四年のワルソーに於ける會議までに、村落居住の綜合的な地圖の作製は確かである。

結論—村落居住　ドゥマンジョン

村落居住の研究に、國際的協力が行はれてから六年になるが、まだほんの荒削りである。それは、廣汎な複雜なそしていはゞ、萬國的な諸問題を惹き起すからである。村落居住に關して語る時には、人文地理の基本的な章である居住地方の大部分に關して專心する事が必要である。何はともあれ、委員會の事業が喚起した意見の交換、共通した指導的な諸思想は相當の結果を收めた。

村落居住の爲の最良の研究の根抵は「最も貧弱な小部落」及び「孤立家屋」にまで及ぶ詳細な人口調査に存する事である。かゝる統計によつてのみ、居住の集中度合及び分散度合を數的に評價する事が出來るのである。集中と分散といふ語をそれ自體に於て考へると、それらは精確なしかし極端な意味を有つてゐる。卽ち集中は與へられた地域の全居住の集團を意味し、分散は全居住の孤立を意味する。しかし極端な集中と極端な分散との間には、殆んど總ての現實、過渡と推移との諸形態群がある。だから國家の最大多數が、これ等の詳細な統計を作製し、住家

及び居住者の數と共に、あらゆる居住地を數へ上げ事が望ましい。かくして初めて精確且つ具體的な地圖を作成する事が出來る。

しかし、村落居住調査の協力者が、これ等の完全な統計を待つて居たならば、何も實現出來なかつたであらう。賢明な人達は、居住諸型の集中、分散、混合といふ單純な假の分類で滿足した。それ故に我々は、イタリア、スウィス、ルーマニアまたポーランドのやうな一國全體に對しての綜體的な地圖を、我々は彼等に負ふ事が出來る。久しい以前から準備されてゐるベルギーをこゝに附加しやう。もしもヨーロツパに於ける村落居住の國際的地圖を獲得しやうとするならば、此の便利な假の分類に止つてゐやう。

委員會の示唆によつて企てられた數多の研究は、科學的研究の窮極、即ち居住事實の說明は、史的徵證の利用なくしては到達されない。居住の起源は、屬々最も遠い過去に溯る。此の場合、地理學者は史學者によつて裏附けられなければならぬ。

居住學の用語は、まだよく決定されてゐないことは明白であるが、若干の點に一致を見なければならない。

（一）　よき統計に基いた村落居住の地圖を作成する爲には居住者の數を用ふべきか、住家の數を用ふべきか。經濟的單位、農業的單位である一住家が、計算の第一要素たるべきである。

（二）　耕作人の外に、如何なる要素を、村落人口として算すべきか。田舍に居住してゐても、都市に働きに出る工業勞働者は控除されなければならない。しかし、村落社會に所屬する小職人（パン屋・肉屋・宿屋・蹄鐵工等）や、小官吏（小學敎員・牧師達）等は算入されなければならない。

（三）　小部落を如何に定義すべきか。小部落は屬々初期の小集團である。此の場合、小部落は集中居住に屬してゐる。しかし小部落は原始的には孤立せる住家の集合である。此の場合は分散居住に屬する。史的起源の探求のみが各々特殊の場合を解決する事が出來る。

（四）　一つの村落の內部にある住家の諸種の密度を指示する爲に、精密な用語を採用すべきであらう。それには「引き締つてゐる」、「引き締つてゐない」といふ語を用ふべきであらう。

（附記）　一九三一年と一九三四年に於ける二つの會議を見聞した自分の所感からしても、此の國際會議が、逐次的に成長してゐることは事實である。從つてそれに對しての國際的關與が順次組織的になるべき事も亦當然でなければならない。一九三一年の會議の際に開催した「日本人文地理展覽會」に於ける村落竝都市に關する多數の陳列品を始め、自分の「日本の村落居住」に關する幻燈での說明、「村落人口の地域的特質」に就ての報告、また一九三四年の會議の際に陳列した「日本景觀展覽會」に於ける村落居住竝人口に關する寫眞竝地圖が

自分の「日本の過剩人口」に關する報告と、『日本人口密度圖』の配布と相待つて、非常な關心を集めたのに徵すれば、現下の日本の國際的情勢上、此の國際的委員會の創設を好機として、「日本の村落居住人口の諸事實」を通じて、科學的に日本を世界に理解せしむる事は我々地理學徒の責務である。一九三七年の七月パリーに開かれに國際人口會議に關聯して、新に設置された「日本人口問題研究委員會」の組織に鑑みても、我々日本の地理學徒は、此の際、日本村落居住人口委員會を創設して、多岐であつた地理學の研究方法に國內的統制を營む一つの基準を作ると共に、進んで國際的協力に盡すべき事は、目下の緊急事であると思つてゐる。

かゝる見解から、一九三七年九月、自分は、「學術研究會議」（帝國學士院會館內）の地質學地理學部長小川博士宛に「**日本村落居住並人口委員會**」の創設を建議したのであつた。この委員會は出來なかつたが、同會議から一九三八年七月にアムステルダムに開催される國際地理學會議に提出すべき「人口移動の地理的研究」に就ての研究報告の中に、幾分村落居住のことを織込んだ。「地方人口」の中での「**村落居住と人口との關係の一考察**」は、日本の村落居住の研究に寄與すべく試みたものである。此の村落居住の地理學的研究の重要性は、朝鮮・滿洲・北支と我が國との結合的關係を生じた情勢に卽應する學術的研究としても、我が國の地理學界に於て當然着手されなければならない課題である。必要は問題を解決する事になるから、「**東亞の村落居住の研究**」は近き將來には必ず實現されるであらう。

二　人文地理學の發達と日本の現實

一

「他の諸學科の歷史に譬へれば、人文地理學の現在は、リンネの植物學の時期に達したといへる。次ぎの大きな歩みは、是等の諸事實を包括すべき規定たる適切な體系を發見し、又は發達さす事である。」

以上は一九三一年の國際地理學會議の報告に就いての結言（ロンドン『ジオグラヒカル・ジャーナル』一九三一年一二月號所載）で、これは人文地理學の現狀に對して、誰でもが感ずる事である。人文地理學を綜合するが爲には、此の國際地理學會議の中に、これを綜合すべき力强き一部門の新設が要請さるべきである。それには地域主義に基礎附けられた國土計畫に就ての協力的研究の如きも好個の課題であると考へられる。これは國際地理學會議に就てのみいはるゝ事ではなく、各國の人文地理學的研究の方向には勿論、殊に人文地理學の發育の若き我が國には、最も反省されなければならない問題である。我々は、斯學の今後に就て、如何なる問題が中心的位置を占むべきかに就て檢討するに先ちて、こゝに、斯學の發達過程を一瞥する必要がある。

二

人文地理學の萠芽は、已にギリシア時代の哲學者の思索の中に育まれてゐたが、それは近世の科學的發達―十六世紀に於げるドイレ學派（一五〇〇―五〇）に包括されるコロムブスのアメリカ發見、バルボアの太平洋發見、スペイン及びポルトガルの極東への通商航海等―に培はれた地理的思想によつて、地球面上の水陸分布の中世的概念は爲に是正された。十六世紀の前半に於けるドイツは、實に天文地理學並に記載地理學發達の中心であり、またかのセバスチアン・ムンスター（一四八九―一五五二）の名著『コスモグラフィア』の中には、もう地域的基底の上に立つた多くの人文地理的並に政治地理的事實が述べられてゐる。之に次いで起つた十七世紀に於けるフレメシュ學派（一五五〇―一六五〇）に至つては、人文地理學的概念の科學的發達に、更らに明確な基礎附けをなした。例へばメルカトールの世界地圖をはじめ、東インドへの通商、數多の旅行家、宣教師、外交使臣によつての中央アジアに關する知識、殊に宣教師による支那及び西藏の見聞、ロシアのシベリア探險、飜つて南半球への新發見、廣い海洋の航海等、これらによつての地理的知識の集積は、かのベルナード・ヴアレニュース（一六二二―一六五〇）の『ジェオグラフィア・ゼネラレ』によつて系統附けられ、こゝに地理學は體系的に通論と地誌 Chorography に分たれ、所謂人文地理的事實は、此の地誌の一部二部・三部の中の三部として取扱はれた。十七世紀の中頃から十八世紀に亙つての測量と製圖學の發達は、更に地理學的思想を科學的にし、かの哲學者カントの地理學的思索の如きも、また其の時代の所產に外ならない。彼の見解によれば、人文的要素は地理學の主體であつて、彼は地理學を教育的訓練として價値付けた。次いで十九世紀に於ける多くの探險と製圖學とに關する地理學的事實は、こゝに科學的地理學の確立を促し、所謂近代地理學 Modern Geography の曙光は現はれ、それが先驅者としては、アレキサンダー・フォン・フムボルトとカール・リッターによつて代表されるに至つた。

三

近代地理學の建設者といはれるフムボルトは、自然地理學者で、其の研究方法は、諸事實の同格的關係を明かにしたばかりでなく、それらの特質と分布を說明すべき法則を打ち建つべく試みた。之に反してリッターは元來歷史家であつたから、地理學に對する彼の關心は、人類の發展史が如何に自然的環境の上に依存してゐるかを究明する事にあつた。しかし彼の努力の全部は、彼の哲學的背景によつて反つて無效に歸し、環境の犧牲としての人類を重視し、人類と環境との因果的關係を見出す事を試みなかつた。しかし彼の業蹟の中に、近代地理學の鍵を發見し得る事を、我々は閑却してはならない。

此の近代地理學は、其の一部は自然地理學として、他の一部は人文地理學として發達したが、今日我々の最も重

視しなければならない點は、自然的要素と人文的要素の綜合を結晶せしむる地域の概念の發達でなければならない。しかし此の地域の概念を述ぶるに先ち、我々は人文地理學の本質を代表的人格の思想に探ぐる必要がある。

人文地理學の創設に對する前の二人の先驅者に次いで、こゝに顧みらるべきは、ドイツのフリードリッヒ・ラッツェルとフランスのルブレーである。

フリードリッヒ・ラッツェル（一八四四—一九〇四）は、はじめ自然科學—動物學・地質學—を研究し、普佛戰爭後は、ジヤーナリストとして東歐・イタリー・シシリー島から、大西洋を横切つて、合衆國・メキシコ・キュバに渡り、長き旅が彼の「地理學の實在」の認識となつた。而して其の認識がやがて「地理學」に關する著述となり、次いでミュンヘンの工業學校の地理教師となり、後にはライプチッヒ大學に於て、リヒトホーフェンの後を襲つて地理學の講座を有つに至つた。かくして彼の名著『人類地理學』Anthropogeographie は公にされた。此のラッツェルの著述を通して、我々の見逃してならない事は、ダーヴインによつて提唱された有機的進化から生れる新思想の影響である。彼は人類は植物や動物のやうに、環境の產物であり、其の活動、發達、希望は、環境によつてむごくも條件づけられるとした。故に『人類地理學』に祖述された思想は、地球上に發展し分布する人類の生活に對する地球の影響は、嚴肅にして、しかも避くべからざる宿命であるとした。其の名著『政治地理學』Politische Geographie に於ても、彼は國家の發達と組織を支配する自然法則を說明して、人類集團並に社會は常に自然的骨格の限界の中に發達するとした。かくして住民並に國家の地域的集團の法則は說明され、かゝる見解に立つて、島に對する解釋も、植物や動物の特異性をはじめ、其の孤立的存在が民族、言語及び文化の特質、國民的特質及び保守氣質を結果する事を說き、接觸からする擾亂から逃れ得る環境が、輸入された文化的氣風の成熟を可能にし、それが文明の諸要素を創造するとして日本を例示し、過剩人口、農業の集約度にも言及してゐる。「ラッツェルは『人類地理學』に於て人類集團及び人類社會を、彼等の地理學的環境との關係に於て方法論的に研究し、自然と生活の基底に地理學の統一を再組織するに努めた」（ブラーシュ）し、「彼の主なる業績は、人文的要素を地理學に再完成し、それによつて地理學に新しい方向と刺戟を與へた」（ラヴノー）。

フレデリック・ルプレー（一八〇六—八二）は、ヨーロッパの社會的並に經濟的狀態の觀察をなし、以て社會學に於ける新しい研究法を樹立した人で、自然的條件に於ける社會組織の嚴肅な依存に於ける主張をなした事は、ラッツェル學派のそれに類してゐる。而して彼が鑛山並に鑛山學校に於ける奉職の機會は、歐亞に於けるあらゆる社會の社會的狀態を研究する機會を與へ、其の結果『ヨーロッパの勞働者』Ouvriers europées（1855）なる名著が公にされた。彼の社會學への寄與は、一に原始產業—狩獵・牧畜・採鑛・漁獲—の扱方であり、二には場所と勞働と住民の方式の仕上げであつた。かゝる見地から、村落地域の環境の類型は勞働の類型と相關關係にあるとし、勞働の類型は住民の社會組織に依存する事が多いとした。更に彼は「谷の斷面 Valley section の考へ方によつて種

々の自然的環境に於ける場所と勞働と住民の相互依存を具體的に明かにした(拙著『鄉土地理研究』參照)。

彼の此の方法論は、イギリスの社會學者及び地理學者によつても受容れられ、ロンドンのルプレーハウスを中心としてそれが實踐されてゐる事は、私も實見した所である。ルプレーの唱へた方法によつての多くの調査は、數多の專門家によつてなされ、其の結果は、地理學者に基礎的重要性を寄與しつゝある事は前にも述べた。

四

此の人文地理學が地域の概念にまで發展した事は、生物地理學の發達によつて、それが擴充されたのであつて、動物に於ても、また植物に於ても、環境と生態との關係の研究の諸業績が、地理學の地域なる概念の科學的構成に役立つに至つた。

地理學に於て、地域なる概念の最初の表現は、十八世紀に於て、フランスのブーセによつてなされた。此の地域の概念は、十九世紀に於て殊にフランスの人文地理學者ブラーシュと其の學徒によつて實踐され、世界的な其の業績は、今日ソルボンヌ大學及び地理學研究所を中心として全國に普及してゐる。其の後ドイツに於ても、イギリスに於ても地域の研究が行はれ、最近それが世界的な大地域から國內の小地域にまで行はれて來てゐる。全國家と地方との關聯に於ける行政の問題や文化の問題と結び付いて起つた地域主義(レヒョナリズム)運動も、此の地域の概念に結びついた實際問題と解釋さるべき理由がある。また都市計畫が、今日地域計畫から國土計畫にまで進展して來てゐるのも、此の地域の概念が、國策の指導原理にまで滲透して來た事を立證するものである。

『ヨーロッパの歷史地理學』(一九三五年)の著者エーストが、其の結論に於て、

國々の地勢・氣候・國民性・言語・宗教・經濟・人口密度・都市化等の多樣性が、地域的關係から生起することが多いから、此の地域的差異の研究は、地域的分類 Regional Classifications の類型を明かにする近代地理學的研究に待たなければならない。それには地域的分析の意圖が定義的價値を有つ。かくして地域的計畫の實行的效用は已に認められた。

といつてゐるのも、地理學の理論の表現形式たる實踐が何れに向ふべきかを裏書するものである。またアメリカのシカゴ大學のチャールス・コルビーが、其の「アメリカの地理學的思潮の動向」Changing Currents of Geographic thought in America (Annals of the Assoaciation of American Geographers, March, 1936) に於て、地理學が種々の計畫方法に寄與することを述べて、

一、踏査と分類　二、鑑定　三、設計　四、遂行

に就いての幾多の事例を擧げて、國土計畫に於ける地理學的智識の重要性を述べ、地理學者によつてなさるゝ踏査・分類・鑑定を通しての理解が、國土計畫の遂行の準備的工作として、最も價値多き事に言及してゐる。なほ結論

としての「豫言」に於て、

地理學的思想は、過去に於けるよりも將來に於て、より多大な適確さと、深大な滲入をかゝる諸計畫に示すに至るであらう。我々の新しき作業方法は地理學的機能の曙を價値附ける事を確信するのみならず、地理哲學に意味附けられた幾多の研究業績は我々に呼びかけ、かくして地理學の新しき定義と範圍とは、我々が今日保持してゐるより、よりしつかりした位置に我々を引上ぐるであらう。すべて現代の最大の重要性は、地理學的思想が、その作業の科學的志向に質量と强度とを增すことによつて指導するに至る事を期待しつゝある。科學的研究はわれらの豐かな遺產であり、此の科學的研究こそ、地理學者の今日並に將來に於てのはつきりした責務であり、また機會でもある。

といつて、極めて信念に燃えた言說をなしてゐる。以上は、合衆國の二十世紀に於ける地理學的業績を

一、作圖問題
二、土地利用とその分類
三、特定地域の自然狀態の說明的研究
四、十九世紀末に於ける地理學的擴充
五、地理學的思想の交換
六、諸大學に於ける地理學的思想の培養
七、人類地理學
八、歷史地理學
九、經濟地理學
一〇、政治地理學
一一、關係諸科學
一二、定義と範圍
一三、現代地理學思想
一四、計畫の諸型
一五、計畫遂行の局面
一六、豫　言

に分ち、一々事例を擧げて細論した三十六頁（菊判）に亘つた大論文の結言である。かく合衆國の地理學は、がつしりした自然科學的基礎に立脚しながら、社會科學としての其の發展過程を辿つて來てゐる。故に我々は人文地理學の將來に期待されつゝある「諸事實を包括すべき規定たる適切な體系の發見と發達」に寄與する何物かゞかゝる

思想の中に躍動しつゝあることを直感せざるを得ない。

今日、日本の現實殊に東亞に對する地理學的解決は、いろ〳〵の意味から、コルベーの所說の如き期待が地理學者にかけられて來てゐるではないか。それに沿ふ地理學者の心構は、それ〴〵の現在の所與の位置、またそれ〴〵の所說に割據してゐる從來の立場を離れ、大きな新しい目標のために、心からなる協力による新な組織的な研究の運營が意圖されなければならない。かくしてそれが機緣となつて、國家的期待は新に結ばれ、學術と實踐との力强き結合から綜合された地理學體系が、新に生れ出でるのではなからうか。國家非常時といはれる今日、かゝる企圖が、何れかゝらそれが提唱されて然るべきである。

自　跋

あらゆる事象が歷史的過程の所產であるやうに、學徒の業績も常に研究と思索に基く展開たるべきである。われ〳〵は國運の擴大に伴ふ國步の艱難を體驗しつゝある今日、世代から世代に繼承される文化的遺產のよき使徒たり得るが爲に、特に第一線 Pioneer Fringe の認識を深め、それに卽應する寄與を成し遂げなければならない。

顧みれば、わたくしが高師を出でゝ、地理敎育にたづさはつた明治三十年代から四十年代にかけては、日本の地理學は、自然地理的體系を基調としての近代地理學の創建に忙しい時代であつた。當時わたくしは、德川時代史の研究に志し、そのプランを萬朝報の記者であつた內藤湖南先生に尋ねたり、また敎職からの關係上、史學から地理學への轉向に對する惱みを續け、漸く新渡戶先生の『農業本論』に一道の光明を認め得たので、それが聚落地理學の研究への方向を辿つるに至つたことは、當然の成行であつた。

わたくしが、はじめに公にした『我が國土』(大正二・二)は、元來、史學に志したものが、わが地理學界並に地理敎育界を風靡してゐた學風に慊らなかつたためであつた。『都市と村落』(大正三・九)を同志と共に編輯したのも、同じ意圖からであつた。しかし當時は聚落の地理學的研究など、まだ認められず、從つてその賸讀者は殆んどなく、「地人叢書」として出す積りであつた『民族と國民』や『植民』なども、つひに續刊の運に至らなかつた。かくして私學である早稻田の學園の一隅に於て、大正十一年から同十四年まで、十數回に亘つて聚落地理學研究會を開催し、また昭和一年から同二年にかけて、慶應義塾大學で同人と共に雜誌『人文地理』を刊行したが、共に生長を見るに至らなかつた。たゞ同じ學的精神から、明治四十三年の秋に、新渡戶先生に諮つて、諸學者と共に鄕土會を創め、同先生の歿後にも繼續し得たことは、時間的にいつても見逃せない思想の連續であつて、わたくしが、『鄕土研究圖譜村落編』(昭和八・六)を公にしたのもその賜である。大學として早く地理學の講坐を置かれた京都帝國大學に於て、それが史學と併置

自跋

されてゐたために、同じ傾向を有つてゐたわたくしは、大正期にこゝに出入して、小川博士・石橋博士を始め内藤・内田兩博士から啓發される所が少なくはなかつた。

地域の觀察によつて地理學的精神の實證の把握を念願してゐたわたくしは、大正の中頃、知友大倉燮身氏の支援と新渡戸・山崎兩博士の指導によつて、年餘武藏野を踏査し、それをモノグラフィー・ロカールとしての『帝都と近郊』(大正七・一〇)を公刊し得たが、大倉氏と共に意圖した「聚落地理研究所」の計畫は、事故によつて果し得なかつたことは遺憾であつた。

しかし、この小著が世に認められ、大正中期から、東京府・農商務省の調査研究にたつさはるやうになり、齋藤朝鮮總督の時には「部落の調査」の必要を提案し、また昭和三年、内閣人口食糧問題調査會が設置された時には、「人口分布の地域的調査」の必要を提言し、共に容れられて調査を續行し、左の報告書を出すに至つた。

朝鮮部落調査豫察報告 (大正一二・三) 朝鮮總督府
朝鮮部落調査報告 (大正一三・三) 朝鮮總督府
行政區劃別人口基礎調査報告 (昭和五・三) 内閣人口食糧問題調査會
行政區劃別人口狀態圖 (昭和五・三) 内閣人口食糧問題調査會
地域別人口基礎調査報告 (昭和五・三) 内閣人口食糧問題調査會

近年、『日本・風土と生活形態(航空寫眞による人文地理學的研究)』(昭和六・八)と『日本人口密度圖』(昭和九・人口問題研究會)を公にし、昭和十年以降、秋田・茨城・山梨・香川四縣の『綜合鄕土研究』(師範學校)を指導したことは、何れも自已の學的主張の表現に外ならない。(明治節の日)

佟　氏……342
ツンベルグ(Thunberg. C. P.)…76
『帝都と近郊』……409
『地域社會學』……46
『地的環境と人生』……15
『地理學の精神』……299
『地理學及び發見の歷史』……31
『地理學雜誌』……418
『筑紫紀行』……131, 134, 136
『利根川圖誌』……123
『東三省政略』……334
『東行日記』……127
『東洋學藝雜誌』……320, 336

〔U〕

植　木(富山)……266, 277
内田銀藏……114

〔V〕

ヴオッセラー(Vosseler, P.)……458

〔W〕

ワルソー……56, 425, 451
和田清……114
渡瀨理學博士……290
ワットソン(Watson, H.)……386
脇水理學博士……118
『和名抄』……57, 71, 164

〔Y〕

燒　津(靜岡)……5
山梨鄕……213
山梨縣……192, 203, 217, 231
八ケ岳裾野……60, 219, 225
八代海岸……61
安　武……71
大和平野……2, 7, 71, 230
柳澤峠……192
横川扇狀地……58
横　濱……166
吉井川……149
山路愛山……229
吉田東伍博士……85, 114, 123, 125
吉田重房……131
柳澤保惠……243, 420
ヤング(Young, W.)……334
『安田史料』……126
『横濱古繪圖』……166
『山梨縣綜合鄕土研究』……225

『滿洲の治水』……329
『名山の勝景』……118
『南葛飾郡誌』……13

〔N〕

長野縣……203
長田村(茨城)……199
難波の津……72
日本……40, 424. 437
日本群島……24
日川左岸の段丘(山梨)……275
西保村(山梨)……238
新潟縣……203
訥木渾……342
沼田溪谷……142
長久保赤水……129, 131
內藤湖南博士……379, 408
新渡戸稻造博士……26, 29, 259, 410
中川山長……141
永尾龍造……352
『長崎紀行』……129
『浪華の賑』……140
『新渡戸博士文集』……259
『日本書記』……4
『日本地誌略物產辨』……151, 157
『日本の人口研究文獻目錄』……445
『日本歷史地理之研究』……123
『日本人ノ密度圖』……436, 446
『日本海岸地域』……115
『農村研究』(雜誌)……200
『祝詞』……5. 6, 7

〔O〕

姨捨山……8
小田原……74
岡部(山梨)……231
岡山縣……148
オランダ……424, 432
大田(長野)……270, 277
荻野(新潟)……251, 277
尾道……135
折敷地(岐阜)……260, 277
大竹(群馬)……260, 277
大阪……138, 140
太田川……267
鴨綠江……286
岡田武松博士……410
岡崎工學博士……328
小川琢治博士……410
オルミスキー(Ormicki, W.)……434
大類伸博士……76
小寺廉吉……407
大內武次……407
『大湊一覽』……141

〔P〕

パリー……45, 65
パリー盆地……45
パリー市立都市研究學校……68
パリー都市經濟地理歷史協會……45
ポーランド……460, 428, 424. 434, 449
ポッナン大學……460
ポエト(Poête, M.)……45
ポーロースキー(Pawlowsky, S.)……416, 451, 460
ポール・デユピエ(Dupuy, P.)……27

〔R〕

ラヴノー(Raveneau, L.)……469
ラッツエル(Ratzel, F.)……67, 468

賴山陽……123, 126
リッター(Ritter, C.)……467
ルエラン(Ruellan, F.) 405, 410, 412
『遼陽縣古蹟遺聞』……357

〔S〕

佐渡……135
サリスヴァリー平野……49
澤丸(靜岡)……249, 277
篠原(高知)……267, 277
攝津國……151
瀨戸內海地域……51, 116, 127, 168, 442
仙納原(富山)……248, 277
北部支那……422
柴又(南葛飾)……62
菅平高原……48
白子(石川)……255, 277
下岩崎(山梨)……270, 277
下新庄(石川)……251, 277
鹽子(茨城)……253, 277
新義州……315
新市街……386
仁川……313
小豆島……164, 279
スウイス……457
ザウアー(Sauer, C.)……83, 109, 141
センプル(Semple, E.)……15, 111, 117, 120, 363
セバスチアン・ムンスター(Sebastian, M.)……466
シーボン(Seebohm, F.)……149
ストラボー(Strabo.)……39, 42
シユプランガー(Spranger, E.)……82, 85, 107
『社會の環境的基底』……158
『社會學評論』……159
『攝津國名所繪圖』……140
『瀨戸內海權史論』……123
『瀨戸內海航路案內』……120
『瀨戸內海寫生一週』……120
『支那民俗誌』……352
『正倉院文書』……62
『周禮』……339
『聚落と地理』……164

〔T〕

大邱……215, 315
財田川……149
鄭家屯……328
秩父街道……192
天龍川左岸の段丘……274, 277
鎭南浦……314
齊齊哈爾……333, 335, 376
藤助新田(山形)……266, 277
圖們江……286
洮南……349, 354
東海道……162
富山縣……203
東清鐵道の沿線……324
友永(靜岡)……266, 277
東京……181, 186
東北地域……443
敦賀……115
對馬……285
通江口……328
田中阿歌麿子爵……407, 409
田中館秀三……187, 410, 420
田口稔……353, 370, 404, 407, 417
タンスレー(Tansley, A. G.)……103
田中秀作……326

平壤……309
釜山……313
廣島……147, 165
奉天……330, 347
東山梨郡……231, 192
北海道……443
笛吹川扇狀地……192
ヘブリデイス……422
穗高神社……4
火照命……6
火遠命……6
ハーデイ(Herdy, M.)……37
ホイトニー(Whitney, M.)……41
ヘルパッハ(Hellpach, W.)……122
ハーバートソン(Herbertson, A. J.)……42, 86, 104
福田德三博士……64
ホワルス(Howarth, O. J. R.)…110
『播磨巡覽記』……133
『八域誌』……283, 301
『廣島獨案內』……465
『常陸風土記』……59
『北國に於ける農家の生活』……10
『風土記』……127
『風景地理學』……363
『風土形態學』……110
『風土心理學』……122

〔I〕

アイルランド……422
今井(長野)……58
中部印度……422
石塚浮戸(群馬)……256, 277
イタリア……424
一茶……115
石丸學藝課長……410
イエール(De Geer, S.)……416
『イギリス農家の進化』……149
『イギリス田園の保護』……92

〔J〕

ジヤヴァ……423
ジユラ山脈(Jura, M.)……458
十三湯……114
『人文地理』(雜誌)……407
『人文地理』……407
『人類地理學』……409
『人文地理學』(Anthropogeographie)……468
『人類と世界諸民族』……20

〔K〕

香川縣……279
開原……348, 358
開城……293, 307
川崎……3
勝沼……198
川尻(茨城)……271, 277
寒霞溪……118
雁坂峠……192
札蘭屯……317, 322
春日居(山梨)……231
柏原盆地……115
京城……309
慶州……306
木の本扇狀地……58
北朝鮮……288
侯三家子……342, 346
吉林……348, 364
キタイスカヤ街……350, 390
北滿州……365
甲府……181
甲府盆地……217, 231
黑龍江省……319
公主嶺農事試驗場……320
興京……331
葫蘆頭……280
呼倫貝爾……365
渾河……329
黑部川……268
日下部(山梨)……192
カント(Kant, I.)……467
小杉未醒……120
小林政助……24
『科學的地理學』……8
『海瀕之圖』……132
『北支那紀行』……361
『近世歐州の都市的集圖』……64
『コスモグラヒイア』……466
『古事記』……2, 6
『國史概論』……114
『鄉土研究圖譜村落篇』……150
『鄉土地理研究』……470

〔L〕

ロンドン……67
レーマン(Lahmann, O.)……189
ル・プレー(Le Play, P. G.) 86, 469
ル・フエーヴル(Febvre, L.)……451, 459, 417
ロット(Roth. J.)……435

〔M〕

滿洲……317
滿洲里……370
マルセイユ商工會議所……329, 353
松岡(山形)……271, 277
南アメリカ……34, 38
南葛飾郡……13. 61
南朝鮮……288
水戸……72
三富(山梨)……238
三豐郡(香川)……279
木浦……313
宮川の三角洲……270
三日市町(富山)……267
最上川右岸の新田……270
城下町盛岡……416
モストーワヤ街……388
森房(宮城)……270, 277
室津港……160
宗像郡……4
マルトンヌ(Martonne, E.)……44, 190, 405. 412
松井河樂……127, 148
マイヤー(Mayer. G. H.)……150
メルカトール(Mercator, G.)…466
三澤勝衞……48, 60, 413
ミロースキー(Mirosky, J.)……431
ミショット(Michotte, P.)……189, 416, 433, 451
ムーロー博士(Meuriot, P.)……63, 336, 383
ミル(Mill, R.)……104
モンテスキー(Montesquieu, C)……39
ムカージー(Mukerjee, M. A.)……52
ムンフオード(Munford,)……159
『萬葉集』……3, 17

索　引 II

（地名・人名・書誌）

〔A〕

アジア……20
安曇郡……4
安達山脈……323
アルプス地方……47
安治川口……140
安藝國……156
赤石山地……218, 225
アマゾン流域……37, 47
案下部落……176, 177, 445
アンデス山系……47
西部アフリカ……431
北米合衆國……423
旭　川……149
アルバート・コラー(Coller, A.H.) 47
新井白石……21
『アメリカの地理學思潮の動向』471

〔B〕

馬蜂溝……328
馬家溝河……383
ベルギー……424, 433
備前國……153
備中國……154
備後國……155
撫　順……331, 360
文　出（長野）……266, 277
ベーコン(Bacon, F.)……102
バンゼ(Banse, E.)……282, 299
バーカー女史(Barker, W. H.) 103
ボドリヤール(Baudrillart, H.) 150
ベルナード・ヴアレニウス (Bernard, Varenius)……66
ベロック(Belloc, H.)……163
ビアスッチ(Biasutti, R.) 54, 456, 416
ブラーシュ(Blache, P. Vidal) 27, 44, 159, 299, 363, 404, 469
ビヤマン(Bierman)……457
ブランフオード(Branford, V.)…88
ボーマン(Bowman, I.)……189
ブラオン(Brown. W. C.)……86
ブルユーン(Brunkes, J.)……63, 84 94, 167, 299, 363, 404, 469
バックル Buckle, T.)……39
ブーセ (Buche, P)……470

〔C〕

カイロ……56, 396, 427
カルフォルニヤ……38
ケムブリッヂ……56, 393, 427
カルデア……50, 65
長白山脈……323, 326
朝　鮮……281, 301
長　春（新京）……320, 3.0, 348
中國地方……11
中部日本……203
中央平原……319
シヤルトン(Charton, D.)……430
コール(Khole)……382
コルニシ(Cornish, V)……159 363
クロムベー(Crombie. A.) 92, 103
コルビー(Colby, C. C.)……471
クローフオード (Crawford, C. C.)……49
ツェカルスニー(Czekalsné)……451
『朝鮮地誌略』……304
『朝鮮歷史地理』……290
『朝鮮部落調査報告』……291

〔D〕

大菩薩峠……192
大　連……349
大興安嶺……317, 322, 326
ドイツ……424
デナルアルプ山嶽地域……431
道頓堀……136
ドマンヂォン (Demangeon, Albert)……44, 55, 142, 186, 189, 235, 244, 403, 406, 451, 461
ド　ー(De, Greef)……189
ドニッケ(Deniker, J)……20
『大東輿地圖』……283
『ドイツ民族誌』……150
『土壤の進化と分類』……39
『道　路』(The Road)……163

〔E〕

江　戸……77
エヂプト……423
イギリス……424
鹽　山……192
ヨーロッパ……33, 38, 40
エースト(East, G.)……471
『越後史料』……125
『ヨーロッパの歷史地的學』……125
『ヨーロッパの勞働者』(Les Ouviers-Europeens)……469

〔F〕

フランス……45
フアッグ(Fagg, F. G.)……102
フルール(Fleure, H. J.) 104, 416, 428
フランクリン(Franklin, T.)…158
フムボルト(Humboldt. A.)…467
『フランスの農民』……150
『フランスの人文地理』167, 363, 404
『フランスの地理圖繪』……404

〔G〕

蓋馬臺地……288, 292, 294
玄海灘……4
ガンヂス河流域……422
元　山……313
群　山……314
ゲッデス(Geddes, P.)…88, 102, 104
グラス(Gras, N. S. B.)……54
後藤農相……5
玉蘭齋橋本謙……166
『ジオグラフィア・ゼネラレ』……466

〔H〕

袴　谷（宮崎）……248, 275
海拉爾……365
哈爾濱……320, 337, 349, 382
舊哈爾濱……383
播磨國……153
花　栗（島根）……261, 277
飯　能……71, 99
濱　松……79
八王子……99, 177, 181, 186

社會階級の血緣村落 ……291
社會的結合の地理的基礎 ……187
社會進化の法則 ……159

〔T〕

田場所 ……248, 269
旅人の行手の目標 ……354
宅地の利用度 ……252
大陸氣候 ……321
定住村落經濟 ……49, 54
定期市 ……294
問屋の機能 ……135
統計的研究 ……399
統計數字の解釋 ……251
鳥飼の趣味 ……358
都市 ……62
都市經濟 ……64
都市化 ……82
都市の進展性 ……357
都市の位置 ……383
都市地理 ……293
都市の記述 ……311
都市科學 ……68
都市の研究方法 ……96
都市人口の測定 ……96
都市の人口階級 ……95
都市の最小單位 ……94
都市の濃度 ……95
都市的凝集 ……394
都市の古さ ……355
都市の生ひ立つた核 ……354
都市生活としての風景 ……362
都市集團の社會性 ……160
都鄙社會 ……82
土地利用 ……171
土地利用圖 ……262
土地利用度 ……251, 262
土地利用と土地所有の推移 ……182
土地利用にあらはれた地域性 214
土地と勞働と住民 ……86
地域 ……217, 221
小地域 ……211, 216
地域の概念 ……468
地域的實在 ……83, 110
地域主義 ……316, 470
地域性 ……217
地域的特質 ……317
地域的組織 ……187
地域の地理學的基礎 ……98
地積に即した史的過程の究明 …124
地域の風土的特性 ……282
地域の社會的過程 ……158
地域的進化 ……158
地域の退化と進化 ……162
地域的文化現象 ……158
地域的連帶觀念 ……80
地域に關する認識と其の應用 ……99
地域と其の活用の法制化 ……99
地域計畫 ……100
地域的集團 ……191
地域的都市 ……65
地域的花暦學 ……116
地域調査運動の歴史 ……102
地域地理研究の將來 ……105
地理學者李重煥 ……283, 301
地理的因子 ……111
地理的環境の諸影響 ……111
地理學的解決 ……474
地理學的方法 ……187
地理學的思潮 ……472

地理學的思潮の培養 ……472
地理學史 ……427
地的渾一 ……141
地誌學的研究方法 ……101
地方人口の研究單位 ……217
地圖的研究 ……898
地圖展覽會 ……448

〔U〕

運河構造 ……50

〔W〕

倭寇 ……4, 6, 17
ワルソー國際地理學會議 ……427

〔Y〕

燒畑 ……221
横濱の古繪圖 ……166
用水路 ……148
遊牧的な色彩 ……367
有畜農業に伴ふ習慣 ……350
邑内 ……303

蒙古包……369

〔N〕

長き知的協力の結果……103
熱帶の諸地域……394
楡の古木……349, 354, 381
人間が自然から受けた影響の量……299
日本海を環れる地域……115
日本海の交通關係……114
日本の村落……57
日本の都市……70
日本の都市計畫……98
日本民族の人種的構成……20
日本山村部落の生產形態……265
日本人文地理展覽會……404, 411, 463
日本景觀展覽會……188, 446, 463
日本の過剩人口の地理的研究……437
日本の人文地理的特質……406
日本人の商業……344
農村生活……6, 7
農業の集約さ……356
農業的單一である一農家……463
農村共同體……202
農村文化の複雜性……251
農村社會誌學……202
農村人口の包容力……226
農家の居住型……270
農家一戸當の人口支持力……271
農牧遊動經濟……53
道路が街路になつた形態……335

〔O〕

オランダは過剩人口か……423

〔P〕

パリー盆地……45
パリー國際地理學會議……393, 410, 419
ポーランドの過剩人口の調査報告……434
ポーランドの移民の考察……435

〔R〕

歷史地理學……168, 395
歷史的研究と地理的研究の協働……126
リージョナル・サーヴェー……45
リージョナリズム……470
陸と海との過渡地帶……121
陸路と水路との接合過程……330, 335
臨地觀察……171
裡　里……293
ロシヤ民族……385
ロシヤの勢力扶植……368
露支國境の標識……375

〔S〕

砂漠性……366
作　圖……171
產業の生產過程……183
諸產業の地方的分布……394
扇狀地……58
瀨戸內海地域……116
瀨戸內海地域の農業形態……148
瀨戸內海地域の都市的集團……144
瀨戸內海地域の產業……157
瀨戸內海の港市……135, 160
祖先の瀨戸內海觀——景觀……127
〃　——航海……133

祖先の瀨戸內海觀——港……133
生活形態……337
生活體驗……2
生活資料……3
生活環境への順應……340
生活環境と居住環境の原型……346
生活の滲み出てゐる風景……364
生活環境の地域的差異……221
生活資源……246
青年層人口……214, 228
青年體力調査……245
生產組織……216
生產する勞働方法……172
仕事場……280
島國日本……1
島國性……15
島國的な特徵……9
支那人の生活……358
支那人の經濟的活動……372
支那民族の經濟的潮流……295
森林分布圖……222
森林地域……318, 322
森林資源……179
森林資源の利用の變化……181
浸透作用……51
散　村……54
集　村……55
小部落……463
村落の地理的意義……58
村落の研究方法……90
村落居住……397, 452
村落居住の諸型……244
村落居住——自然的及人間的關係……459
村落居住——結　論……461
スウィスの村落居住……458
村落居住委員會……451, 454
村落居住並人口委員會……396
村落居住委員會報告書……455
村落人口……463
村落立地の風土的差異……263
村落の分化……63
村落共同體……176
村落社會の心理……174
村落社會の組織・活動及び傾向……169
村落社會の立地的意義……170
村落社會の結婚年齡と通婚地域……194
村落青年の離村……197
村落と地方共同體……186
村落社會政策……278
村落の住家の密度……463
村落團體の地域的展開と其の機能……90
村落的集團の密集型……142
村落の風景計畫と田園調査……93
新田開發……13
裾　野……60
垂直的限界……47
攝津國物產……151
自然的風土……110, 117
素朴なる柵……364
小兒の遊戲……368
松花江流域……332
植物社會……32
植物社會の生態……32
植物帶……176
祖先の鄉土觀……127
小豆島の古い道路の位置……164
社會經濟的環境……272

原始的村落共同體 ……187
現住人口の增加傾向 ……206
現實日本の地理學的解決 ……474
50 年間の人口移動……182
五部落と氣風 ……193
行　商 ……220, 303

〔H〕

海拉爾の景觀 ……366
配電區域 ……224
播磨國物產 ……153
哈爾濱の地域的特質 ……382
變移地域 ……286, 281
非農業地域 ……334
廣島の古圖 ……166
百　晌 ……341
北滿產業地域圖 ……365
複合的渾一……42
古い井戸 ……362
ふる道 ……163, 164
埠　頭 ……388
標準實驗地の設定 ……278
風　土……83, 109, 111
風土形態學 ……110
風土的特質 ……112
風土的特性 ……285
風土的特質としての瀨戸內海地域 ……117
風景の調和 ……159
風土と農業 ……211

〔I〕

市 ……294
市　場……62
イタリアの村落建造物 ……456
田舍道 ……162
移出入人口の超過傾向 ……207
移住者の先驅 ……147
移住民の動向……11
圍繞地域 ……212
一戸當居間數の廣狹別利用率 …255
居間の廣狹と農山村居住との相關關係 ……254

〔J〕

善政碑 ……304
城下町の構成……75
城市の主要街 ……367
人　口 ……453
人口移動…… 145, 203, 216
人口移動の地域的差異 203, 210, 215
人口の季節的移動 ……146
人口移動の要因 ……214
人口の全國的移動 ……146
人口の量と質 ……222
人口の地域性 ……225
人口の自然增加 ……204
人口の分散的凝集……82
人口密度の提示方法 ……395
人口の諸事實と居住の諸事實 …452
人口問題研究會 ……420
人文地理 ……394
十九世紀の人文地理學 ……158
人文地理學の現在 ……418
人文的風土 ……110
人文的風土としての瀨戸內海地域 ……123
十　晌 ……341
人類經驗 ……125
人類史に於ける寬容の位置……26
人種的優越性……24

〔K〕

火田民 ……292
火田部落 ……302
花曆學 ……116
街　道 ……162
海洋的景觀 ……3
隔離性……17
乾燥地域 ……317
河運と航運 ……327
關帝廟 ……342
窩　棚 ……341
河港葫蘆頭 ……380
寡雨の諸地域 ……395
家族の觀察 ……171
科學的鄉土學研究會 ……107
河の港灣廣島 ……165
河川處理 ……395
解說的研究 ……400
過剩人口 ……419
過剩人口の主要なる諸型 ……422
過剩人口に關する諸觀點 ……424
過剩人口の行方 ……185
過剩人口の地理學的研究 ……419
過剩人口委員會 ……429
過剩人口委員會の立てた計畫案 421
計畫の諸型 ……473
血緣的集團 ……191
經濟生活の變遷過程 ……182
近代地理學 ……467
近代地理學的技術……83
氣象區域 ……115
國際學校 ……27
國際地理學會議 ……416, 427, 451
國際的自覺……29
國家社會機構の基底 ……275
國家社會の根幹としての村落社會 ……278
交通の可能度 ……327
交通と文化關係 ……335
交通性……17
港市大阪 ……140
甲府盆地の地域性 ……217
居住景觀 ……184
居住度 ……267
居住條件 ……400
鄉土社會の流動性 ……192
鄉土的感情 ……191
鄉土地理の研究 ……168
鄉土學 ……107
鄉土と民族性 ……107
鄉土的文獻 ……85

〔L〕

ル・プレー學派 ……86
ル・プレーの教養時代 ……87
ル・プレー・ハウス ……101

〔M〕

滿洲の風土と生活形態 ……317
滿洲民族固有の建築 ……379
滿洲旗人 ……378
民族性……16
民族的特質 ……293
民族的色彩 ……347
民族的交流 ……339, 345
民族的交流地域 ……281, 339. 351
民族と國家 ……351
水主町 ……165

昭和十三年十一月十三日印刷
昭和十三年十一月十八日發行

【定價四圓五拾錢】
外地 定價四圓九拾五錢

風土日本の研究基準

著者 小田内通敏
發行者 豐田勇 東京市麹町區九段四丁目八番地
印刷者 石上文七郎 東京市芝區西久保巴町五〇番地

御申込次第
新目錄贈呈

發行所 東京市麹町區九段四丁目八番地
叢文閣
振替東京四二八八九番
電話九段(33)二五六八番

大取次 (東京)東京堂・栗田書店・大阪屋號(名古屋)川瀨書店(大阪)柳原書店(九州)金文堂

索引 1

(術語その他)

〔A〕

安藝國物產……156
海人部……4
新なる居住地區……358
案下部落の土地利用圖……180

〔B〕

ベルギーは過剩人口か……433
備前國物產……153
備中國物產……153
備後國物產……155
牧畜する家構……372, 374
防備としての堡……360
部落中心主義……202
部落の生活形態……174
部落の觀察方法……173
部落の生產力と人口支持力……262
部落民の土地所有關係……173
文化の移動線……335
文明の風景……159
文獻と生活の兩面……85

〔C〕

茶館……359
朝鮮固有の都市……303, 306
北朝鮮と南朝鮮……288
中間地帶としての海岸……121
鳥瞰圖……141
中心都市の求心的威力……81

〔D〕

臺地……59
大都市の發生過程……382
大都市經濟……66
大都市の近郊……80
大都市星座……82
段丘……49, 275
デナルアルプ山嶽地域の過剩人口……341
道路分布圖……221
道路概論……163
動植物生態……218
同型部落……175
ドイレ學派……466
ドイツの「居住事業」……108
土壤の類型……39

〔E〕

江戸……77
沿海平野……60
エスキモー人……52
イギリスの田園生活の動き……92

〔F〕

フランス學派……407
フレメシュ學派……466

〔G〕

街村としての機能……248
現代日本の大都市……79
現住人口の地域的差異……207

農業關係書目

青鹿四郎著	農業經濟地理	定價	三圓五十錢
		送料	二十二錢
宮坂梧朗著	畜産經濟地理	定價	二圓五十錢
		送料	二十二錢
林博 市河三祿著	林業經濟地理	定價	二圓五十錢
		送料	二十二錢
農博 石坂橋樹著	農業金融論	定價	二圓
		送料	十四錢
農博 石坂橋樹著	農政學要論	定價	四圓
		送料	二十四錢
農博 石坂橋樹著	農業法律要綱	定價	四圓五十錢
		送料	二十四錢
西田孝太郎著	農産物加工論	定價	五十錢
		送料	二錢
農博 關谷文彦著	樹木の外科手術	定價	一圓五十錢
		送料	十四錢
我妻東策著	農村産業機構史	定價	三圓五十錢
		送料	二十二錢

756
146

13年 11月 30日 270